

令和3年度

教科の指導計画と評価規準
&
6年間の学習計画



東京都立三鷹中等教育学校

後期課程

目 次

目次	1
学習に向けての心構え	3
国語科	4
地理歴史・公民科	7
数学科	10
理 科	11
芸術科	12
保健体育科	15
情報科	16
家庭科	17
英語科	18
日課表・週時程表	19
年間の指導計画と評価基準	21
国語科	22
文化科学Ⅲ	30
地理歴史・公民科	31
文化科学Ⅱ	44
数学科	45
理 科	56
芸術科	67
保健体育科	71
情報科	76
家庭科	78
英語科	79
文化科学Ⅳ	86
総合的な探究の時間	87
図書館・保健室より	90
図書室から	91
保健室から	92
6年間の学習計画	94
国語科	95
社会・地理歴史・公民科	96
数学科	97
理 科	100
音楽科	102
美術科	103
書写・書道	104
保健体育科	105
技術・家庭・情報科	106
英語科	107
総合的な学習の時間	111
道徳	112
キャリア教育	113
道徳教育全体計画	114
特別活動全体計画	115
食に関する指導の全体計画	116
学校安全計画全体計画	117

学習に向けての心構え 〈後期課程〉

国語

4年で履修する「国語総合」(5単位)には「現代文」と「古典」があり、「古典」では古文と漢文を学ぶ。5年では「現代文B」(2単位)と「古典B」(2単位)を履修する。6年では「現代文B」(2単位)を履修し、この他に自由選択科目として「現代文演習」「古典B」等がある。

I 現代文

君たちは、言葉というものをどれだけ大切にしているだろうか。人間は、成長する中で、言葉を自然に身につけ、当たり前のように使っているが、「言葉」というものについて、考えてみたことがあるだろうか。

生後1年半で視覚と聴覚を失ったヘレン・ケラーが、初めて、ものには全て名前があると知った時の感動は、人間にとって言葉がどれほど意味の大きいものであるかを教えてくれる。

彼女は、自分の手に流れる冷たいものが「water」と名づけられており、全てのものには名前があるのだと、7歳近くになってから初めて、啓示を受けるように理解した。この時のこのことを、彼女は後に、「手に触れるあらゆるものが、生命をもって躍動しているように感じ始めた」と書いている。彼女はまた、その感動的な言葉との出会いのすぐ後に、自分が人形を床にたたきつけてこわしてしまったことに対して、「生まれて初めて、後悔と悲哀に胸を刺された」と記している。

ヘレン・ケラーは、ものには名前があるのだと知ることにより、一人の人間として、ものに関わることが出来、世界を見始めたのである。このことは、人間と言葉との最も奥深い関係を表しているだろう。

ところで、言葉には、具体的な事物を表すものと、抽象的な事物の様態、関係を表すものがある。具体的内容を示す言葉は、経験が教えてくれる中で、必要に応じて学んでいけばよいものである。抽象的内容を示す言葉も、経験が教えてくれるものであるが、その語彙の豊かさは、その人間の思索の深さと大きく関わっている。人間や社会、その他あらゆることについての思考は、抽象的概念を表す言葉を駆使することによって行われる。深い思考には、それに対応できる豊かな語彙が準備されていなければならない。「かわいい」、「かっこいい」だけでは深い思考に至らない。そういう類いの語彙だけで済ます日常からは、自分の考えが要求される場面でも「わからない」、「なんとなく」式のことしか言えない。

国語、特に現代文は、端的に言うとも、言葉について、そして思索することについて学ぶ科目である。多くは、それをすぐれた文章で読むことによって行うのだが、それは、一人の人間の深い思索の結晶として、また、一人の人間の豊かな内面世界を表現したものとして、高い評価を見出し得るものである。現代文という科目の最大の目標は、そのような文章に接することにより、それぞれが、自分自身の精神世界を切り拓いていくことにあると言える。

また、表現することについて学ぶことも、心に留め置いてほしい。表現すること、すなわち、書くこと、話すことは、物事に対する認識を深め、思考を確かなものとする。また、多様なものの見方を知ることにもなる。そういう意味で、表現することについて学ぶことは、高校での学習の大きな目標となっている。

(1) 家庭での学習について

まず、文章を読み、わからない部分に印をつけるか、ノートに抜き出すかしておく。不確かな言葉は辞書で引き、その文章での意味を確かめる（辞書を引いただけではわからないものは、授業で質問する）。書けない漢字を練習する。

以上が、事前に家庭学習でやっておくべきことである。授業では、文章読解をする上で重要な語句、文について確かめつつ、全体の構成、主題、表現の特徴などを把握していく。読解を深めるためには、作者や、時代背景について調べたり、他の文章を合わせて読んだりすることなどを必要に応じて行う。また、意見や感想を述べあったり、感想文等、文章を書いたりすることも適宜行っていく。

(2) 文章を理解するために

文章は、表面的になぞるだけでは真の理解には至らない。1.「学習について」でも述べたように、文章は一人の人間の深い思索の結晶、豊かな内面世界の表現である。だから文章を真に理解する（詩などの場合は、感動と言うべきだろうが）ということは、作者の人間性にまで触れることである。

このことは読む側にも、一人の人間として文章に向き合うことを要求する。そして、そのように文章に向き合う姿勢が、己の内面—認識や心情—を豊かなものにしていくのである。

この、内面を豊かにしていくということが、現代文の目標として最大のものであるのだが、それには、教科書の文章を読むだけではおぼつかない。さらに多くのものを進んで読むことが大切である。読書は、書かれた内容から何かを受けとるだけのものでなく、流されがちな日常の中で、立ち止まってじっくり物事を考える姿勢を、自然に培ってくれるものである。これは社会で自立した人間として生きるための、基本となるものである。

(3) 読書をしよう

国語の学力は、大いに本を読むこと、日常の中で物事を深く考える姿勢を持つことにかかっていると言える。読んだり考えたりすることを敬遠しないでほしい。読書は語彙を豊かにしてくれるものである。読んだ作品について語り合うことに楽しさを見出すこともあるだろう。また、作品を通じて新しい世界に触れる新鮮な感動もあるだろう。そのような中に、停滞している自分を鼓舞し、勇気づけてくれる、生涯のつき合いともなるような作品との出会いがあるかもしれない。

II 古 典

亀井勝一郎は『大和古寺風物誌』で、「古寺の美しさは、それは荒廃のまま、まさに崩れんとしてゆくところにあるといふのは真実だ。荒廃を悲しむ心は誰にでもある。保存や再建を思ふのは当然であらう。だが、それに手を加へることの重大さを我々はいち忘れやすい。……風情を失はずに何げなく保存するには篤い信仰と繊細な心が必要なのだが、さういふ心は今ほどだえがちである。これは当今すべての古典の扱ひ方についても言ひうることはなからうか。」と述べている。荒廃する造形美術と同じように、古典文学も篤い信仰と繊細な心がなければいつかは滅び去ってしまう。私たちが何百年、いや何千年の長い歴史の精選に耐え、生き残ってきた古典を正しく受けとめ、その滋味を吸収していくことは、個人の内面世界をより豊かなものにしていくと同時に、明日の文化創造にもつながっていくだろう。私たちが古典を学習する意義はそこにあるといえる。

高校の『古典』は、上のような目標のもとに、中国四千年の歴史から生み出された作品群あるいは、我が国の万葉の時代から江戸時代までに生まれた数限りない古文の中から、今なお人々に愛好されるすぐれた古典（古い文献であると同時に、現代に至るまで脈脈と生命を保ちつづけ、後世の私たちに規範となるような典籍）を学ぶのである。

中国の古典（漢文）を学ぶのは、それが他の外国の古典と違って、長い歴史を通して私たち日本人に滋養を与えつづけているからなのである。つまり、文字をもたなかった日本人が、漢字を輸入して以来、中国の典籍は日本人の中で消化され、思想や心情に大きな影響を与えてきたものなのである。

（１）古典の学習について

『古典』の学習は、『現代文』と異なって、私たちとの間に千年からの時間の壁が立ちふさがっている。そこには、現代とは違った語彙・語法、あるいは風俗・習慣・制度・思想などがある。だから、現代からの距離を測定してかからないと、思わぬ誤解を招くことがある。たとえば、仮名遣い一つとっても「きょう」は「けふ」だし、「句う」は「にほふ」といったぐあいである。もちろん、言葉の意味も違うものも多くある。「おどろく」が＜目をさます＞の意味だったり、「うつくし」が＜かわいらしい＞だったりする。文法も違う。現代語の動詞の活用は五種類であるが、古文では九種類もある。さらに、「係り結びの法則」などというものもある。しかし古典の主要語が現代語にどのくらい残存しているかの調査によれば助動詞は二割であるが、自立語は八割、付属語の助詞は五割におよんでいる。このように、決して現代文と古文とは異質の言語で書かれた、異質なものではないのである。

（２）理解を深めるために

古典を豊かに理解するためには、解釈力の充実が大切である。その解釈力を正しく、効果的に伸ばすためには、三つのこと＜①古語の知識、②古典文法の知識、③有職故実（ゆうそくこじつ）と文学史の知識＞を身につける必要がある。そして、古語を調べ、文法を武器として、構文を理解し、有職故実の知識で裏打ちして、古文を解釈していくようにする。

具体的には、語句の意味を辞書で調べ、文章のおおまかな意味を考える予習をした上で授業に臨み、それを授業の場で確かめるといった学習法をとりたい。さらに教材は、解釈力を養うためのものであり、古典の世界への窓に過ぎないので、進んで、古典文学作品を原文で通読するように心がけてほしい。

（３）漢文について

漢文という外国語を、どのように日本語に直して読むのか。それには「訓読」の基礎的なルールをしっかりと覚えることが大切である。『漢和辞典』をひき、漢語の解字や意味を確実にするとともに、その言語的な特徴をよく理解して、初歩の段階では、返り点・送り仮名・置き字・再読文字・助字などの基礎をしっかりと固めよう。それから、重要な句法を身につけていくようにしていこう。

しかし、漢文を読解するためには、それだけでは十分でない。古文の学習や、日常の読書などを通して語彙を増やし、歴史や地理などの背景を知ることによって、より深い理解へつながる。漢文読解力とは、さまざまな分野の総合力なのである。

「難しそうだから…」とって、はじめからあきらめないでほしい。君たちの世界は、まだまだ広がる可能性をもっているのだから。

地理歴史・公民

ますます複雑になっていくこの社会をどうとらえるかは、これから社会に出て、どう生きていくかを考えていく上で、その基礎となる重要なことですが、単純に答えの出るものではなく、なかなか厄介な仕事です。だからいろいろな角度から、いろいろな方法で学んでいくことによって、社会についての認識をより確かな、より深いものにしていくことが必要です。そのような考え方に立って、本校の後期課程では、「地理」（４年）、「倫理」（４年）、「日本史」（５年）、「世界史」（５年）、「政治・経済」（６年）の５科目、および学校設定科目「文化科学Ⅱ（公民）」（４年）を必修にしています。

1 地理

世界の人々は、それぞれの地域で、さまざまな自然環境と社会環境の中で、他の地域と関連をもちながら、特色ある生活をしています。地理学習のねらいは、このような人間生活の地域的特色を正しく理解し、広い視野と国際協調の精神を養うところにあります。さらに、かけがえのない自然を愛し、資源を有効に利用し、生活環境を整備する必要性を理解することです。

授業は講義形式で行うほか、レポートの作成や発表学習、地図の作業学習や視聴覚教材による学習などをとり入れて行う場合もあります。

「地理」を学習するにあたっては、次の①～⑥に留意してください。

- ① 各国（地域）の特殊性を他の国（地域）と比較しながら明らかにしていくとともに、全世界に共通するものを見きわめること。
- ② 地形や気候を学習するときは、その地域の産業や衣食住などのかかわり合いについても理解すること。
- ③ 人間生活を学習するときは、その国の人々の考え方や地域が抱えている問題点についても理解すること。
- ④ 「地理」の学習内容は、歴史・公民をはじめ、理科・家庭科など他の教科とも密接な関連を持っているので、教科の枠にとらわれず、他の教科の内容も参考にすること。
- ⑤ 地理的なものの見方や考え方を養うためにも、地図帳や統計などを積極的に利用する習慣を身につけること。
- ⑥ 「地理」の教材は学習書ばかりでなく、新聞・テレビ・図書・インターネットなど、私たちの日常生活のまわりにはたくさんあるので、進んで利用すること。

2 倫理

私たちが生活する現代の社会には、生命や人間とは何か、人間はどのように生きていくべきなのか、他者や社会とどうかかわっていくかなど、さまざまな倫理的課題があります。それらの課題にこたえるためには、哲学や宗教、思想など先人の知的な営みを知る必要があります。将来、社会の担い手となる皆さんは、青年期とよばれるこの時期に、先人の知的な営みをたどり、倫理的課題を自らの問題として考える必要があります。

本校では、「倫理」を4年生において、週2時間（2単位）で履修することになっています。授業では時事的な話題も織り交ぜるので、現実の諸課題をとらえて望ましい解決の在り方について主体的に考察してもらえればと思います。活発に意見を出し合い、公正に判断する能力や健全な批判力をつけていきましょう。

では、実際に「倫理」を学習する上で留意すべき点を挙げておきます。

- ① 現代の社会においては、さまざまな事象が複雑に関連し合っているため、広い視野に立って多面的・多角的に考察すること。
- ② 「倫理」の学習内容は、地理、世界史、日本史、政治経済、文化科学Ⅱなど他の科目とも密接な関連をもっています。科目の枠にとらわれず、他の科目の内容も参考にすることが大切です。
- ③ 「倫理」の教材は学習書だけではなく、新聞・テレビ・図書など、私たちの日常生活のまわりにはたくさんあるので、進んで利用することを薦めます。

3 文化科学Ⅱ（公民）

この科目は本校独自の科目です。個人の尊厳や法の支配など、憲法及び法の基本原理を理解し、自由で公正な社会の担い手としての資質・能力の基礎を学びます。特に、将来社会的リーダーとして活躍するのに必要な法的思考力の養成に重点を置きます。そして学習を通して法律的なものの見方や考え方を習得していきます。

授業は、「法と法学」、「日本国憲法と立憲主義」、「法的思考力の養成」を柱にして進めていきます。日常生活の中で私たちが法とどのようにかかわり、どのような利益を受け、守られているのか。人間社会になぜ法が必要なのか。法の生成の源・基本概念・しくみはどのようなものか。「法と法学」ではこのようなことを考え、学んでいきます。「日本国憲法と立憲主義」では、前期課程の公民的分野の政治学習を踏まえて、比較憲法史や憲法の一般理論などの成果を踏まえつつ、現行の日本国憲法が定めている統治構造と権利保障について、主要な論点を取り上げながら検討を加えることを通して、憲法に対する理解を深めていきます。「法的思考力の養成」では、学習したことをもとにディベートや小論文の作成を通し、法を利用して議論し相手を説得する力、相手の説明が納得できるなら説得を受け入れ合意形成を図る力といった、基礎的な法的思考方法（ベーシックリーガルマインド）を身に付けることをめざします。このほか、模擬裁判員体験や、外部講師として弁護士の方などを招いてお話を聞く機会を設けるので、それらを通じても法的なものの見方や考え方の基本を習得していきます。

4 世界史・日本史 これから歴史を学ぼうとする諸君へ

今、為すべきこと。それは本を読むという至極ありふれた行為です。授業をしていていつも感じるのですが、残念ながら君たちは余りにも基本的な知識を持ち合わせていないのです。この状態では、人類の英知の結晶である歴史から何かを学びとることは、少し難しいかもしれませんが。今からでも遅くありません、決して遠回りではありません。読書にもっと積極的に取り組んでみて下さい。そしてあらゆる分野のことに興味を持つのです。そうしている内に興味の対象が絞られ、そのことに関する周辺の知識をもっと深く、より幅広く得たいと考えるようになるはず。そこまでいってはじめて、俯瞰的に全体を見渡す「歴史のものの見方」が価値を持つてくるのだと思うのです。興味の持てる本を読

み、同時並行的に歴史の授業を受け、自分の中で考えを深めていく。そして現在進行形の今の社会についても興味を持つと、より一層歴史が生きてくるのではないのでしょうか。

歴史は人間が創造するものです。人間が行うことですので、成功もあれば失敗もあります。ただ忘れてはならないことは、過去に生きた人たちの懸命な努力があったからこそ今の社会があることを知ってほしいのです。今当たり前に享受している事柄が、過去はどうだったのかということをしっかり勉強し見つめてほしいものです。現在と過去との対話は未来につながっていくものです。

5年生の世界史は、大航海時代からの19世紀中頃までの世界の歴史を学習します。5年生の日本史は、開国と幕末の動乱以降の近・現代史を学習します。

5 政治経済

政治・経済は、社会を政治と経済という視点から読み解こうとする科目です。日本史や世界史が歴史という縦軸を用いて現代までの道のりを分析しようとするものなら、政治・経済は、日本社会から国際社会へと横へ視線を広げていくことを目的とします。もちろん、民主政治の基本原理や各国の政治体制については、歴史的な視点も必要になりますが、なぜ、国民主権が民主政治の基本原理なのか、なぜ、アメリカの大統領選挙は間接選挙なのか、というように、現在を「なぜ」と問うていくことが授業の中心になります。日本国憲法は、日本の政治を読み解く上で欠くことのできないものです。日本国憲法を完全に理解し、公民的な資質を習得することをめざします。

経済もまた、現代を理解する重要なファクターです。資本主義経済のシステムを理解し、経済の健全な運営と富の公正な配分を考えなければ、社会の進むべき方向性は見えてきません。さらに、グローバル化した現代、各国の経済は密接に結びつき、世界経済の動向を抜きに一国の経済を考えることはできません。経済分野も日本経済の学習を基礎に、世界へと視点を広げていくことが大切です。

政治・経済は、まさに、いま、動いている時代を対象とします。従って、新聞やニュースなど、現実の出来事をキャッチすることも必要です。基礎的な知識を習得し、それを使って、いま世界で起きていることを理解することを目標とします。

数 学

後期課程では、数学Ⅰ（3）、数学Ⅱ（4）、数学Ⅲ（6）、数学A（2）、数学B（2）の5科目（数字は単位数）を学習します。4年生では数学Ⅰ、数学A、5年生で数学Ⅱと数学Bを全員が学習します。特に関数に関する内容が増え、3次以上の関数、三角関数、指数関数、対数関数が新たに加わります。前期課程で学習した関数の内容についてしっかり定着させておきましょう。

6年生では進路希望に応じて、数学Ⅲや共通テスト、個別入試に向けた科目を選択して学習します。したがって、将来学びたいことや進路希望をよく考えた上で、自分に必要な科目を選択することになります。自分の進路については、保護者の方や担任の先生とよく相談して考えてください。なお、入試に必要な科目はそれぞれの分野によって異なる上、年度ごとに入試科目が変更される可能性もありますから、必ず自分で調べるようにしてください。

皆さんは小学生の時からいろいろな数について学んできました。ものを数える**自然数**（natural number）から始めて、**小数、分数などの有理数**（rational number）、そして前期課程では負の数や π 、 $\sqrt{2}$ 、 $\sqrt{3}$ 、…などの**無理数**（irrational number）も学びました。これまで学んできた数を全部あわせて**実数**（real number）といいます。

ここで、 x を1つの実数とします。 $x^2 = 1$ を満たす x は2乗して1になる数ですから、答えは $x = \pm 1$ です。この事から分かる様に、実数 x は正の数であっても負の数であっても、2乗すると必ず0以上の数になります。任意の実数 x について $x^2 \geq 0$ であることは、とても大切な実数の性質です。

では、 $x^2 = -1$ を満たす x はどんな数でしょうか。実数の性質を考えてみれば、このような数は実数の中には存在しないことが分かります。ですから、「そのような数は無い」と言ってしまえば、話は終わってしまいますが、仮に「**そのような数があるとしたら**」と考えたらどうでしょうか？物事を考える時、このような柔軟な発想がとても大切です。

そこで、「2乗して-1になる数を新しく作ってみよう」と考えた数学者が現れました。

彼らは、2乗すると-1になる数を i （虚数単位、 $i^2 = -1$ を満たす数）と表し、その数 i を用いて**虚数**（imaginary number）という数を作り出し、実数と合わせて**複素数**（complex number）という新しい数へと発展させていきました。これらの数については、後期課程で学びますが、この複素数は、数学だけに限らず自然科学や工学の分野を大きく発展させたと評価されています。

数学の学習において、皆さんは複雑な計算をしたり、いろいろな場合を考えたりするのを嫌がっていませんか。答えだけに執着し、答が求められるまでの過程やその問題の本質を理解しようとしないう人が多くなっているように思えます。確かに現代社会では、合理的であることが重要視されますが、
[合理的] ⇒ [簡単に片付ける] ⇒ [面倒なことはいらない] ということではないと思います。

今まで、腰を据えてじっくりと一つのことにとこだわって考えたことはありますか。なぜなのか、どうしてなのか、ということをよく考えない学習は、本当の意味での学習ではありません。後期課程における学習では、物事をじっくりと考える姿勢がさらに強く求められます。

学校で学習した内容の問題練習を家庭で欠かさず行うことはもちろんですが、既習事項の振り返り学習も大切です。志望を高く設定し、進路実現に向けて着々と努力する姿勢を築きましょう。

理科

なぜ「理科」を学ぶのでしょうか。春のある日、あなたは仲の良い友人と郊外の散策に出かけたしましょう。「わああ、きれいな川だね!」「そうかな?」「ほら、あそこの土手なんか黄色い花でいっぱいだ・・・」「ほんとだ!」日頃のこんな会話は、お互いのものの見方や価値観などが分かり親交も深まるものです。しかし、客観的に論じなければならないときは、自分の感じ方だけでは議論は成立しません。川が「きれい」とは、透明度でしょうか、BOD でしょうか、あるいは植物をはじめ様々な生きもの様子でしょうか? 個々人の価値観や感情に左右されずに同じ土俵で論じあえる物差は無いのでしょうか?

その物差のひとつが、科学(理科)です。みなさんには、理科の時間を使って、ぜひ客観的なものの見方や判断のしかたを学んでほしいと思います。透明度? BOD? なんだか理屈っぽい印象だが、科学を学んでいくとワクワクドキドキする場面にたくさん出会えるはずです。なぜなら、何千年も前から人々が不思議に思い、その謎解きに膨大な時間をかけてチャレンジして来た集大成なのですから。蹴飛ばしたボールの行方、宙返りするジェットコースター、夜空の星の動き・・・これらの運動は実は単純な一つの数式で表現できます。昆虫の複眼も私たちの眼も遺伝的な基本的プログラムは同じでした。

身の回りの様々な現象を科学で読み解いて行きましょう。まずは、自分の目と手、耳と鼻と舌を使って、思いをめぐらせ確かめてみましょう(実験や観察)。予想し、仮説をたて、実験を工夫し・・・少しずつ真実に近づいていきましょう。

理科には大きく物理・化学・生物・地学の4分野があります。

4年生では「化学基礎」と「生物基礎」を勉強します。銅貨を金貨にかえたいという言わば邪な動機で始まった錬金術は、やがて近代化学へと変容します。教科書の基礎事項を理解し、実験によって理解をふかめましょう。また、ヒトの恒常性や生命の巧妙さ、地球のおかれた環境を学習し、発表表現につなげます。実験によって、生ある「いきもの」を感じ取って下さい。

5年生では「物理基礎」が始まります。古代より人々が知っていた経験則が普遍的な物理法則として理解できます。教科書を中心に数式による表現を学びましょう。「化学基礎」に引き続き「化学」の勉強が始まります。無機物や有機物の化学反応を知ることで、自然現象を物質の視点から理解します。

6年生では、受験に向けた学力と解答力を高めます。教科書を読み込み、基本事項の理解と高度な内容への繋がりを勉強していきます。多くの選択講座や長期休業中あるいは日頃の講習を受講して、第一志望に挑戦する力を涵養しましょう。

わたしたちの好奇心と「なぜ?」という疑問、「もっと知りたい!」という探究心が科学の出発点です。ノーベル賞を受賞した iPS 技術や青色発光ダイオードによる LED も、それまでの常識にとらわれない仮説から生み出されたものです。ぜひ疑問を抱いて、積極的に授業に参加してください。

私たちの前には様々な問題や課題が山積しています。しかし、私たちが好奇心を持ち続け、謎を解いて行こうという気持ちを失わない限り、それらはいつの日か解決されていくと信じています。解決には、いろいろな分野の考え方や知識・技術の連携が必要になります。柔軟かつ鋭い科学的考察力を養うため、科学だけではなく、様々な事柄を考え学んで下さい。

芸術

芸術は、実技を主とした教科です。授業内で小テストをすることもあります。基本的には、作品提出や発表、レポート等の提出で評価を行います。ゆえに、期限内に作品やレポート等の提出がない場合や実技試験に欠席の場合は、評価ができないため、単位が認められず、単位未修得となります。計画的に作品制作や練習に取り組むようにしてください。

I 音楽

本校の音楽授業では、歌唱や器楽の表現活動を通して、一人ひとりの生徒が表現したいイメージを持ち、表現に必要な技術を身につけ、個性豊かな表現活動を展開することを目標にしています。

また、鑑賞の学習により、色々な種類や形態の音楽に触れ、表現の技術や工夫を知り、作品の時代背景や音楽以外の諸要素との関わり合いを理解することで、音楽に接する楽しみをいっそう深め、生涯にわたって音楽とかかわっていく姿勢を育てることを目標にしています。

授業の概要

1 一人ひとりの能力を高める。

音楽表現に必要な諸要素（旋律・和音・リズム・音程・強弱・速度・発音・発声・バランスなど）を育成し音楽演奏力を高めます。課題に対して個人練習をしっかりと積み上げ、独唱や独奏の発表形態を中心に評価します。

2 アンサンブルを楽しむ

1で培った個人の技術を基にグループ演奏に取り組みます。大集団での合唱や合奏だけでなく、5～6人程度の集団によるものなどのアンサンブルに取り組みます。グループ内で練習し演奏することで、他と協同して表現し、調和する能力を高め作品を作り上げます。

3 表現手段

歌唱～独唱、重唱、合唱

器楽～リコーダーアンサンブル（ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バス等）

打楽器アンサンブル（小打楽器、ラテン音楽で使用する打楽器等）

トーンチャイムアンサンブル（C3～G7までの音域を使用）

II 美 術

後期課程では、引き続き表現活動と鑑賞の両方を大切に授業をおこないます。

この時期は、幼少期から学んできた常識や教養を集大成し、教養人としての基礎を完成させる時期です。こうした、大人としての自分を作り上げ、今しかできない表現や感動を味わえる場でありたいと考えます。造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指していきます。

題材は選択した生徒の求める美術を展開していきたいと考えています。よって授業をデザインしていきますので特に固定していません。

以下に、授業の概要を紹介しますので、参考にしてください。

1. 静物画：観察力を更に深め、見たもの感じたものを画面に表現する力を伸ばす。
キャンバス、アクリルガッシュを使用。
2. 風景画：遠近法、透視図法を利用して作品制作をする。「作品にする」という考え方を学ぶ。
キャンバス、アクリルガッシュを使用。
3. 版画：銅版画制作を通してイメージ力を養い見通しをもって作品に取り組む姿勢を養う。
4. 彫刻：木彫カトラリーをデザイン、制作することにより用と美について考えを深める。
4. 陶芸：用と美を考え、生活の中での工芸の役割を理解し作品制作をする。
5. デザイン：色彩や構成の応用を学び作品制作をする。
6. 模写：鑑賞を兼ねた模写を行う。レポート等の作成も行う。
7. 鑑賞：夏休みに美術館へ行き、美術館鑑賞レポートの作成を行う。
本物に触れることで得られる感動を大切にしている。
8. 自由制作：各々がそれまでの知識と発想を総動員して作品制作に取り組む。
9. その他：時間の許す限り、クロッキーやデッサン等に取り組む。
作品及びレポートの未提出は認めていないので計画的な制作態度を必要とする。
授業時間内に作品が完成しない場合は、放課後や自宅での制作時間を生み出す。

書 道

「筆で文字を書く」というと、すぐに「お習字」と考えることでしょうか。そして上手い、下手で評価されると思いがちです。また、これまでは「文字を正しく整えて書く」ことを目標に＜読みやすさ＞が求められ、国語科の中の「書写」として学習してきました。しかし後期課程では、芸術教科の中で「書道」として位置付けられ、全員が初めて体験する学習内容となります。そこでは「書写能力の向上」のみならず、その多くは上手い、下手よりも「表現や鑑賞活動」が中心となるのです。具体的には、私達が日常使用している「漢字」や「平仮名」がどのような歴史の中で、どのような意義を果たしてきたかを知るとともに、古人が残してくれた様々な名品の鑑賞や表現法を学習することで＜今の自分を書で表現できるようにする＞ということが大きな目標となります。学習を終える頃には、きっと書道に対する見方や感じ方が変わり、多くの新しい発見があることでしょうか。以下に授業の概要を紹介します。

1. 表現

- ① 漢字の書 → 基礎・基本、表現法（楷書、行書中心）
創作（各書体の学習を活かし、自らの意図に基づき創意工夫する）
 - ② 仮名の書 → 基礎・基本、表現法（平安時代の古筆から）
創作（古筆の学習を活かし、俳句を題材に創意工夫する）
 - ③ 漢字仮名交じりの書 → 創作（①と②の学習を活かし、自分の言葉で「今の自分」を表現できるように創意工夫する）
- *これらの学習の成果を日常に活かせるようにする。

2. 鑑賞

- ① 漢字の書 → 古典の美（楷書、行書、草書、隸書、篆書、篆刻）
*東洋の伝統文化としての＜漢字の美＞を、その成り立ちを理解しながら鑑賞する。
- ② 仮名の書 → 平安古筆の美
*日本の伝統文化としての＜古筆の美＞を、その成り立ちを理解しながら鑑賞する。
- ③ 漢字仮名交じりの書 → 日本の名品の美
*現代の書としての＜美＞を、日常の書との違いを理解しながら鑑賞する。
- ④ 文化祭作品 → 互いの作品を鑑賞し合うことで、相手の意図するところや良さを発見する。
- ⑤ 美術館鑑賞 → 都内美術館にて書の名品の展示開催がある時など随時。

※上記「1. 表現」と「2. 鑑賞」は、関連させながら学習を進めます。

※課題および作品の未提出は認めていません。

保健体育

(1) 健康の保持増進のための実践力を身に付ける。

- ①健康・安全や運動に関する科学的な内容を理解し、将来に渡って健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質を養う。
- ②健康・安全や運動についての総合的な理解を深め、正しい意思決定と行動選択ができるようになる。
- ③体力の向上を図る。

(2) 生涯にわたり、計画的に運動に親しむ資質や能力の定着を図る。

- ①各種の運動の特性にふれ、楽しさや喜びを知り、意欲的、主体的に取り組む。
- ②公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動ができるようになる。

(3) 運動を合理的に実践する力を身に付けさせ、体力の向上を図る。

- ①自己の能力に適した課題の解決を主体的に行うなど、技能や体力の向上に意欲的に取り組む。
- ②各種の運動の基本的な内容を応用して実践する力を身に付ける。

(1) 授業中

①健康・安全

- 活動場所の安全に留意し活動する。自己管理能力を身に付ける。(体育)
- 教員の指示に従い、安全で効果的な活動を行う。(体育)(保健)

②自主的・主体的な取り組み

- 自ら意欲的に活動し、向上心を持って取り組む。(体育)
- 課題意識を持ち、質問や発言を積極的に行う。(保健)
- ノートやプリントは工夫しながらまとめる。(保健)
- 様々な課題を自らの生活に置き換えて考え、健康な生活を送る実践力をつける。(保健)

③規律・マナー

- 互いを認め合い、尊重し合いながら思いやりの気持ちをもって授業に臨む。(体育)(保健)
- 授業の準備、後片付けを協力して行う(体育)(保健)
- ルールやマナーを守り、公正な態度で臨む(体育)

(2) その他

- ① スポーツ、健康に関する時事問題やニュースに関心をもつ。
- ② 充実した学校生活を送るために、基本的な生活習慣を整える。

情 報

1 学習について

学習の目標：

情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。

(1) 日常生活にあふれる「情報」を意識しよう

私たちの生活には、さまざまな情報が溢れています。そして、一昔前からは考えられないほど、日常生活はデジタル化されています。これらの「情報」が何を意味するのか、どのように取り扱われているのか、日常生活に溢れる「情報」を意識することが学習のポイントになります。

(2) さまざまなメディアから情報を入手しよう

情報は、インターネットから入手するものがすべてではありません。新聞、雑誌、書籍、人から伝えられる情報、自分の目で見える情報、聞く情報、さまざまな情報があります。1つの情報源のみを信じるのではなく、さまざまな情報源を確認し、情報の信頼性を確認しましょう。

(3) ICT(Information Communication Technology:情報通信技術)を活用しよう

コンピュータ・タブレット・スマートフォンをはじめとする情報機器は私たちの生活の一部となっています。苦手意識を持たず、さまざまな情報機器を「道具」として使っていきましょう。

2 学習への取り組み

(1) 予習

情報では、特に予習の必要はありません。授業内容は継続しています。ひとつひとつの授業を大事にしてください。

(2) 授業中

必ずノートをとりましょう。ただし、黒板に書かれたものやプロジェクターに映し出されたものだけをノートに写すのではなく、先生の話の中で大切な箇所や課題となる点については、自分でメモをとるなどして整理することが重要です。

先生の説明・指示を良く聞き、課題に積極的に取り組みましょう。粘り強く考え、疑問点や分からない点は先生に質問するなど、疑問を疑問のまま残さないようにしましょう。

(3) 復習

教科書・ノート・プリント、授業で示されたスライドなどを活用して授業で学んだ内容を再確認し、知識の定着を図ります。理解できない内容がある場合は、質問するなど対策をとりましょう。

(4) 宿題や課題等

宿題や課題は、提出日を厳守し計画的に学習して必ず提出しましょう。

(5) 定期テストへの取組

授業で学習した内容を、教科書・ノート・プリント、授業で示されたスライドなどを活用して学習内容を再確認し、しっかり準備をしてテストに臨みましょう。

家庭

後期課程では引き続き、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てます。少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とのかかわり共に生きる力を育てることを重視しています。

《家庭基礎で身に付けてほしいこと》

- ① 社会と家庭のつながりの中で、様々な文化を理解し、生物多様性を理解し、多くの人々とともに生きようとする態度
- ② 科学的な知識と技術を身に付け、生活にかかわる情報を活用し、的確に判断ができる力
- ③ 生活の中の課題を、意欲的に解決しようとする行動力

(1) 授業

① 講義

- 講義内容を自分の生活に関連させて考える。友人と意見交換しよう。
- ワークシートを活用し、学習の記録（ポートフォリオ）を作る。
- 教材、持ち物は忘れず、授業の準備をする。

② 実習

- 事前に実習の手順を理解し予定を立てる。
- 実習中は安全を考えながら、協力して積極的に取り組む。
- 実習後は結果を自分の生活に関連させて考え、次回への改善点や課題をまとめる。

(2) 授業以外の学習

① 課題意識

- 家庭や地域での生活から様々な課題を見つけ地球全体で考える。

② 情報活用

- 様々な情報媒体を活用する。

英 語

本校では、生徒の能力・進路及び学習効果などを考え、4年では「コミュニケーション英語Ⅰ」と「英語表現Ⅰ」、5年では「コミュニケーション英語Ⅱ」と「英語表現Ⅱ」、6年では「コミュニケーション英語Ⅲ」と「英語表現Ⅱ」を全員が履修します。6年では選択科目で「コミュニケーション英語Ⅱ」を学習します。

高校英語の目的は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」ことです。「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の総合教材には英文読解を中心に、その中に新しい「語彙」「構文」「文法事項」等が続々と現れます。また、「英語表現Ⅰ」では基本的な文法事項の確認をします。その上で「英語表現Ⅱ」で自分の意思をうまく表現する方法を学習します。この二つの科目を通して、現代英語を読み、その内容を理解する能力と、聞き、話し、書く力を養うことを目指します。更に、英語を母国語としている人々の発想や表現法、生活や風俗習慣を理解し、英語を手段として、様々な国の人々や風俗習慣を理解することも目標としています。

学習の根本は、授業に真剣に取り組むことです。授業は各自が十分予習したことを前提として行われます。予習・授業・復習を続けてこそ、十分な学習効果を発揮するのです。50分の授業を100分、150分学習したのと同じ効果が得られるようにできるのは十分な予習、復習があつての話です。辞書や参考書などを使って予習し、自分で理解できる所と理解できていない所をはっきりさせて授業に臨みましょう。授業で習った事は、その日のうちに復習し、整理して覚えましょう。

英語の読解力を付けるには、授業で扱うように教科書を詳しく勉強する「精読」と、沢山の英文を自分の力で読んでいく「多読」があります。本校英語科では、この2つのバランスが大切だと考えます。正しい頭の働かせ方を学習しないで、ただ「たくさん読もう」と思っても、泳ぎ方を知らない人が「バタフライで100メートル泳いでみる」と考えるのに等しいのです。授業の精読で、未知の英文に取り組むときの頭の働かせ方を学んだ上で、多くの多読教材を実践の場として活用してください。また、たとえば大学入試は大量の英文を読ませるから速読こそが大事、と思うかもしれませんが、10分かけて読んで理解できない文章を、5分で理解できるようには絶対にならないのです。長文といわれる入試問題やGTECなどは時間との勝負ですが、英語を英語のまま理解し、直読直解を心がけ、返り読みをしないようにすれば、スキミング、スキミングなどの速読のテクニックを使わなくても時間内に全て読み終わるよう設計されています。頭の働かせ方を学ぶ精読と、それを実践する場である多読という両輪をしっかりと回していきましょう。多読の一環として洋書多読にもしっかり取り組んでください。多読用の洋書はレベル別に図書室や英語科に多数そろえてあります。

また、前期から引き続き、4年生でもリスニングを含むトレーニングマラソンを継続します。リスニングの際の頭の働かせ方は、実は読むときと同じなのですが、リスニングでは音の連結、消失など、理屈だけではなく慣れることもとても大事です。2年間で700時間を制覇すれば、かなりの英語は聞き取れるようになります。CD教材だけでなく、テレビ・ラジオの語学番組や二ヶ国語放送・インターネット等を利用して、英語を聴きとる訓練もしましょう。英語学習には不断の努力と、身に付けた内容を折に触れ使ってみる好奇心が必要です。Never give up!

三鷹中等教育学校 日課表・週時程表（後期課程）

時程	曜日	月	火	水	木	金	土
	8:25 ~ 8:35	朝読書・学活					
1校時	8:40 ~ 9:30	1	7	14	20	27	33
2校時	9:40 ~ 10:30	2	8	15	21	28	
3校時	10:40 ~ 11:30	3	9	16	22	29	34
4校時	11:40 ~ 12:30	4	10	17	23	30	
昼休み	12:30 ~ 13:15	昼休み					
5校時	13:20 ~ 14:10	5	11	18	24	31	
6校時	14:20 ~ 15:10	6	12	19	25	32	
7校時	15:20 ~ 16:10		13		26		
SHR	月・水・金 15:10~15:20 火・木 16:10~16:20						
清掃	月・水・金 15:20~15:40 火・木 16:20~16:40						
下校	17:00（届出による延長 月・水・金 18:30, 火・木 19:00）						

※ 土曜授業は、年間18回実施

年間の指導計画と評価規準

〈後期課程〉

令和3年度 < 4学年 国語総合（現代文） > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	国語総合 改訂版（大修館書店）
使用補助教材	現代文キーワード500（桐原書店） 生きる・漢字語彙（駿台文庫） ちくま評論入門（筑摩書房） カラー版新国語便覧（第一学習社）

目標
・文章の内容を的確に読み取り思考する力を身につけ、論理的に表現する能力を育成し、言語文化に対する関心を深める。

評価の観点と方法・材料
文章や相手の意図を的確に読み取ったり、聞き取ったりする力、相手や目的・課題に応じて適切に表現する力等を、授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし、総合的に評価する1・2学期は10段階、学年末は古典を合わせて「国語総合」として5段階で評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・随想 おまえはやってきた 短歌を訳す - 言葉の壁を越えて	6	・筆者の感性に触れ、新たなものの捉え方を知る。 ・文章を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読んでいる。文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。
	5	・小説 羅生門	6	・比喩表現や語りの視点に注意して、作品世界の状況を把握し、人物の置かれている心情を理解している。
	6	・評論 水の東西・富士山のカタチ 自由な主体に必要な「尋ねあい」	8	・文章の組立てや骨組みを的確に捉えようとしている。 ・語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取っている。
	7	・詩歌 一つのメルヘン ・表現 話すこと・聞くことの基礎	4	・人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 ・話し合うこと目的が、合意を形成したり思考の深化を図ったりすることであることを認識している。
2	9	・小説 夢十夜 セメント樽の中の手紙	8	・文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 ・言語が文化の享受や発展にどのように関わっているのかについて理解している。
	10	・評論 「美しさの発見」について 他者を理解すること	8	・語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取っている。 ・文章の組立てや骨組みについて理解している。
	11	・短歌・俳句 俳句十五首 自分の感受性くらい	8	・人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さを読み取っている。 ・短歌や俳句の基礎的な構造を理解している。
	12	・評論 「知る」と「わかる」こと ・表現 自分の考えを話す	4	・筆者の主張や文章の内容を捉え、レトリックとは何かを読み取っている。自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示している。 ・調べたことを整理し、異なる立場に立つなど多角的に分析し、自分なりに判断している。
3	1	・小説 コート 鏡・良識派	6	・文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。
	2	・評論 言葉についての新しい認識 グローバル化とグローバリズム 「かわいい」現象	8	・語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを過不足なく読み取っている。 ・文章の組み立てを把握する方法を身につけている。
	3	・表現 書くことの基礎	4	・書く目的にふさわしい材料を、多様な方法で収集し、用途などに応じて適切に選ぶようとしている。 ・事実や事柄などを忠実にかつ正確に、具体的に説明している。
年間授業時数			70	

令和3年度 <4学年 国語総合(古典)> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	3単位
使用教科書	国語総合改訂版 古典編(大修館)
使用副教材	完全マスター古典文法(第一学習社) 完全マスター古典文法 準拠ノート(第一学習社) プログレス古典総演習・標準編(いいずな書店) 古文単語330(いいずな書店) 必携新明説漢文(尚文出版) カラー版新版国語便覧(第一学習社)

目標
・国語の基礎的な学習習慣を養い、様々な古典文学に触れることにより豊かな感性と心情を育て、言語文化を大切にするよう指導する。

評価の観点と方法・材料
「古文」正確な口語訳をするための、単語の意味、文法事項、語法などを理解したかを日常の授業態度、年間5回の定期考査、ノート点検、通年の小テスト等を通して総合的に評価する。「漢文」正しく訓読するための句法、字義などを理解したかを日常の授業態度、年間5回の定期考査、ノート点検、通年の小テスト等を通して総合的に評価する。国語総合(現代文)と合算して、1・2学期は10段階、学年末は5段階で評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・説話 宇治拾遺物語 今昔物語集	8	・歴史的仮名遣いや古語・文法に注意して内容を読み取ろうとしている。 ・語句や表現に注意して文脈を捉え、あらすじを正確に読み取っている。 ・文語のきまりや基本的な動詞を理解している。
	5	・物語 竹取物語 伊勢物語	9	・人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 ・文語のきまりや基本的な助動詞を理解している。
	6	・随筆 徒然草	11	・筆者のものの見方を理解し、自身の考え方を深めている。 ・文語のきまりや基本的な助動詞を理解している。
	7	・故事成語 漁夫之利・蛇足・朝三暮四	8	・語句や表現に注意して文脈を捉え、正確に読み取っている。 ・漢文訓読に必要な訓点のきまりを理解している。
2	9	・和歌 万葉集・古今和歌集 新古今和歌集	9	・和歌に詠まれた人物、情景、心情などを読み取っている。 ・時代による和歌の特徴や表現技法について理解している。
	10	・日記 土佐日記	11	・表現や当時の風習などを踏まえつつ、情景や心情を読み取っている。
	11	・軍記 平家物語	12	・表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて、人間とは何かを読み取っている。 ・文体の特徴を把握した朗読ができる。
	12	・唐代の詩 絶句・江雪・春夜洛城聞笛・涼州詞・山行	7	・それぞれの詩の表現している内容・情感を読み取っている。 ・漢詩のきまりや、語句の意味、用法について理解している。
3	1	・古代の史話 先従隗始・鶏鳴拘盜・臥薪嘗胆	9	・人物、情景、心情などを話の展開に沿って読み取っている。 ・句法・語法を理解し、それぞれの話の歴史的背景や出典に関する基本的知識を身に付けている。
	2	・俳諧 奥の細道 ・孔子と孟子の思想 論語・孟子	12	・人物、情景、心情などを表現に即して読み取っている。表現や比喩に注目しながら内容を的確に理解している。 ・句法・語法を理解した上で、儒家の思想について要点を把握している。
	3	・物語 人面桃花	9	・比喩による論理的な展開に注目し、主張を読み取っている。 ・句法・語法を理解した上で、筆者の主張とその思想史上の位置について基本事項を把握している。
年間授業時数			70	

令和3年度 <5学年 現代文B > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	改訂版 現代文B (数研出版)
使用補助教材	生きる漢字・語彙力 (駿台文庫) 現代文キーワード500 (桐原書店) カラー版 新国語便覧 (第一学習社)

目標
・近代以降のさまざまな文章を読むことを通じて、論理的文章を読む力を高め、ものの見方、感じ方、考え方を深めることで、人生を豊かにする。

評価の観点と方法・材料
目的や場に応じて効果的に話したり聞き取ったりする力、相手や目的・課題に応じて適切に表現する力、文章を的確に読み取る力等を授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし、総合的に評価する

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・評論 「国境を越える言葉」言語・文化 「手の変幻」芸術論	20	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を確かめ、筆者が主張する「もう一つの言葉」についての的確にとらえている。抽象的な表現の内容を的確に説明し、筆者の着眼点のおもしろさをまとめている。 ・「李徴」の人柄や心情の推移を的確にとらえ、人間が虎になるという作品設定の意図について考察している。文章に描かれている人物の心情を表現に即して読んでいる。 ・文章の構成を確かめ、『驚き』が知的探究を動機づける」という主張の内容を的確にとらえている。 ・慣用語の意味と用法、逆説的な表現の内容をとらえている。 ・広告にふさわしい文体や語句、表現の技法が用いられているかどうかを考察している。読み手を意識して、言葉を選んだり表現したりしている。
	5	・小説 「山月記」		
	6	・評論 「胆力について」思想		
	7	・詩 吉原幸子 宮沢賢治 ほか ・表現 「広告」を制作する		
2	9	・小説「ころ」	30	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や内面の変化をおさえ、その心理や人物像をとらえている。登場人物の心情を表現に即してとらえ、筆者がこの作品で描きたかったことについて考察している。 ・各意味段落の役割に注意して読み、環境問題について筆者の意見の論理をとらえている。 ・「映像」に関わる出来事を時間の流れに沿って整理し、それぞれに対応した群衆のあり方をとらえ、「待機する群衆」という表現に込められた筆者の意図を考察している。
	10			
	11	・評論		
	12	「未来世代への責任」環境・経済 「疑似群衆の時代」情報		
3	1	・小説 「無用の人」 「果汁」	20	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」「父」「母」の人物像や関係性を正しくとらえている。 ・場面ごとの「私」の心情変化を読み取っている。 ・情景描写がもたらす表現上の効果を理解している。 ・時間と空間の描写に注意して場面をとらえ、各場面における登場人物の行動を読み取っている。 ・「民主主義」についての筆者の考えを的確にとらえている。 ・文章中の逆説的な表現の内容をとらえ、それによってもたらされる表現上の効果を理解している。
	2	「野火」 ・評論		
	3	「『である』ことと『する』こと」		
年間授業時数			70	

令和3年度 < 5学年 古典B > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	新探求古典B 古文編漢文編 (桐原書店)
使用補助教材	必携新明説漢文(尚文出版) 新版国語便覧(第一学習社) 完全マスター古典文法(第一学習社) 古文単語330(いいずな書店)

目標
・古語、文法や用法及び文の構造を理解し、文章全体の内容を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

評価の観点と方法・材料

「古文」正確な口語訳をするための、単語の意味、文法事項、語法などを理解したかを日常の授業態度、年間5回の定期考査、ノート点検、通年の小テスト等を通して総合的に評価する。「漢文」正しく訓読するための句法、字義などを理解したかを日常の授業態度、年間5回の定期考査、ノート点検、通年の小テスト等を通して総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・説話・随筆「宇治拾遺物語」「徒然草」「方丈記」時代や登場人物の価値観・生き方などを読み取る。	5	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・随筆を読んで作者の考え方や時代背景を理解したか。
	5	・故事・寓話「画竜点睛」「漱石枕流」「梁上君子」「杞憂」漢文の基礎知識や句法の確認をする。	8	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・故事を踏まえた成語の成り立ちを理解したか。
	6	・随筆・日記文学「枕草子」「更級日記」現代にも通じる日常生活の中での感覚を読み取る。	5	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・作品を通して平安時代の価値観や作者の感性を理解できたか。
	7	・漢文「思想・文」さまざまな思想を読み取り、人間の生き方あり方について考えを深める。	6	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・論旨を的確にとらえることができたか。 ・先人の思想を理解し、今日的な意味づけができたか。
2	9	・軍記物語「平家物語」和漢混交文の表現技法に注意する。物語の展開を理解する。	8	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・物語の展開を理解し、人物関係を正確に把握したか。
	10	・歴史物語「大鏡」歴史的・政治的な背景を確認し、実在の人物の物語的な描き方に注意する。	6	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・登場人物の政治的行為や権力構造などを把握できたか。
	11	・史記「鴻門之会」「四面楚歌」句法や語句の意味などを正確に理解し、ストーリー展開の面白さを味わう。	8	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・歴史的事実を踏まえた上で、これらの話がどういう位置に当たるか理解できたか。
	12	・物語文学「源氏物語」敬語表現に注意しつつ、登場人物の内面に思いをはせながら読解する。	4	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。敬語表現に注意しつつ、登場人物の内面に思いをはせながら読解する。
3	1	・話の展開や粗筋の把握に努める。登場人物の行動の心理的必然性を読み取る。王朝文学を多角的に鑑賞する。	8	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。敬語表現に注意しつつ、登場人物の内面に思いをはせながら読解する。
	2	・史記「廉頗と藺相如」句法や語句の意味などを正確に理解し、ストーリー展開の面白さを味わう。	6	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・登場人物の関係を把握し、当時の社会や価値観が理解できたか。
	3	・思想「老子」「荘子」「韓非子」さまざまな思想を読み取り、その特徴や違いを理解する。	6	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。各思想家の考え方やものの見方に着目し、現代の日本の思想との比較をしながら読み取らせる。
年間授業時数			70	

令和3年度 < 5学年 古典B > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	新探求古典B 古文編漢文編 (桐原書店)
使用補助教材	必携新明説漢文(尚文出版) 新版国語便覧(第一学習社) 完全マスター古典文法(第一学習社) 古文単語 330(いいずな書店)

目標
・古語、文法や用法及び文の構造を理解し、文章全体の内容を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

評価の観点と方法・材料

「古文」正確な口語訳をするための、単語の意味、文法事項、語法などを理解したかを日常の授業態度、年間5回の定期考査、ノート点検、通年の小テスト等を通して総合的に評価する。「漢文」正しく訓読するための句法、字義などを理解したかを日常の授業態度、年間5回の定期考査、ノート点検、通年の小テスト等を通して総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・説話・随筆「宇治拾遺物語」「徒然草」「方丈記」 時代や登場人物の価値観・生き方などを読み取る。	5	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・随筆を読んで作者の考え方や時代背景を理解したか。
	5	・故事・寓話「画竜点睛」「漱石枕流」「梁上君子」「杞憂」 漢文の基礎知識や句法の確認をする。	8	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・故事を踏まえた成語の成り立ちを理解したか。
	6	・随筆・日記文学「枕草子」「更級日記」 現代にも通じる日常生活の中での感覚を読み取る。	5	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・作品を通して平安時代の価値観や作者の感性を理解できたか。
	7	・漢文「思想・文」 さまざまな思想を読み取り、人間の生き方あり方について考えを深める。	6	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・論旨を的確にとらえることができたか。 ・先人の思想を理解し、今日的な意味づけができたか。
2	9	・軍記物語「平家物語」 和漢混交文の表現技法に注意する。 物語の展開を理解する。	8	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・物語の展開を理解し、人物関係を正確に把握したか。
	10	・歴史物語「大鏡」 歴史的・政治的な背景を確認し、実在の人物の物語的な描き方に注意する。	6	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。 ・口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。 ・登場人物の政治的行為や権力構造などを把握できたか。
	11	・史記「鴻門之会」「四面楚歌」 句法や語句の意味などを正確に理解し、ストーリー展開の面白さを味わう。	8	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・歴史的事実を踏まえた上で、これらの話がどういう位置に当たるか理解できたか。
	12	・物語文学「源氏物語」 敬語表現に注意しつつ、登場人物の内面に思いをはせながら読解する。	4	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。敬語表現に注意しつつ、登場人物の内面に思いをはせながら読解する。
3	1	・話の展開や粗筋の把握に努める。登場人物の行動の心理的必然性を読み取る。王朝文学を多角的に鑑賞する。	8	・正確な口語訳を通して作品の内容を正しく理解したか。口語訳に必要な単語の意味、文法事項、語法などを理解したか。敬語表現に注意しつつ、登場人物の内面に思いをはせながら読解する。
	2	・史記「廉頗と藺相如」 句法や語句の意味などを正確に理解し、ストーリー展開の面白さを味わう。	6	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。 ・登場人物の関係を把握し、当時の社会や価値観が理解できたか。
	3	・思想「老子」「荘子」「韓非子」 さまざまな思想を読み取り、その特徴や違いを理解する。	6	・漢文の基礎的知識に基づいて正しく訓読することができたか。各思想家の考え方やものの見方に着目し、現代の日本の思想との比較をしながら読み取らせる。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 現代文B> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	現代文B (数研出版)
使用補助教材	新版三訂 カラー版 新国語 便覧 (第一学習社)

目標
近代以降の様々な文章を的確に理解し、ものの見方、感じ方、考え方を深めることによって国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

評価の観点と方法・材料
様々な文章を的確に理解する力、ものの見方・考え方を深め適切に表現する力等を、日常の授業態度、定期考査、小テスト及びレポートなどの提出物等を通して総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・ 評論「知識社会という幻想」	4	・ 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。論説や評論において、段落の構成を的確にとらえ、それぞれの働きや関係によってどのように論が展開されているか説明することができる。
	5	・ 小説「舞姫」	10	・ 分析的な視点で、心情や構成を把握することができる。書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方などの主要な内容とその他とを区別し、論点を適切に説明することができる。
	6	・ 評論「消費されるスポーツ」 (問題演習)	8	・ 議論に用いられる語の正確な意味を押さえる。 ・ 段落の構成を的確にとらえ、それぞれの働きや関係によってどのように論が展開されているか説明することができる。
	7	・ 小説「赤い繭」	6	・ 虚構から人間の普遍性を読み取り、日常から見た非日常性を考えることができ、我々の周囲に存在する「非日常」についての認識を新たにすることができる。
2	9	・ 評論「メディアのテロル」	6	・ 我々の周囲にあふれているメディアの捉え方の新たな視点を通して筆者の思考スタイルを理解することができる。 ・ 物事を哲学的に考えるとはどういうことなのかを本文を通して考えることができる。
	10	・ 小説「檸檬」	8	・ 登場人物の心理描写を分析的にとらえ、心理の変化を理解することができる。
	11	・ 評論「顔の所有」 (問題演習)	8	・ 小説の主題を的確にとらえ、自らの言葉で表現することができる。 ・ 作品内容の空間・時間構造を、きちんと押さえることができる。 ・ 議論の鍵となる概念を示す語の意味を、正確に理解することができる。
	12	・ 現代文の総理解と演習	6	・ 演習学習を通して確かな読解力を持つことができる。 ・ 身体感覚とはどういうものかを読み取り、普遍的に説明することができる。 ・ 基礎的で基本的な読解力を身につける。 ・ 慣用句などの語彙力が向上する。
3	1	・ 現代文の総理解と演習	6	・ 基礎的で基本的な読解力を身につける。 ・ 慣用句などの語彙力が向上する。
	2	・ 現代文の総理解と演習	4	・ 応用の利く読解力を身につける ・ 慣用句などの語彙力が向上する。
	3	・ 現代文の総理解と演習	4	・ 応用の利く読解力を身につける ・ 慣用句などの語彙力が向上する。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択現代文演習> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	国語総合改訂版（大修館）
使用補助教材	新版三訂カラー版 新国語便覧 （第一学習社）

目標
・言語活動を通して、思考力、創造性を養い、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を喚起し、総合的な国語力を育成する。

評価の観点と方法・材料
豊富な文章を的確に読み取る力、課題に応じて適切に表現する力等を日常の授業態度、定期考査、提出物等に加え、演習や小テストを対象として総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・随想（問題演習）	6	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえている。 ・論説や評論において、段落の構成を的確にとらえ、それぞれの働きや関係によってどのように論が展開されているか説明することができる。 ・論説や評論において、書き手の主張や意図を、書き手の思考の進め方に着目しながら理解し、執筆動機に迫ることができる。 ・文学的な文章について、場面の展開や要旨を的確にとらえている。分析的な視点で、心情や構成を把握することができる。 ・韻文の基本を理解し、感動の焦点や作品の主題を明らかにすることができる。
	5	・評論（問題演習）	8	
	6	・小説（問題演習）	8	
	7	・詩・短歌・俳句（問題演習）	2	
2	9	・評論（問題演習） ・小説（問題演習）	6	<ul style="list-style-type: none"> ・書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方などの主要内容とその他とを区別し、論点を適切に説明することができる。 ・文学的な文章について、場面の展開や登場人物の心理描写を分析的にとらえることができる。 ・論理的な文章について、一定の時間内で要旨を的確にとらえている。 ・小説の主題を的確にとらえ、指定字数内で表現することができる。 ・構成を把握し、自らも効果的な構成で文章表現できる。 ・慣用句などの語彙力が向上している。
	10	・評論（問題演習） ・小説（問題演習）	8	
	11	・評論（問題演習） ・小説（問題演習）	8	
	12	・評論（問題演習） ・小説（問題演習）	6	
3	1	・評論・小説等の総理解と演習	8	<ul style="list-style-type: none"> ・演習学習を通し、基礎・基本的な学力を身につけることができる。 ・入試問題等に対応できる実践力がついている。 ・演習学習を通し、基礎・基本的な学力を身につけることができる。 ・入試問題等に対応できる実践力がついている。 ・演習学習を通し、基礎・基本的な学力を身につけることができる。 ・入試問題等に対応できる実践力がついている。
	2	・評論・小説等の総理解と演習	8	
	3	・評論・小説等の総理解と演習	2	
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択古典B(古典B)> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	4単位
使用教科書	新探究古典B 古文編・漢文編(桐原書店)
使用補助教材	完全マスター古典文法(第一学習社) 古文単語330(いっぴな書店) 必携 新明説漢文(尚文出版) 新版三訂 カラー版 新国語便覧(第一学習社)

目標
・文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉え、古典を読む能力を養うとともに、人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。

評価の観点と方法・材料
文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して古典を読む力、必要に応じて要約や詳述をする力等を、日常の授業態度、定期考査、提出物等に加え、演習や小テストを対象として総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・随筆「枕草子」 ・漢詩「長恨歌」 (問題演習)	8	・登場人物や作者の心情、人間関係などを的確に理解し、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・句法や字義を理解し、あらすじを的確につかんでいる。
	5	・日記「蜻蛉日記」 ・漢詩「長恨歌」 (問題演習)	16	・本文における作者の感じ方から、作者の主張を読み取り、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・句法や字義を理解し、あらすじを的確につかんでいる。
	6	・日記「和泉式部日記」「紫式部日記」 ・漢詩「長恨歌」 (問題演習)	16	・本文における作者の感じ方から、作者の主張を読み取り、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・句法や字義を理解し、あらすじを的確につかんでいる。
	7	・物語「源氏物語」 ・逸話「孔明臥龍」 (問題演習)	10	・登場人物や作者の心情、人間関係などを的確に理解し、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・読解に必要な語彙力・古典常識が備わっている。
2	9	・物語「源氏物語」 ・史伝「荆軻」 (問題演習)	12	・登場人物や作者の心情、人間関係などを的確に理解し、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・句法や字義を理解し、あらすじを的確につかんでいる。
	10	・物語「源氏物語」 ・思想「老子」 (問題演習)	14	・登場人物の関係や行動、心情を的確に読み取り、本文の内容を理解して、和歌に対する認識を深めている。 ・句法や字義を理解し本文の内容を的確につかんでいる。
	11	・物語「源氏物語」 ・思想「荘子」「韓非子」 (問題演習)	14	・登場人物の関係や行動、心情を的確に読み取り、本文の内容を理解して、和歌に対する認識を深めている。 ・句法や字義を理解し本文の内容を的確につかんでいる。
	12	・古文、漢文の総理解と演習	10	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
3	1	・古文、漢文の総理解と演習	16	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
	2	・古文、漢文の総理解と演習	12	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
	3	・古文、漢文の総理解と演習	12	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
年間授業時数			140	

令和3年度 <6学年 選択古典B(古典演習)> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	2単位
使用教科書	新探究古典B 古文編・漢文編 (桐原書店)
使用副教材	完全マスター古典文法(第一学習社) 古文単語330(いっずな書店) 必携 新明説漢文(尚文出版) 新版三訂 カラー版 新国語便覧(第一学習社)

目標
・文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉え、古典を読む能力を養うとともに、人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

評価の観点と方法・材料
文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して古典を読む力等を、日常の授業態度、演習の成果と定期考査、提出物等を対象として総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・古文入門 (問題演習)	6	・正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・読解に必要な語彙力・古典常識が備わっている。
	5	・随筆 ・物語 (問題演習)	8	・登場人物や作者の心情、人間関係などを的確に理解し、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・読解に必要な語彙力・古典常識が備わっている。
	6	・物語 ・和歌 (問題演習)	8	・登場人物や作者の心情、人間関係などを的確に理解し、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・和歌の修辞法を理解し和歌の解釈ができる。
	7	・日記 ・紀行文 (問題演習)	6	・本文における作者の感じ方から、作者の主張を読み取り、正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳ができる。 ・読解に必要な語彙力・古典常識が備わっている。
2	9	・漢文入門 (問題演習)	6	・漢文の基本的なきまり(訓点・再読文字・置き字・句法など)を理解し、漢文の書き下しや読解ができる。
	10	・十八史略 (問題演習)	8	・句法を正確に理解し、その知識を読解に生かし、人物の行動や心情、場面、時代や場所、状況、出来事、情景などを読み取ることができる。
	11	・唐詩 ・思想 (問題演習)	8	・漢文の文の構造や詩の形態を理解する。 ・句法を正確に理解し、その知識を読解に生かし、人物の行動や心情、場面、時代や場所、状況、出来事、情景などを読み取ることができる。
	12	・古文・漢文の総理解と演習	6	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
3	1	・古文・漢文の総理解と演習	6	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
	2	・古文・漢文の総理解と演習	4	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
	3	・古文・漢文の総理解と演習	4	・古文、漢文の応用力が身についている。 ・入試問題等に対応できる実践力が身についている。
年間授業時数			70	

令和3年度 <5学年 文化科学Ⅲ> 年間指導計画

単位数	1単位
使用教科書	—
使用補助教材	必携新明説漢文（尚文出版） カラー版新国語便覧（第一学習社）

目標
・諸外国、特に中国文学の古典および文章に多く触れ、日本文化との相違点と比較しながら、論理的に自らの意見や主張をする論理的思考力を身に付ける。

評価の観点と方法・材料
諸外国、特に中国文学の古典および文章に多く触れ、日本文化との相違点と比較しながら、論理的に自らの意見や主張をする論理的思考力を身に付けることができたかを、日常の授業態度、定期考査、課題等を通して総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・中国文学が日本の文化に与えた影響（1） 故事成語の成り立ちと諺	2	・中国の「故事」から生まれた成語が、現代日本においてどのように用いられるようになったか理解できたか。
	5	・中国文学が日本の文化に与えた影響（1） 故事成語の成り立ちと諺	3	・中国の「故事」から生まれた成語が、現代日本においてどのように用いられるようになったか理解できたか。
	6	・中国文学が日本の文化に与えた影響（2） 詩文と日本の平安文学	3	・唐詩が、「源氏物語」などの平安文学にどう影響していったかを理解できたか。
	7	・中国文学が日本の文化に与えた影響（2） 詩文と日本の平安文学	2	・唐詩、特に白居易の「長恨歌」が平安文学にどう影響していったかを理解できたか。
2	9	・中国文学が日本の文化に与えた影響（3） 「史記」と「大鏡」	4	・「史記」の列伝や本紀が日本の「大鏡」などの歴史物語の成立にどう影響していったかを理解できたか。
	10	・中国文学が日本の文化に与えた影響（3） 「史記」と「大鏡」	4	・「史記」の列伝や本紀が日本の「大鏡」などの歴史物語の成立にどう影響していったかを理解できたか。
	11	・中国文学が日本の文化に与えた影響（4） 物語と日本文化	4	・短編の物語を通して当時の中国の社会背景を理解し、それらが日本の文化にどのような影響を与えたかを理解したか。
	12	・中国文学が日本の文化に与えた影響（4） 物語と日本文化	3	・短編の物語を通して当時の中国の社会背景を理解し、それらが日本の文化にどのような影響を与えたかを理解したか。
3	1	・中国文学が日本の文化に与えた影響（5） 神話と日本の政治・文化	3	・中国の神話を通して、中国社会の変遷を探り、外交問題など日本の政治や文化にどのような影響を与えたかを理解したか。
	2	・中国文学が日本の文化に与えた影響（6） 論語と儒教	4	・「論語」を通して、今日の日本社会の状況を把握し、現代社会に生きている儒教精神を確認できたか。
	3	・中国文学が日本の文化に与えた影響（6） 論語と儒教	3	・「論語」を通して、今日の日本社会の状況を把握し、現代社会に生きている儒教精神を確認できたか。
年間授業時数			35	

令和3年度 <4学年 地理B> 年間指導計画

単位数	3単位
使用教科書	東京書籍「地理B」 二宮書店「詳解現代地図」
使用補助教材	帝国書院 「新詳地理資料 COMPLETE」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程の社会(地理的分野)での学習を踏まえて地理的な見方・考え方の基礎・基本を定着させうえて、より発展的な知識や技能を習得させる。 ・課題学習などで生徒が主体的に取り組めるようにすると同時に、自らの世界観を広げさせる。

評価の観点と方法・材料
定期考査や作業課題など、生徒各自の地理的な知識や技能について多面的な観点からとらえるとともに、積極的な発言等授業中の態度なども含め総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・地理情報と地図、地図の活用と地域調査 (地球儀、様々な時代や種類の世界地図、 地理情報、地域調査)	6	・地図化してとらえることの有用性を考察している。また、様々な資料や情報を地図によって使い分けたり、主題図を作るなど地図化して追究する技能を身につけ、地図に関する知識を理解している。
	5	・自然環境(地形)	12	・地形の特徴と人間生活への影響について関心を持つとともに、その特徴や地理的事象を系統地理的に理解している。
	6	・自然環境(気候、植生、環境問題)	18	・気候の特徴と人間生活への影響について関心を持つとともに、気候ごとの特徴を理解し、資料や情報を系統地理的に理解している。日本の地形や気候と自然災害の特徴について関心を高め、意欲的に取り組むとともに、それらの多様性や地域性について理解している。また、世界における様々な環境問題に関して、基本的な知識を習得するとともに問題解決の方策について意欲的に考察している。
2	7			
	9	・資源、産業(農業、食料問題)	18	・産業と自然の関わりや産業のグローバル化について理解・関心を高め、その多様性や地域性を大観するとともに食料問題についても、問題解決の方策について意欲的に考察している。
	10	・資源、産業(工業、流通、消費、資源・ エネルギー問題)	21	・工業の発達や立地についての理解を深め、さらに世界の主要な工業地域についての知識を習得している。また、商業・サービス業など第三次産業についての理解を深め、特に伸長著しい観光業などに関心を持っている。また、世界に広がる交通・通信網について近年の急速な発達などを理解している。
3	11			
	12			
	1	・人口、都市・村落(人口、都市・村落、 人口問題、居住・都市問題)	12	・世界の人口の動向について、様々な資料などから理解を深め、さらに各国で問題になっている事象について考察している。また、世界の村落・都市についての現状を理解し、様々な問題点についてその解決方法を考察している。
	2			
	3	・生活文化、民族・宗教(生活文化、民族・ 宗教、民族問題、領土問題)	18	・世界の生活・文化及び民族・宗教について理解を深める。その上で、世界各地で発生している民族・領土問題について、関心を持つとともにその解決方法を考察している。
年間授業時数			105	

令和3年度 <4学年 倫理> 年間指導計画

単位数	2 単位
使用教科書	実教出版「312 高校倫理」
使用補助教材	実教出版「詳解倫理資料新訂版」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題と、人間としての生き方を理解する。 ・主体としての自己の確立をめざして、人間の尊厳についての倫理的な考え方を学ぶ。 ・現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断力を養う。

評価の観点と方法・材料
基本的な知識を身につけ、倫理的な課題に対する思考力や表現力が養われているかを定期考査やレポートなどを通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準	
1	4	・青年期の課題と自己形成	2	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義と課題に関する基本的な考え方を習得し、自らの問題として考察し、表現することができる。 ・ギリシア思想に関する基本的な知識を習得し、人間の存在や価値にかかわる基本的課題を考察し表現できる。 ・ユダヤ教やキリスト教に関する基本的な知識を習得し、人間の存在や価値にかかわる基本的課題を考察し表現できる。 ・イスラームや仏教に関する基本的な知識を習得し、人間の存在や価値にかかわる基本的課題を考察し表現できる。 ・中国思想に関する基本的な知識を習得し、人間の存在や価値にかかわる基本的課題を考察し表現できる。 	
	5	・源流思想（ギリシア思想）	2		
	6	・源流思想（キリスト教）	8		
	7	・源流思想（イスラーム） ・源流思想（仏教） ・源流思想（中国思想）	8 8 6		
2	9	・日本思想（古代日本人の思想） ・日本思想（日本の仏教思想）	8	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土や伝統、外来思想の受容に対する関心を高め、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観についての基本的な知識を習得し、表現できる。 ・日本の近世思想や西洋思想の受容についての基本的事項を習得し、表現できる。 ・現代に生きる人間が直面する諸課題について、ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開に関する基本的知識を習得し、表現できる。 ・科学技術の発達が人間の思想的営みにどのような影響を与えたかについての基本的事項を習得し、表現できる。 	
	10	・日本思想（近世日本の思想）	6		
	11	・日本思想（西洋思想の受容と展開） ・西洋近現代思想（人間の尊厳）	8		
	12	・西洋近現代思想（科学・技術と人間）	6		
3	1	・西洋近現代思想（民主社会と自由の実現） ・西洋近現代思想（社会と個人） ・西洋近現代思想（人間への新たな問い） ・西洋近現代思想（社会参加と幸福）	4 4 4 4	<ul style="list-style-type: none"> ・市民社会の形成が哲学や思想にどのような影響を与えたかについての基本的事項を習得し、表現できる。 ・近代の人間中心主義を再検討する思想を自己の生き方とつなげて理解し、社会参加や自己実現ともかかわりながら、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 ・自然と人間とのかかわり（生命倫理・環境倫理）、社会生活と自己とのかかわり（家族・社会・情報化）、国際社会と自己とのかかわり（異文化理解・国際平和）などの視点から、現代の倫理的諸課題を、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断できている。 	
	2	・現代の諸課題と倫理（生命の倫理） ・現代の諸課題と倫理（環境の倫理） ・現代の諸課題と倫理（家族の課題）	8		
	3	・現代の諸課題と倫理（地域社会の課題） ・現代の諸課題と倫理（情報社会の課題） ・現代の諸課題と倫理（文化と宗教の課題） ・現代の諸課題と倫理（国際平和と人類の福祉の課題）			
		年間授業時数	70		

令和3年度 <5学年 世界史B> 年間指導計画

単位数	単位 3単位
使用教科書	詳説世界史 (山川出版社)
使用補助教材	浜島書店 ニューステージ 世界史 詳覧

目標
・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解や国際的共生といった意識を育てる。

評価の観点と方法・材料
授業態度・ノート作成・発問への答えかた・定期考査によって評価を行う。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・近世ヨーロッパの形成 ヨーロッパ世界の拡大 大航海時代、アメリカ大陸の征服	8	・ヨーロッパが大航海時代を開始する前のアジア世界の海の道を理解させ、ヨーロッパの大航海との関連性を理解したかを確認する。
	5	・ルネサンス	10	・ルネサンスはヨーロッパ中世世界における人間と神の関係を理解しているかどうかを確認しつつ、ルネサンスの意味を理解させる。
	6	・宗教改革	10	・宗教改革が起こるドイツの歴史的背景を理解し、ルターの宗教改革によって歴史の流れがどう変化していったかを理解させる。
	7	・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 ・近世ヨーロッパ世界の展開 ・重商主義と啓蒙専制主義	8	・カルヴァンやイギリス宗教改革も世界の歴史や現代世界にどのような影響や変化を与えたかを理解しているかどうかを見る。 ・主権国家の意味を政治経済でどう理解しているかを確認しながら、主権国家の誕生の過程を歴史的に認識させる。その際、絶対君主の成立や経済の特徴を押さえさせる。
2	9	・ヨーロッパ諸国の海外進出	4	・ヨーロッパの植民地での覇権闘争を理解し、植民地化のプロセスを押さえる。
	10	・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の形成 ・産業革命 ・アメリカ独立革命	10	・17世紀からの流れを受け、イギリスでなぜ最初の産業革命が始まったのかを理解し、その経過と結果を押さえる。 ・イギリスの覇権確立に対して、アメリカでなぜ独立戦争が始まったかを理解し、その独立が世界にどのような影響を与えたかを押さえる。
	11	・フランス革命とナポレオン ・欧米における近代国民国家の発展	15	・フランス革命の原因と過程・その結果によるナポレオン戦争への流れを理解させ、新たな歴史的動きを確認する。
	12	・ウィーン体制の成立	15	・19世紀の反動化と国民主義の対立関係、それがヨーロッパおよび世界にどのような影響を及ぼしたかを理解し、19世紀世界の特徴を捉える。
3	1	・ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生	10	・1848年革命の意義とクリミア戦争を通して、ヨーロッパの変動を理解させる。
	2	・南北アメリカの発展 ・アジア地域の動揺	15	・アメリカ合衆国の南北戦争をはさんで、その発展を理解させる ・アジア世界の特質を宗教・政治・歴史過程を理解し、そこへ入ってくるヨーロッパ勢力との摩擦や融合などを通して近代化という意味を理解させていく。
	3	・オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変動		
年間授業時数			105	

令和3年度 <5学年 日本史B> 年間指導計画

単位数	3単位
使用教科書	詳説日本史（山川出版社）
使用補助教材	新詳日本史（浜島書店）

目標
・近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。現代の社会や国民生活の特色について、国際環境に関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。

評価の観点と方法・材料
授業に取り組む姿勢や、確認テスト、定期考査等を対象として総合的に評価し、1・2学期は10段階、学年末は5段階で評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・開国と幕末の動乱 開国、諸条約の締結、倒幕運動の展開	8	・国内の社会・経済の変化を国際情勢と関連づけて考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
	5	・明治維新と富国強兵 新政府の発足、殖産興業・富国強兵 文明開化	10	・中央集権的な近代国家建設にむけた諸改革について考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
	6	・立憲国家の成立と日清戦争 自由民権運動、憲法制定 条約改正交渉、日清戦争	10	・国民の政治的関心の高まりと立憲政治確立の動きを考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
	7	・日露戦争と国際関係 資本主義の成立と発展 近代文化の発達	8	・経済や文化の近代化が国民生活に与えた影響を考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
2	9	・第一次世界大戦と日本 第一次世界大戦と大戦景気、政党政治の展開	12	・大戦前後の国際情勢が日本の政治・経済・社会に与えた影響について考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
	10	ワシントン体制、協調外交の展開		
	11	・市民文化 大正～昭和初期の文化 恐慌と政党政治の変質	15	・大衆の出現が政治・経済・社会に与えた影響を考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
	12	・軍部の台頭 第二次世界大戦 日中戦争から太平洋戦争	15	・軍部の台頭と政治の変化、統制経済の推進について考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
3	1	・占領と改革 戦後改革と経済再建 ・冷戦の開始と講和 占領政策の転換と講和	12	・占領政策の展開と国際情勢との関係について考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
	2	・55年体制、国際情勢と国内政治 高度成長と国民生活 ・経済大国への道 ・安定成長期	9	・戦後の政治・経済と国際情勢との関係について考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
	3	・冷戦終結と日本社会の動揺 バブル崩壊と構造改革	6	・冷戦終結による国際情勢の変容と日本の政治・経済・社会との関係について考察している。 ・歴史的な思考力や資料活用の知識や技能が身についている。 ・積極的な発言等、授業中の態度を示している。
		年間授業時数	105	

令和3年度 <6学年 政治経済> 年間指導計画

単位数	単位
使用教科書	実教出版「312 高校政治・経済」
使用補助教材	とうほう「政治・経済資料 2021」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の本質を理解し、広い視野から現代の政治・経済・国際関係について客観的に理解する能力を身につける。 ・政治・経済・国際関係に関する諸課題について主体的に考察する。 ・公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力と態度を育てる。

評価の観点と方法・材料

現代の政治、経済、国際関係について関心を持ち、課題を追究するとともに、国家や国際社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察する知識を身につけ、適切に表現する能力が養われているか、定期考査等を通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・民主政治の基本原理	8	・民主主義の歴史や基本的原理に関して、世界史学習と関連づけながら現代政治との関連性を理解しているか。民主主義の原理について適切に表現できるか。
	5	・日本国憲法の基本的性格	8	・日本国憲法の成立過程について、史実と関連させて適切に理解しているか。平和主義や基本的人権に関する憲法条規に関する知識を前提に、現実の課題に対する多面的に理解し、表現できるか。
	6	・日本の政治機構	8	・国会、内閣、裁判所、地方自治について、憲法条規に照らし合わせて、その仕組みや権限、さらに相互の均衡と抑制の在り方などを理解し、表現できるか。
	7	・現代日本の政治	4	・現代日本の政治動向から、課題を見だし客観的に思考し、表現できるか。政党政治や選挙制度など現実の政治課題に関して、社会の変化や様々な考え方を踏まえて公正に判断し、適切に表現できるか。
2	9	・現代の国際政治	6	・国内政治と国際政治の違いを考察し、表現できるか。国際社会における国際連合の在り方を公正に判断し、表現できるか。国際紛争の解決について歴史的事実を踏まえ客観的に考察し、表現できるか。
	10	・経済社会の変容	8	・混合経済や経済活動のグローバル化など現代経済の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現できるか。アダム＝スミスからケインズ、さらに新自由主義に至る経済学説を的確に理解しているか。
	11	・現代経済のしくみ	8	・市場機構や景気変動、金融・財政といった経済の諸理論について理解し表現できるか。
	12	・現代経済と福祉の向上	6	・戦後日本経済史との関連の中で、中小企業や農業問題、公害問題など日本経済の課題を考察し表現できるか
3	1	・世界経済と日本	4	・国際的な相互依存関係の深化など、国際経済の特質を多面的に考察し表現できるか。自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支表の見方や為替レートの仕組みなど関す知識を習得し表現できるか。
	2	・現代社会の諸課題	6	・地域社会と住民生活、中小企業の変化、農業、農村と食料、環境問題、雇用と労働の問題、社会保障、地球環境と経済成長、原子力と再生可能エネルギー、人種・民族問題、南北問題の是正と国際協力、日本や国際社会の政治や経済の課題について理解し、表現でき
	3		4	
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択地理> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	2単位
使用教科書	東京書籍「地理B」 二宮書店「詳解現代地図」
使用補助教材	帝国書院「新詳地理資料 COMPLETE」 東京法令出版「ニューコンパスノート」

目標
・地理的な見方・考え方や地理的技能を確実に定着させ、現代世界の地理的事象を考察する力を身に付ける。 ・大学入学共通テストをはじめ、大学入試問題に対応できる学力を付ける。

評価の観点と方法・材料
定期考査や作業課題など、生徒各自の地理的な知識や技能について多面的な観点からとらえるとともに、積極的な発言等授業中の態度なども含め総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・現代世界の諸地域（東アジア地誌）	10	・我が国も東アジアの一員としてともに共存をはかるべく、東アジアの各地域について民族や産業について理解を深め、領土問題などの諸問題について、その問題解決の方策を考察している。
	5			
	6	・現代世界の諸地域（東南アジア、南アジア地誌）	8	・東南アジアと南アジアについて関心を持って学習を進めるとともに、モンスーンの影響を強く受ける環境や、旧宗主国の影響を受ける宗教や経済、産業などにおける、様々な実態について理解を深める。
	7	・現代世界の諸地域（西アジア、アフリカ地誌）	8	・西アジアとアフリカについて関心を持って学習を進めるとともに、地域の環境や、イスラームを中心とした宗教や多様な民族、一部の資源に依存する産業などにおける、様々な変化や問題点について理解を深める。
2	9	・現代世界の諸地域（ヨーロッパ地誌）	10	・ヨーロッパについて関心を持って学習を進めるとともに、地域の環境や、地域ごとの宗教や民族分布、世界をリードする産業、EUを中心とした経済統合などにおける、様々な実態や問題点について理解を深める。また、ロシア周辺諸国における自然や歴史、産業の特色について理解を深める。
	10	・現代世界の諸地域（北アメリカ地誌）	6	・北アメリカについて関心を持って学習を進めるとともに、地域の環境や、多様な民族の分布、産業の歴史や現状などにおける、様々な実態や問題点について理解を深める。
	11	・現代世界の諸地域（南アメリカ地誌）	5	・南アメリカについて関心を持って学習を進めるとともに、地域の環境や、歴史と民族、植民地時代の影響の残る産業などについての知識・理解を深めている。
	12	・現代世界の諸地域（オセアニア地誌）	5	・オセアニアについて関心を持って学習を進めるとともに、地域の環境や環境問題、民族問題、各国の特色ある産業などについての知識・理解を深めている。
3	1	・現代世界と日本（日本の国土の特色）	10	・我が国の特色について関心を持って学習を進め、世界の諸地域との類似点・相違点などについての知識・理解を深めるとともに、日本の各地域の地理的特色について理解を深めている。また、世界と日本の結び付きについて考察している。
	2			
	3	・現代世界と日本（探究学習）	8	・現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択地理演習> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	2単位
使用教科書	東京書籍「地理B」 二宮書店「詳解現代地図」
使用補助教材	帝国書院「新詳地理資料 COMPLETE」 東京法令出版「ニューコンパスノート」

目標
・地理的な見方・考え方や地理的技能を確実に定着させ、現代世界の地理的事象を考察する力を身に付ける。
・大学入学共通テストをはじめ、大学入試問題に対応できる学力を付ける。

評価の観点と方法・材料
定期考査や作業課題など、生徒各自の地理的な知識や技能について多面的な観点からとらえるとともに、積極的な発言等、授業中の態度なども含め総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・地理情報と地図、地域調査（地球儀、様々な時代や種類の世界地図、地理情報、地域調査）の問題演習	6	・地図化してとらえることの有用性を考察している。また、様々な資料や情報から主題図を作るなど、地図化して追究する技能を身に付け、地図に関する知識を理解している。
	5	・自然環境（地形、気候、植生、環境問題）の問題演習	8	・地形の特徴と生活への影響について関心を持つとともに、その特徴や地理的事象を系統地理的に理解している。また、気候の特徴と生活への影響について関心を持つとともに、気候ごとの特徴を理解し、資料や情報を系統地理的に理解している。
	6	・資源、産業（資源・エネルギー、農業、工業、流通、消費、資源・エネルギー問題、食料問題）の問題演習	10	・産業と自然の関わり、工業の発達や立地、産業のグローバル化について理解・関心を高め、その多様性や地域性を大観するとともに、問題解決の方策について意欲的に考察している。
2	7	・人口、都市・村落（人口、都市・村落、人口問題、居住・都市問題）の問題演習	6	・世界の人口の動向について、様々な資料などから理解を深め、さらに各国で問題になっている事象について考察している。また、世界の村落・都市についての現状を理解し、様々な問題点についてその解決方法を考察している。
	9	・生活文化、民族・宗教（生活文化、民族・宗教、民族問題、領土問題）の問題演習	8	・世界の生活・文化及び民族・宗教について理解を深める。その上で、世界各地で発生している民族・領土問題について、関心を持つとともにその解決方法を考察している。
	10	・現代世界の地域区分（地域区分の方法）の問題演習	4	・現代世界の各地域、各国について調査をし、関心を高めるとともに理解を深める。
	11	・現代世界の諸地域（アジア地誌）の問題演習	8	・我が国もアジアの一員としてともに共存をはかるべく、アジアの各地域について理解を深め、領土問題などいくつか生じている問題について、その問題解決の方策を考察している。
3	12	・現代世界の諸地域（アフリカ地誌、ヨーロッパ地誌）の問題演習	6	・アフリカとヨーロッパについて関心を持って学習を進め理解を深めるとともに、地域で起きている環境や経済、民族などの様々な問題点について解決方法を考察している。
	1	・現代世界の諸地域（北アメリカ地誌、南アメリカ地誌、オセアニア地誌）の問題演習	8	・アメリカやオセアニアについて関心を持って学習を進め、地域で起きている人種・民族問題や環境問題などについての知識・理解を深めている。
	2	・現代世界と日本（日本の国土の特色）の問題演習	6	・我が国の特色について関心を持って学習を進め、世界の諸地域との類似点・相違点などについての知識・理解を深めている。また、世界と日本の結び付きについて考察している。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択世界史> 年間指導計画

単位数	4単位
使用教科書	山川出版社 詳説世界史B
使用補助教材	浜島書店 ニューステージ 世界史 詳覧

目標
・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解・国際的共生や現代を歴史的に捉えられる思考を養う。

評価の観点と方法・材料
授業態度・ノート作成・発問への答えかた・定期考査によって評価を行う。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエントと地中海世界 ・古代オリエント世界	20	・文明の発祥についてメソポタミア・エジプトを通して、理解したかどうかを見る。 ・古代オリエント世界がどのような形で統合され、メソポタミアとエジプトで生まれた文化の継承を理解したかどうかを見る。
	5	・ギリシア世界 ・ローマ世界	20	・ギリシア・ローマ世界の発展と衰亡について、歴史的経緯を理解したかどうかを見る。またこの二つの文明の文化的広がりを理解したかどうか。キリスト教の成立と広がり理解したかどうかを見る。
	6	・古代アジア・アメリカの文明 ・古代インド文明・古代中国文明	20	・古代インド文明の発祥と仏教などの宗教の世界的広がりを理解したかどうかを見る。
	7		20	・古代中国文明について黄河文明・殷王朝～唐王朝に至る流れの中で文化・文明の形成を理解したかどうかを見る。
2	9	・イスラーム世界の形成と発展	20	・イスラーム教の成立と拡大そしてイスラーム教の分裂を理解したかどうかを見る。アラブ人文化からイラン人そしてトルコ人への中心が移動していく歴史的展開を理解したかどうかを見る。
	10	・ヨーロッパ中世世界の形成と発展	20	・ゲルマン民族の大移動から、現在の西ヨーロッパ世界の形成とスラヴ人の移動によって、現在の東ヨーロッパの礎がどう形成されたかを理解したかどうかを見る。また中世後期におけるヨーロッパ世界の変容を理解したかどうかを見る。
	11	・内陸アジア・東アジア世界の展開	20	・宋王朝から元王朝に至る変化の中で、内陸アジア諸民族がどのような関連性を持ったかを理解したかどうかを見る。
	12		20	
3	1	・アジア諸地域の繁栄	20	・オスマントルコ・ムガル朝・明王朝と清王朝を軸にアジア世界の繁栄の姿とヨーロッパ勢力との関係を、経済関係を軸に政治的・文化的変化を理解したかどうかを見る。
	2			
	3			
年間授業時数			140	

令和3年度 <6学年 選択世界史演習> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	山川出版社 詳説世界史B
使用補助教材	浜島書店 ニューステージ 世界史 詳覧

目標
・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解・国際的共生と現代を歴史的に捉えられる思考を養う。

評価の観点と方法・材料
授業態度・ノート作成・発問への答えかた・演習問題の成果によって評価する

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・5年生で学習した大航海時代から絶対主義までの世界史について問題集を通して復習する。	15	・模擬テストを毎時間ごとに実施し、それによって評価する。
	5			
	6	・絶対主義から19世紀ヨーロッパ世界を問題集を通して復習する。	14	・模擬テストを毎時間ごとに実施し、それによって評価する。
	7			
2	9	・大学入試過去問題と問題演習をとおして、受験準備を進める。 ・先史時代から1学期に実施した時代を除いて、現代までの大学入試過去問題の演習を行う。	14	・演習問題を通して、これまでの学習を総復習する。 ・知識及び理解の足りないところを再確認し、知識の定着を図る。
	10	・先史時代～古代オリエント世界 ・ギリシア・ローマ世界	15	
	11	・古代インド・古代中国 ・イスラーム世界		
	12	・ヨーロッパ中世史 ・近世ヨーロッパ世界 ・近代ヨーロッパ世界 ・欧米における近代国家の形成		
3	1	・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動	6	・大学入試過去問題を通して、各テーマについて理解し、学力がついているかを見る。 ・知識の定着を確認し、不十分なところを補う。
	2	・二つの世界大戦	6	
	3	・冷戦と第三世界の独立		
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年選択 日本史> 年間指導計画

単位数	4単位
使用教科書	『詳説日本史』(山川出版社)
使用補助教材	『新詳日本史』(浜島書店) 『日本史用語集』(山川出版社)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・原始社会の特色及び古代国家社会や文化について、国際環境と関連付けて考察させる。 ・中世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ・近世国家と社会や文化の特色について、国際環境に関連付けて考察させる。

評価の観点と方法・材料
授業に取り組む姿勢や、確認テスト、定期考査等を対象として総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・日本文化のあけぼの 旧石器文化、縄文文化、弥生文化時代の形成と発展について考察させ理解を深めさせる。	12	<ul style="list-style-type: none"> ・旧石器文化、縄文文化、弥生文化の形成と発展について考察し理解を深めている。 ・原始・古代の日本の歴史について、資料に基づいて論理的に説明できる。 ・律令国家体制の成立や東アジア諸国との国際関係について、考察し理解している。 ・律令政治の成立と展開の過程を論理的に説明できる。 ・摂関政治、国風文化、地方政治の展開と武士について考察し、理解している。 ・貴族政治の変化と社会経済の動きについて、論理的に説明できる。 ・院政と兵士の台頭、鎌倉幕府の成立、武士の社会について考察し、理解している。 ・鎌倉時代の政治・社会の変遷について、論理的に説明できる。
	5	・律令国家の形成 律令体制の成立や東アジア諸国との国際関係について、考察させ理解させる	12	
	6	・貴族政治と国風文化 摂関政治、国風文化、地方政治の展開と武士について考察させ、理解させる	16	
	7	・中世社会の成立 院政と兵士の台頭、鎌倉幕府の成立、武士の社会について考察させ、理解させる	8	
2	9	・武家社会の成長 室町幕府の成立やその衰退、庶民の台頭について考察させ、理解させる	12	<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府の成立やその衰退、庶民の台頭について考察し、理解している。 ・中世の社会構造の変化について論理的に説明できる。 ・織豊政権や桃山文化、幕藩体制の成立について考察し理解している。 ・織豊政権の歴史的な位置づけについて、論理的に説明できる。 ・幕政の安定、経済の発展、元禄文化の成立について考察し、理解している。 ・幕藩体制の特質について、論理的に説明できる。 ・幕政の改革、幕府の衰退や近代への道りについて考察し、理解している。 ・幕政改革の必要性を、世界史的視野をもって論理的に説明できる。
	10	・幕藩体制の確立 織豊政権や桃山文化、幕藩体制の成立について考察させ、理解させる	16	
	11	・幕藩体制の展開 幕政の安定、経済の発展、元禄文化の成立について考察させ、理解させる。	16	
	12	・幕藩体制の動揺 幕政の改革、幕府の衰退や近代への道りについて考察させ、理解させる	8	
3	1	・古代から現代に至る内政・外交・経済の展開を通観させ、理解を深めさせる。	12	<ul style="list-style-type: none"> ・内政・外交の展開について、大局的な観点から説明できる。 ・土地制度や貨幣制度の展開を、的確かつ簡潔に説明できる。 ・学問、文学、美術の各分野の展開について、古代から近現代までの概略を、簡潔に説明できる。 ・わが国の内政、外交、経済、文化の展開について、日本列島がおかれた自然環境や諸外国との関係性を、地理的な観点をふまえて、地図等を活用しながら説明できる。
	2	・古代から現代に至る文化の展開を通観させ、理解を深めさせる。	16	
	3	・わが国の古代から近現代にいたる歴史について、地理的な見方を交えて考察させる。	12	
年間授業時数			140	

令和3年度 <6学年 選択日本史演習> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	『詳説日本史』(山川出版社)
使用補助教材	『新詳日本史』(浜島書店) 『日本史用語集』(山川出版社)

目標
・共通テストをはじめ大学入試の実際の出題例に多く触れさせることにより、通史・部門史の知識を確実なものとし、多様な入試問題に対応できる力を身につけさせる

評価の観点と方法・材料
授業に取り組む姿勢や、確認テスト、定期考査等を対象として総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・近代国家の成立 幕末から明治中期について、問題演習を通じて理解を深めさせる。	9	・幕末から立憲政治の成立にかけての歴史の流れについて、大局的な見地から理解している。
	5	・近代日本とアジア 明治後期から昭和戦前期について、問題演習を通じて理解を深めさせる。	9	・明治中期から昭和戦前・戦中期にかけての政治史・外交史、および明治期の社会経済史・文化史の流れについて、大局的な見地から理解している。
	6	・占領下の日本、高度成長の時代 昭和戦後期から高度成長期について、問題演習を通じて理解を深めさせる。	6	・第二次大戦終結から高度成長期にかけての政治史・外交史・社会経済史の流れについて、大局的な見地から理解している。
	7	・激動する日本と世界 低成長期以降、現代までについて、問題演習を通じて理解を深めさせる。	5	・高度成長の終焉から現代にかけての政治史・外交史・社会経済史、および昭和戦後期以降の文化史の流れについて、大局的な見地から理解している。
2	9	・日本文化のあけぼの、律令国家の形成 旧石器時代から奈良時代について、問題演習を通じて理解を深めさせる。	6	・旧石器時代から古墳時代の文化の諸相、および古代律令国家の成立に至る時期の政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。
	10	・貴族政治と国風文化、中世社会の成立と発展 平安時代から室町時代について、問題演習を通じて整理し、理解を深めさせる。	7	・平安時代から室町時代にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。
	11	・幕藩体制の確立と展開 織豊時代から江戸時代前期について、問題演習を通じて理解を深めさせる。	8	・織豊時代から江戸時代前期にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。
	12	・幕藩体制の動揺 江戸時代中・後期について、問題演習を通じて理解を深めさせる。	8	・江戸中期から後期にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。
3	1	・古代から現代に至る内政・外交・経済の展開を通観させ、理解を深めさせる。	4	・内政、外交のそれぞれのテーマに沿って、日本史の大きな流れを説明することができる。
	2	・古代から現代に至る文化の展開を通観させ、理解を深めさせる。	4	・経済の展開について、土地制度や貨幣制度等のテーマに沿って大きな流れを説明することができる。
	3	・わが国の古代から近現代にいたる歴史について、地理的な見方を交えて考察させる。	4	・文化の発展について、文学、学問、美術等のテーマに沿って大きな流れを説明することができる。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択 政治経済> 年間指導計画

単位数	単位
使用教科書	実教出版「312 高校政治・経済」
使用補助教材	とうほう「政治・経済資料 2021」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の本質を理解し、広い視野から現代の政治・経済・国際関係について客観的に理解する能力を身につける。 ・政治・経済・国際関係に関する諸課題について主体的に考察する。 ・公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力と態度を育てる。

評価の観点と方法・材料

現代の政治、経済、国際関係について関心を持ち、課題を追究するとともに、国家や国際社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察する知識を身につけ、適切に表現する能力が養われているか、定期考査等を通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・経済社会の変容	8	<ul style="list-style-type: none"> ・混合経済や経済活動のグローバル化など現代経済の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現できるか。アダム＝スミスからケインズ、さらに新自由主義に至る経済学説を的確に理解しているか。 ・市場機構や景気変動、金融・財政といった経済の諸理論について理解し表現できるか。 ・戦後日本経済史との関連の中で、中小企業や農業問題、公害問題など日本経済の課題を考察し表現できるか ・国際的な相互依存関係の深化など、国際経済の特質を多面的に考察し表現できるか。自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支表の見方や為替レートの仕組みなど関す知識を習得し表現できるか。
	5	・現代経済のしくみ	8	
	6	・現代経済と福祉の向上	8	
	7	・世界経済と日本	4	
2	9	・民主政治の基本原理	6	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の歴史や基本的原理に関して、世界史学習と関連づけながら現代政治との関連性を理解しているか。民主主義の原理について適切に表現できるか。 ・日本国憲法の成立過程について、史実と関連させて適切に理解しているか。平和主義や基本的人権に関する憲法条規に関する知識を前提に、現実の課題に対する多面的に理解し、表現できるか。 ・国会、内閣、裁判所、地方自治について、憲法条規に照らし合わせて、その仕組みや権限、さらに相互の均衡と抑制の在り方などを理解し、表現できるか。 ・現代日本の政治動向から、課題を見だし客観的に思考し、表現できるか。政党政治や選挙制度など現実の政治課題に関して、社会の変化や様々な考え方を踏まえて公正に判断し、適切に表現できるか。 ・国内政治と国際政治の違いを考察し、表現できるか。国際社会における国際連合の在り方を公正に判断し、表現できるか。国際紛争の解決について歴史的事実を踏まえ客観的に考察し、表現できるか。
	10	・日本国憲法の基本的性格	8	
	11	・日本の政治機構	8	
	12	・現代日本の政治・現代の国際政治	6	
3	1	・現代社会の諸課題	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会と住民生活、中小企業の変化、農業、農村と食料、環境問題、雇用と労働の問題、社会保障、地球環境と経済成長、原子力と再生可能エネルギー、人種・民族問題、南北問題の是正と国際協力、日本や国際社会の政治や経済の課題について理解し、表現できるか。
	2		6	
	3		4	
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択倫理> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	実教出版「312 高校倫理」
使用補助教材	実教出版「詳解倫理資料新訂版」 実教出版「2022年入試 ベストセレクション 大学入学共通テスト 倫理重要問題集」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題と、人間としての生き方を理解する。 ・主体としての自己の確立をめざして、人間の尊厳についての倫理的な考え方を学ぶ。 ・現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断力を養う。

評価の観点と方法・材料
基本的な知識を身につけ、倫理的な課題に対する思考力や表現力が養われているかを定期考査やレポートなどを通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本思想（古代日本人の思想） ・日本思想（日本の仏教思想） 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土や伝統、外来思想の受容に対する関心を高め、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観についての基本的な知識を習得し、表現できる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本思想（近世日本の思想） ・日本思想（西洋思想の受容と展開） 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近世思想や西洋思想の受容についての基本的事項を習得し、表現できる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題と倫理（生命の倫理、環境の倫理） 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間とのかかわり（生命倫理・環境倫理）、社会生活と自己とのかかわり（家族・社会・情報化）、国際社会と自己とのかかわり（異文化理解・国際平和）などの視点から、現代の倫理的諸課題を、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断できている。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題と倫理（生命の倫理、環境の倫理、家族の課題、地域社会の課題、情報社会の課題、文化と宗教の課題、国際平和と人類の福祉の課題） 		
2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題と自己形成 問題演習 ・源流思想（ギリシア思想）問題演習 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義と課題に関する基本的な考え方を習得し、自らの問題として考察し、表現することができる。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・源流思想（キリスト教）問題演習 	2	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・源流思想（イスラーム）問題演習 ・源流思想（仏教）問題演習 ・源流思想（中国思想）問題演習 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ユダヤ教やキリスト教に関する基本的な知識を習得し、人間の存在や価値にかかわる基本的課題を考察し表現できる。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近現代思想（人間の尊厳）問題演習 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームや仏教に関する基本的な知識を習得し、人間の存在や価値にかかわる基本的課題を考察し表現できる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近現代思想（科学・技術と人間）問題演習 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・中国思想に関する基本的な知識を習得し、人間の存在や価値にかかわる基本的課題を考察し表現できる。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近現代思想（民主社会と自由の実現、社会と個人）問題演習 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる人間が直面する諸課題について、ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開に関する基本的知識を習得し、表現できる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近現代思想（人間への新たな問い、社会参加と幸福）問題演習 	6	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト対策演習 	18	<ul style="list-style-type: none"> ・市民社会の形成が哲学や思想にどのような影響を与えたかについての基本的事項を習得し、表現できる。 ・近代の人間中心主義を再検討する思想を自己の生き方とつなげて理解し、社会参加や自己実現ともかかわりながら、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 ・一年間の倫理の基本知識を身に付け、倫理的な課題に対する思考力や表現力が養われている。
年間授業時数			70	

令和3年度 <4学年 文化科学Ⅱ> 年間指導計画

単位数	1 単位
使用教科書	実教出版「高校政治・経済」
使用補助教材	実教出版「2021 新政治経済資料集」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法をはじめとする法律について学び、基礎的な法的思考力を養う。 ・日本の財政、税制、裁判について学び、主権者としての公民的資質を養う。

評価の観点と方法・材料
基礎的な法的思考力が養われているか、定期考査やレポート等を通し、評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・日本の法体系 (法とは何か、法の特徴)	3	・日本の法体系についての基本原理について基礎的な学習事項を習得し、表現できるか。
	5	・民主政治の基本原則 (民主政治の成立、社会契約説、法の支配、近代の民主政治、国民主権、基本的人権の尊重、人権思想のあゆみ)	3	・民主政治の基本原則について基礎的な学習事項を習得し、表現できるか。
	6	・日本国憲法	4	・日本国憲法について基礎的な学習事項を習得し、表現できるか。
	7	・基本的人権の尊重 ※ 憲法出前授業	2	・基本的人権の尊重について基礎的な学習事項を習得し、自らの問題として考察し、表現できるか。
2	9	・財政のしくみ (財政のしくみと機能、予算制度、財政の規模と内訳、公債、財政赤字と財政再建、戦後日本の財政の歩み、租税の種類、国民負担率)	4	・日本の財政についての基礎的な学習事項を習得し、主権者として少子高齢化や日本の財政の現状を踏まえ、社会保障制度の未来について自らの問題として考察し、表現できるか。
	10		3	
	11	・日本の社会保障制度 ※ 財務教室	3	・日本の社会保障制度について基礎的な学習事項を習得し、自らの問題として考察し、表現できるか。
	12	・税の歴史と現代の税制 ※ 租税教室	3	・税の歴史と現代の税制を学び、主権者として税の徴収方法と税の使い方についてどのような視点を持たなければならないのかを考察する。
3	1	・日本の裁判制度と裁判員裁判 (裁判の種類、刑事裁判、民事裁判、起訴独占主義と検察審査会、裁判員裁判、司法制度改革)	3	・日本の裁判制度と裁判員裁判について基礎的な学習事項を習得し、自らの問題として考察し、表現できるか。
	2		3	
	3	※ 模擬裁判員体験	4	
年間授業時数			35	

令和3年度 <4学年 数学I > 年間指導計画

単位数	3単位	目標 <ul style="list-style-type: none"> ・推論の正しい進め方を身に付け、理論についての理解を深める。 ・数学的な思考力・判断力・表現力を身に付け、根拠をもって説明する力をつける。 ・課題学習に取り組み、多角的なものの見方や考え方を身に付ける。
使用教科書	数研出版 改訂版 数学I	
使用補助教材	サクシード 数学I+A チャート式 数学I+A チャート式 数学II+B 体系数学3 数式・関数編 体系数学3 論理・確率編 ※いずれも、数研出版	

評価の観点と方法・材料	
<評価の観点> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 ・数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的、発展的に考える。 ・各単元において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 ・各単元における基本的な概念、原理、法則、用語、記号等を理解し、基礎的な知識を身に付けている。 <評価の方法と材料> 出席状況、授業への取り組み、定期考査、宿題テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習 等	

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<2次関数> 関数とグラフ、2次関数のグラフ、 グラフの移動、2次関数の最大と最小	30	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数とそのグラフや値の変化に関心をもつとともに、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、事象の考察に2次関数を活用しようとしている。 ・2次関数を用いて数量の変化を表現し、関数の値の変化を調べたり、考察し表現したり、その過程を振り返ったりすることなどを通して、関数的な見方や考え方を身に付けている。 ・2次関数とそのグラフおよび関数の値の変化における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。
	5	2次関数の決定、2次方程式、 グラフと2次方程式、 放物線と直線の共有点、 グラフと2次不等式、 絶対値を含む関数のグラフ		
	6	<図形と計量> 三角比、三角比の相互関係、 三角比の拡張、正弦定理、余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用、 三角形の面積、ヘロンの公式、 空間図形への応用	22	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比を用いた計量に関心をもつとともに、基本的な性質を理解し、知識を身に付け、事象の考察に活用しようとしている。 ・三角比を用いて事象を表現、処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・三角比を用いて事象を考察し表現することや、思考の過程を振り返ったりすることなどを通して、角の大きさなどを用いて計量を行うための数学的な見方や考え方を身に付けている。
2	9	<データの分析> 代表値、 データの散らばりと四分位範囲、 変量の変換、分散と標準偏差、 データの相関	8	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分析に関心をもつとともに、基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 ・データを用いて事象を考察し、表現、処理する仕方や傾向を把握する方法などの技能を身に付けている。
	10			
	11			
	12			

		<p><式と証明></p> <p>3次式の展開と因数分解、二項定理、整式の割り算、分数式とその計算、恒等式、等式の証明、不等式の証明</p>	17	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の除法、分数式、式の証明に関心をもち、基礎的な知識を身に付けている。また、それらを問題の解決に活用しようとする。 ・整式の除法や分数式の計算、式の証明を通して式の見方を豊かにし、数学的に考察することができる。 ・いろいろな式の計算、式の証明を処理することができる。
3	1	<p><複素数と方程式></p> <p>複素数、2次方程式の解と判別式、解と係数の関係、剰余の定理と因数定理、組立除法、高次方程式、3次方程式の解と係数の関係</p>	18	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数解まで発展させた2次方程式及び高次方程式を解くことに関心をもち、それらを問題の解決に活用しようとする。 ・数の範囲を拡張することによって、2次方程式の解を発展させることや高次方程式を解くことを数学的に考察することができる。 ・2次方程式、高次方程式を処理することができるようにする。 ・数の複素数までの拡張、2次方程式、高次方程式などの基本的な概念、原理、用語・記号を理解し、基礎的な知識を身に付けている。
	2			
年間授業時数			105	

令和3年度 <4学年 数学A> 年間指導計画

単位数	2単位	<p style="text-align: center;">目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・整数の性質について理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 ・図形の性質について理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。(既習事項のため、定期考査ごとに復習をする。) ・課題学習に取り組み、多角的なものの見方や考え方を身に付ける。
使用教科書	数研出版 改訂版 数学A	
使用補助教材	サクシード 数学I+A チャート式 数学I+A 体系数学3 数式・関数編 体系数学3 論理・確率編 ※いずれも、数研出版	

<p>評価の観点と方法・材料</p>
<p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して、各単元における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 ・数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的、発展的に考える。 ・各単元において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 ・各単元における基本的な概念、原理、法則、用語、記号等を理解し、基礎的な知識を身に付けている。 <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、授業への取り組み、定期考査、宿題テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<場合の数>	30	<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数と確率における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ・場合の数と確率において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 ・場合の数と確率において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・場合の数と確率における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
	5	集合の要素の個数、場合の数、順列、円順列・重複順列 組合せ		
	6	<確率> 事象と確率、確率の基本性質、独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率、原因の確率		
2	9			

3	10	<整数の性質> 最大公約数と最小公倍数、 整数の割り算、 自然数の積と素因数の個数、 割り算の余りの性質、合同式、 ユークリッドの互除法、 1次不定方程式、 分数と小数、 n進法	27	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ・整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 ・整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている
	11		13	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んだ学習内容について、 ①よさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ②思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な考え方を身に付けている。 ③事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ④基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
12	13			
年間授業時数			70	

令和3年度 <5学年 数学Ⅱ> 年間指導計画

単位数	4単位
使用教科書	数研出版 数学Ⅱ
使用補助教材	サクシード 数学Ⅱ+B チャート式 数学Ⅱ+B サクシード 数学Ⅲ チャート式 数学Ⅲ 体系数学5 ※いずれも、数研出版

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・推論の正しい進め方を身に付け、理論についての理解を十分に深める。 ・数学的な思考力・判断力・表現力を身に付け、根拠をもって説明する力をつける。 ・課題学習にも取り組み、多面的なものの見方や考え方を身に付ける。

評価の観点と方法・材料

<評価の観点>

- ・数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
- ・数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるときに思考の過程を振り返り多面的、発展的に考える。
- ・各単元において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。
- ・各単元における基本的な概念、原理、法則、用語、記号等を理解し、基礎的な知識を身に付けている。

<評価の方法と材料>

出席状況、授業態度、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<複素数と方程式> 組立除法、高次方程式、 3次方程式の解と係数の関係	10	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式、高次方程式を処理することができるようにする。 ・数の複素数までの拡張、2次方程式、高次方程式などの基本的な概念、原理、用語・記号を理解し、基礎的な知識を身に付けている。
	5	<図形と方程式> 直線上の点、平面上の点、 直線の方程式、2直線の関係 円の方程式、円と直線、2つの円 軌跡と領域、不等式の表す領域	25	<ul style="list-style-type: none"> ・座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができるようにする。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用することができるようにする。 ・座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用することができるようにする。 ・図形を与えられた条件をみたす点の集合として考えることを通して、軌跡や領域について理解する。また、簡単な場合について軌跡を求めたり、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができるようにする。さらに、領域の考え方は、証明や最大・最小問題の解決に有用であることを理解する。
	6	<三角関数①> 一般角と弧度法、三角関数、 三角関数の性質、三角関数のグラフ、 三角関数の応用	13	<ul style="list-style-type: none"> ・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方や扇形の面積の求め方などについて理解する。また、三角関数について、相互関係などの基本的な性質や周期性をもつグラフの特徴について理解する。さらに、三角関数を用いた、方程式・不等式の解が求められることができるようにする。
2	9	<三角関数②> 加法定理、加法定理の応用、 三角関数の合成	8	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数の加法定理を理解し、それを用いて2倍角の公式を導くことができるようにする。さらに、三角関数の合成について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。

	10	<p><指数関数と対数関数> 指数の拡張、指数関数 対数とその性質、対数関数、 常用対数</p>	18	<ul style="list-style-type: none"> 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができるようにする。 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。また、対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができるようにする。さらに、常用対数の理解を通じて、対数関数の有用性を認識する。
	11 12	<p><微分法と積分法①> 微分係数、導関数 接線、関数の値の変化、 最大値・最小値、 関数のグラフと方程式・不等式 不定積分、定積分、面積</p>	30	<ul style="list-style-type: none"> 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができるようにする。 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができるようにする。また、グラフの概形を利用して、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することができるようにする。 不定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分を求めることができるようにする。
3	1	<p><微分法と積分法②> 定積分、面積</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> 定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の定積分を求めることができるようにする。 また、定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができるようにする。
	2	<p>標準 <数Ⅱ復習、入試演習①> 発展 <複素数平面> 複素数の極形式と乗法、除法 ド・モアブルの定理 複素数と図形</p>	28	<ul style="list-style-type: none"> 複素数は複素数平面を用いて図形的に表現することで、複素数の諸演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解させるとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようにさせる。 微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解させ、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにさせる。 微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解させ、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにさせる。
	3	<p>数列の極限、 関数の極限</p>		
年間授業時数			140	

令和3年度 <5学年 数学B> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	数研出版 数学B
使用補助教材	サクシード 数学Ⅱ+B(数研出版) チャート式 数学Ⅱ+B(数研出版)

目標
・数列およびベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する力を身につける。また、課題学習に取り組み、多面的なものの方や考え方を身につける。

評価の観点と方法・材料

<p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 ・数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的、発展的に考える。 ・各単元において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 ・各単元における基本的な概念、原理、法則、用語、記号等を理解し、基礎的な知識を身に付けている。 <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、授業態度、定期考査、宿題テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習</p>
--

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<数列①> 数列 等差数列とその和 等比数列とその和 和の記号 階差数列 いろいろな数列の和 数列の漸化式	24	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な数列について、数列の一般項の意味を理解し、基本用語を学ぶ。また、等差数列と等比数列を理解し、その一般項を求め、更に第n項までの和を求めることにより、数列の身近な問題の解決に活用できるようにする。 ・数列の和を、記号Σを用いて表すことを学び、記号Σの性質を調べる。続いて自然数の累乗の和の公式を導き出して、記号Σによって、いろいろな数列の和が見通しよく計算できることを理解する。さらに、ある数列については、その数列の各項の階差に着目すれば、その一般項が容易に求められることを理解し、処理できるようにする。 ・数列を漸化式で表し、漸化式の意味を理解する。さらに、1次の形の隣接二項間の漸化式のような簡単な漸化式で表された数列について、その一般項が求められるようにする。
	5			
	6			
2	9	<数列②> 数学的帰納法	4	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的帰納法について学び、自然数に関する方程式、不等式や命題の証明に利用することができるようにする。
	10	<平面のベクトル①> 平面のベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	24	<ul style="list-style-type: none"> ・平面上のベクトルについて、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。ベクトルの意味については、理解しやすい事象に即して導入し、ベクトルの考えが具体的な場面に活用できるようにする。 ・ベクトルの内積の意味や基本的な性質を理解し、平面図形の性質の考察に応用する。 ・位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察において形式的な処理ができることを認識する。 ・ベクトル方程式を取り扱い、平面図形の性質や関係を、ベクトルを用いて表現できるようにする。
	11			
	12			
3	1	<平面のベクトル②> ベクトルと平面図形	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトル方程式を取り扱い、平面図形の性質や関係を、ベクトルを用いて表現できるようにする。 ・空間においても座標が定められ、空間内の点は3つの実数の組として表されることを認識する。さらに、空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面上の場合と同様に考察することができる。 ・空間のベクトルの考え方が空間図形の具体的な問題の解決に応用できることを理解する。
	2	<空間のベクトル> 空間の座標、空間のベクトル ベクトルの成分		
	3	ベクトルの内積、位置ベクトル ベクトルと図形、座標空間における図形 平面の方程式、直線の方程式		
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択数学I> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	数研出版 数学I、数学A
使用補助教材	数研出版 サクシード数学I+A

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・数学I、数学Aの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、大学入試における得点力向上を図る。

評価の観点と方法・材料
<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストや各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。(関心・意欲・態度) [授業時の学習態度、提出ノートの内容] ・1つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。(数学的な見方や考え方) [定期考査、小テスト] ・数学I、数学Aの全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。(数学的な技能) [定期考査、小テスト] ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。(知識・理解) [定期考査、小テスト]

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<2次関数> 最大・最小問題 方程式・不等式への応用 平行移動	6	・文字係数を含む2次関数について、頂点の座標を求め、グラフの平行移動について考察することや、定義域における関数の最大最小問題を解決することができる。さらに、方程式・不等式の問題についてグラフを利用して考察することができる。
	5	<場合の数と確率> 順列・組合せ 確率の計算 条件付き確率	6	・公式を用いて順列・組合せの数を求めることや、樹形図などを利用して場合の数を求めることができる。確率について、基本計算や連続試行の確率、条件付き確率など典型パターンについての計算法を理解し、これらを利用して計算することができる。
	6	<平面図形と図形の計量> 三角比 正弦定理、余弦定理	6	・三角比を用いて、角度や長さを計算することや円に内接する四角形に関する問題の解法について習熟する。
	7	<整数問題> 約数・倍数の問題 剰余類・不定方程式	6	・整数を扱った入試問題の典型的パターンを学習し、これらを用いて問題解決することができる。
2	9	<平面図形の性質> <データの分析> ヒストグラム、箱ひげ図、散布図 平均、分散、標準偏差 共分散、相関係数	6	<ul style="list-style-type: none"> ・チェバの定理、メネラウスの定理や方べきの定理を理解し、これらを用いた典型問題を解決することができる。 ・データ分析の手法を理解し、統計の図式の解読を通して、統計量について考察することができる。与えられたデータから統計量を計算することや2種類のデータの相関について考察することができる。
	10	・総合問題演習 (問題導入部における判断力の強化)	8	・共通テスト受験に向けた総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。各大問の前半部分の解答方針が即座に立てられるかに指導の重点を置く。
	11	・総合問題演習 (問題中間部における解決力の強化)	8	・総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。各大問題の中盤から後半にかけて、粘り強く解答する応用力の養成を目指す。
	12	・総合問題演習 (問題全体を通じた総合解決力の強化)	6	・総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。試験時間内に全問題を解き切り、更に見直しをするなど、時間配分にも配慮した解答力の養成を目指す。
3	1	・総合問題演習 (私大対策演習)	6	・大学入試問題による演習 個別試験に向けた弱点補強
	2	・総合問題演習 (国公立大対策演習)	6	・大学入試問題による演習 個別試験に向けた弱点補強
	3	・総合問題演習 (後期日程対策演習)	6	・大学入試問題による演習 個別試験に向けた弱点補強
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択数学Ⅱ> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	数研出版 数学Ⅱ、数学B
使用補助教材	数研出版 サクシード数学Ⅱ+B 他 大学受験用問題集

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学Ⅱ、数学Bの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・ 問題演習を通して、大学入試における得点力向上を目指す。

評価の観点と方法・材料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テストや各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。 (関心・意欲・態度) [授業時の学習態度、提出ノートの内容] ・ 1つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探索するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。(数学的な見方や考え方) [定期考査、小テスト] ・ 数学Ⅱ、数学Bの全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。 (数学的な技能) [定期考査、小テスト] ・ 記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。(知識・理解) [定期考査、小テスト]

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<関数> 三角関数、指数関数、対数関数	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各関数の基本性質を理解するとともに、最大最小問題の解決力を高める。 ・ グラフを活用して方程式・不等式の問題を考察することができる。
	5	<微分・積分> 導関数、不定積分、定積分	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導関数を用いて関数の増減の様子を調べ、定義域における最大値・最小値を求めることができる。 ・ 微分係数を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ・ グラフを活用して、方程式の解の個数などについて考察できる。 ・ 定積分の計算を早く正確に実行できる。 ・ 2曲線の囲む部分の面積を定積分を利用して求めることができる。
	6	<数列> 一般項、和の公式、漸化式、 数学的帰納法	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数列の諸公式を状況に応じて的確に利用し、問題を解決できる。 ・ 漸化式の基本パターンについて理解し利用できる。確率の問題への応用など他分野との融合問題について高度な応用力をつける。
	7	<ベクトル> 平面ベクトルと空間ベクトル、ベクトルの成分、位置ベクトル図形への応用	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 位置ベクトルを利用して図形の位置関係(平行、垂直)や内分比や外分比を求めることができる。 ・ ベクトル方程式を理解し、問題解決の場面でこれを利用できる。
2	9	<図形と方程式> 直線、円の方程式 不等式と領域 最大最小問題と線形計画法	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二直線の垂直条件、平行条件を理解し応用できる。 ・ 円の方程式や円周上の点における接線の方程式などを利用すること、点と直線の公式を理解し、円と直線の位置関係の考察などに応用し、解決できる。
	10	・ 総合問題演習 (問題導入部における判断力の強化)	8	・ 共通テスト受験に向けた総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。各大問の前半部分の解答方針が即座に立てられるかに指導の重点を置く。
	11	・ 総合問題演習 (問題中間部における解決力の強化)	8	・ 共通テスト受験に向けた総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。各大問題の中盤から後半にかけて、粘り強く解答する応用力の養成を目指す。
	12	・ 総合問題演習 (問題全体を通じた総合解決力の強化)	6	・ 共通テスト受験に向けた総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。試験時間内に全問題を解き切り、更に見直しをするなど、時間配分にも配慮した解答力の養成を目指す。
3	1	・ 総合問題演習 (私大対策演習)	6	・ 大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強
	2	・ 総合問題演習 (国公立大対策演習)	6	・ 大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強
	3	・ 総合問題演習 (後期日程対策演習)	6	・ 大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択数学Ⅱ応用> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	数研出版 数学Ⅰ、数学A 数研出版 数学Ⅱ、数学B
使用副教材	数研出版 サクシード数学Ⅰ+A 数研出版 サクシード数学Ⅱ+B 数研出版 メジアン数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰ、A、Ⅱ、Bの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、大学入試における得点力向上を目指す。

評価の観点と方法・材料
<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学2次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。(関心・意欲・態度) [授業時の学習態度、提出ノートの内容] ・1つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。(数学的な見方や考え方) [定期考査、小テスト] ・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Bの全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。(数学的な技能) [定期考査、小テスト] ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。(知識・理解) [定期考査、小テスト]

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4 5 6 7	<数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの復習> ・関数と方程式・不等式 ・式と証明、論理 ・図形の性質 ・図形と方程式 ・三角・指数・対数関数 ・整数の性質	24	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを活用して方程式・不等式の問題を考察することができる。 ・いろいろな式の計算、式の証明を処理することができる。 ・図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身につけている。 ・円の方程式や円周上の点における接線の方程式などを利用すること、点と直線の公式を理解し、円と直線の位置関係の考察などに応用し、解決できる。 ・各関数の基本性質を理解するとともに、最大最小問題の解決力を高める。 ・整数問題を多角的に考察し、解決することができる。
2	8 9 10	<数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの復習> ・場合の数・確率 ・数列 ・ベクトル ・データの分析	14	<ul style="list-style-type: none"> ・和の法則や積の法則、順列・組合せの考えを理解して、場合の数を求め、それから確率を求めるための知識を身につけている。 ・数列の諸公式や漸化式の基本パターンについて理解し利用できる。確率の問題への応用など他分野との融合問題について高度な応用力がある。 ・位置ベクトルを利用して図形の位置関係(平行、垂直)や内分比や外分比を求めることができる。ベクトル方程式を理解し、問題解決の場面でこれを利用できる。 ・データを用いて事象を考察し、表現、処理する仕方や傾向を把握する方法などの技能を身につけている。
	11	・総合問題演習(問題中間部における解決力の強化)	8	・国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を行い、本試験における高い得点率を目指す。各大問の前半部分の解答方針が即座に立てられるかに指導の重点を置く。
	12	・総合問題演習(問題全体を通した総合解決力の強化)	6	・共通テスト受験に向けた総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。試験時間内に全問題を解き切り、更に見直しをするなど、時間配分にも配慮した解答力の養成を目指す。
3	1	・総合問題演習(私大対策演習)	6	・大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強
	2	・総合問題演習(国公立大対策演習)	6	・大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強
	3	・総合問題演習(後期日程対策演習)	6	・大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択数学Ⅲ> 年間指導計画

単位数	6単位
使用教科書	数学Ⅲ
使用補助教材	数研出版 サクシード数学Ⅲ 数研出版 チャート式数学Ⅲ

目標
・平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。

評価の観点と方法・材料
1. 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法に関心を持つとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。(関心・意欲・態度) [授業時の学習態度、提出ノートの内容]
2. 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。(数学的な見方や考え方) [定期考査、小テスト]
3. 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。(数学的な技能) [定期考査、小テスト]
4. 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。(知識・理解) [定期考査、小テスト]

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<複素数平面> 複素数平面 複素数の極形式と乗法，除法 ド・モアブルの定理 複素数と図形	14	・複素数は複素数平面を用いて図形的に表現することで、複素数の諸演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解させるとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようにさせる。
	5	<極限> 数列の極限 関数の極限	12	・微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解させ、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにさせる。
	6	<微分法> 微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 第n次導関数 関数のいろいろな表し方と導関数	42	・微分係数と導関数について理解を深めさせ、いろいろな関数(合成関数・逆関数・三角関数・対数関数・指数関数・陰関数)の導関数の意味を理解させ、その導関数が求められるようにさせる。また、第n次導関数の意味を理解させ、求められるようにさせる。
	7	<式と曲線> 2次曲線 媒介変数表示と極座標	10	・2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解させ、具体的な事象の考察に活用できるようにさせる。
2	9	<微分法の応用> 導関数の応用 速度と近似式	10	・微分法を用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性を認識させるとともに、具体的な事象の考察に活用できるようにさせる。
	10	<積分法> 不定積分、定積分	24	・いろいろな関数についての積分法を理解させ、活用できるようにさせるとともに、定積分と和の極限の関係について理解深めさせる。
	11	<積分法の応用> 面積 体積 曲線の長さ 速度と道のり	25	・積分法の有用性を認識させるとともに、図形の求積などに活用できるようにさせる。
	12	・総合問題演習 大学入試問題による演習	15	・共通テストレベルから、2次試験レベルまで、なるべく多くの問題に触れさせ経験を高める。
3	1	・総合問題演習 大学入試問題による演習	54	・共通テスト後は、志望校別の問題演習などを中心に据えて、傾向と対策を練らせる
	2			
	3			
年間授業時数			210	

令和3年度 <4学年 化学基礎> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	2単位
使用教科書	第一学習社「化学基礎」
使用補助教材	浜島書店「ニューステージ 化学図表」 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」

目標
・年間を通して、生徒実験や演示実験を多く取り入れ、生徒が化学への興味を持ちながら学習を継続し、学力をつけることを目標とする。 また、問題演習などを通して、主体的に学習する姿勢を身につける。

評価の観点と方法・材料
<評価の観点>学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察しようとする力があるか。 <評価の方法と材料>定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テスト、授業および実験への参加姿勢などを加味した総合評価とする。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・物質の探求	4	・物質の種類と性質、分離方法を理解できる。
	5	・物質の構成粒子 ・イオンとイオン結合	8	・イオン間の結合のしかたを理解できる。 ・イオン結合でできた物質の性質を理解できる
	6	・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・金属と金属結合 ・【実験】結晶の性質	8	・原子間の結合のしかたを理解できる ・共有結合でできた物質の性質を理解できる。 ・分子間に働く力について理解できる。 ・金属原子間の結合のしかたを理解できる。
	7	・物質と化学反応式	5	・原子量・分子量・式量を理解できる。
2	9	・物質と化学反応式 ・化学反応式と量的関係	6	・物質と質量、体積の関係を理解できる。 ・溶液の濃度を理解できる。 ・化学反応を化学反応式で表すことができる。
	10	・化学反応式と量的関係 ・【実験】化学反応における量的関係 ・【実験】硫酸銅(Ⅱ)の水和水 ・酸と塩基	7	・化学変化における量的関係を理解できる。 ・化学史に沿って基本法則の関連を理解できる。 ・酸・塩基の性質・反応を理解し、中和における酸塩基の量的関係を理解できる。
	11	・酸と塩基 ・【実験】滴定曲線 ・【実験】中和滴定	8	・水素イオン濃度とpHの関係を理解できる。 ・滴定曲線を書くことができる。 ・塩の性質について理解できる。 ・中和滴定の指示薬を選択できる。
	12	・酸化還元反応	4	・酸化と還元の見分け、酸化数を理解できる。 ・酸化剤・還元剤の働きを理解できる。
3	1	・酸化還元反応 ・【実験】酸化還元反応	8	・電子に着目した酸化還元の見分けを理解できる。 ・酸化剤・還元剤を反応式で表すことができる。
	2	・酸化還元反応 ・【実験】電池 ・【実験】電気分解・ファラデーの法則	6	・電池の原理を理解している。 ・電気分解の各極での反応を理解できる。 ・電気量と生成物の関係を理解できる。
	3	・酸化還元反応	6	・酸化還元反応を応用した身近な現象を理解できる。
年間授業時数			70	

令和3年度 <4学年 生物基礎> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	183 第一生基 318 改訂生物基礎
使用補助教材	○リードα生物基礎・生物 (数研出版) ○フォトサイエンス生物図録 (数研出版)

目標
○生物に関する基礎知識について、理解を深め、知識を習得する。
○科学的・生物学的な論理について学び、思考力を身につける。
○各種生物現象などについて、自ら探究し問題解決できる能力を高める。

評価の観点と方法・材料
○基礎知識の習得および問題解答力の修得を、定期考査及び小テストや課題プリント、実験レポート等により評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	○生物の特徴（多様性と共通性）	12	○原核生物と真核生物の違いおよび細胞構造について理解する。 ○5界説・3ドメイン説について理解する。 ○顕微鏡操作と生物スケッチ、マイクロメーター操作を修得する。 ○ATPの構造と働きを理解する。 ○酵素の特徴と機能について理解する。 ○呼吸と光合成のしくみについて理解する。 ○細胞内共生説について理解する。
	5	○生物の特徴（生命活動とエネルギー） ○生物の特徴（代謝と酵素反応）		
	6	○遺伝子とそのはたらき（DNA） ○遺伝子とそのはたらき（転写・翻訳）	14	○DNAの構造、研究史、セントラルドグマについて理解する。 ○細胞分裂のしくみ、DNA量の変化について理解する。 ○押しつぶし法、だ腺染色体観察法を修得する。
	7	○体内環境の維持（体内環境）		○体液と循環系について理解する。 ○赤血球の働きの理解および、グラフ・計算問題解法を習得する。 ○血小板の働きを理解する。
2	9	○体内環境の維持（体内環境）	16	○腎臓・肝臓の働きの理解および、計算問題解法を習得する。 ○体液塩分濃度調節のしくみについて理解する。 ○免疫細胞の種類と働き、自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる各種事象について理解する。
	10	○体内環境の維持（免疫） ○体内環境の維持（体内環境の調節）		
	11	○植生の多様性と分布（バイオーム）	12	○世界のバイオームについて、降雨量・気温との関連性を理解する。 ○日本のバイオームについて、水平・垂直分布を理解する。 ○森林の階層構造について理解する。
	12	○植生の多様性と分布（植生と遷移）		○光－光合成曲線と陽生植物・陰生植物の関係について理解する。 ○一次遷移・二次遷移・極相・ギャップ更新について理解する。
3	1	○生態系とその保全（生態系）	16	○各種生態系の成り立ちと構造について理解する。 ○生態ピラミッドと栄養段階のエネルギー収支の理解および、計算問題解法を習得する。 ○生態系における炭素循環と窒素循環について、理解する。 ○人間活動の影響とその仕組み、改善などについて理解する。 ○外来生物の影響と関連する法律等を理解する。
	2	○生態系とその保全（バランスと保全）		
	3			
年間授業時数			70	

令和3年度 <5学年 物理基礎> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	数研出版「318 改訂版 物理基礎」
使用補助教材	数研出版「リードα物理基礎」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中の物理現象に潜む法則性を検証、理解する。 ・実験などで物理の面白さを体感し、論理的思考力を養い、考える力をつける。 ・受験に対応できる応用力をつける。

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点>物理の内容を踏まえ、学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、授業への参加姿勢などを加味した総合評価とする。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・運動の表し方 速度	4	・速度の概念を理解し、式で表わせる。 ・等速運動の式を理解し、計算ができる。
	5	加速度 落体の運動 【実験】 重力加速度の測定	8	・加速度の概念、等加速度運動の式を理解しできる。 ・落下運動は等加速度運動であることから、式をたてられる。
	6	・運動の法則 力とそのはたらき、力のつりあい 運動の法則	7	・物体に働く力を図示し、つりあいの力と作用反作用(運動の第三法則)の力との違いを理解できる。 ・運動方程式を導き、簡単な使い方をマスターする。
	7	運動方程式の使い方	5	・物体に働く力を図示し、運動方程式が立てられる。
2	9	・仕事と力学的エネルギー 仕事	5	・仕事の定義から仕事の原理を理解できる。 ・仕事率は単位時間の仕事量であることを理解し計算する。
	10	運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	8	・力学的エネルギー保存の意味を理解し、ジェットコースターなどエネルギーの保存から通過速度、最高点の高さの計算ができる。
	11	・熱とエネルギー 熱と熱量 【実験】 比熱の測定 熱と物質の状態 熱と仕事	8	・身の回りの熱平衡現象を式で表し計算できる。 ・比熱の測定をおこない、実験方法や誤差について学ぶ。 ・熱力学第一法則について理解できる。
	12	・波の性質 波と媒質の運動 波の伝わり方	7	・波動現象をグラフ化できる ・波の図解から公式を導き計算ができる ・重ね合わせ・定常波・反射・屈折の作図ができる。
3	1	・音 音の性質 【実験】 音さの振動数の測定 発音体の振動と共振・共鳴	8	・実験によって音さの振動数を求めることができる。 ・楽器の固有振動数の計算ができる。 ・楽器の倍音の関係を理解できる。
	2	・物質と電気抵抗 電流と電気抵抗 【実験】 オームの法則と抵抗率 電気とエネルギー 【実験】 ジュール熱の測定 ・交流と電磁波	6	・オームの法則を復習し、抵抗率を理解できる。 ・ジュール熱が発生するメカニズムを理解し、計算できる。 ・交流発電機、変圧器のしくみ、電磁波の性質を理解できる。
	3	エネルギーとその利用	4	・いろいろなエネルギーのメカニズムが理解できる。
年間授業時数			70	

令和3年度 <5学年 化学> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	2単位
使用教科書	第一学習社「高等学校 化学」
使用補助教材	浜島書店「ニューステージ 化学図表」 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」

目標
・年間を通して、化学反応の原理、法則性などに触れ、生徒が化学への興味を持ちながら学習を継続し、学力をつけることを目標とする。また、わからない事柄を調べ解決する力をつける。

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点>化学基礎の内容を踏まえ、学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テスト、授業および実験への参加姿勢などを加味した総合評価とする。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・物質の変化と平衡 状態変化 化学反応とエネルギー	4	・熱運動の観点からの物質の状態変化が理解できる。 ・熱化学方程式を理解、応用できる。 ・エネルギー図を理解、応用できる。
	5	・物質の変化と平衡 化学反応とエネルギー【実験】ヘスの法則 ・無機物質 周期表 非金属元素	8	・ヘスの法則が理解できる。 ・水素と希ガス、ハロゲンとその化合物、酸素・硫黄とその化合物について理解できる。 ・実験結果を考察できる。
	6	・無機物質【実験】ハロゲンの製法と反応 非金属元素 金属元素	8	・窒素・リンとその化合物、炭素・ケイ素とその化合物、アルカリ金属とその化合物、2族元素とその化合物の性質・反応について理解できる。 ・実験結果を考察できる。
	7	・無機物質【実験】硝酸と硫酸 金属元素【実験】アルカリ金属の性質	5	・1、2族以外の典型元素とその化合物の性質・反応を理解できる。 ・実験結果を考察できる。
2	9	・無機物質 金属元素	6	・遷移元素とその化合物の性質・反応が理解できる。 ・実験結果を考察できる。
	10	・無機物質【実験】両性元素とアンモニア 金属元素【実験】金属イオンの水溶液の反応 無機物質と人間生活	7	・金属イオンの分離と確認方法を理解できる。 ・無機物質の生活への応用について理解している。 ・有機化合物の特徴・構造・分類を理解している。
		・有機化合物 有機化合物の特徴と分類 脂肪族炭化水素	7	・飽和炭化水素・不飽和炭化水素の性質・反応について理解している。 ・実験結果を考察できる。
	11	・有機化合物 酸素を含む脂肪族炭化水素 【実験】メタン・エチレン・アセチレンの性質	7	・アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステル等の性質・反応について理解できる。 ・実験結果を考察できる。
12	・有機化合物【実験】アルコールの性質 構造式の決定【実験】エステルの合成と加水分解 芳香族有機化合物	5	・元素分析による分子式・構造式の決定についての理解と応用ができる。 ・芳香族炭化水素の特徴を理解できる。 ・フェノール類についての性質・反応を理解できる。 ・実験結果を考察できる。	
3	1	・有機化合物【実験】フェノールとアニリンの性質 芳香族有機化合物【実験】サリチル酸のエステル	8	・芳香族カルボン酸、芳香族ニトロ化合物、芳香族アミンの性質・反応について理解できる。 ・実験結果を考察できる。
	2	・有機化合物 芳香族有機化合物 有機化合物と人間生活 ・高分子化合物	6	・アゾ化合物の反応・性質について理解できる。 ・エネルギー・食品・医薬品や洗剤・染料と人間生活との関連についての知識を得ている。 ・高分子化合物の分類と特徴・性質について理解している。
	3	・高分子化合物 合成高分子化合物	6	・合成繊維、合成樹脂（プラスチック）の合成法・応用について理解している。 ・ゴム、機能性高分子化合物の合成法・応用について理解している。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択物理> 年間指導計画

単位数	4単位
使用教科書	数研出版「314 総合物理1」「315 総合物理2」
使用補助教材	数研出版「リードα物理」 駿台文庫「センター試験物理 単元別問題集」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・理系進学者に対して、体系的に物理の学習の完成をめざす。 ・広範囲に及ぶ物理現象を解析、理解し、物理学の魅力を伝える。 ・受験に対応できる学力を養成することを目標とする。

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点>物理の内容を踏まえ、学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、課題プリントの提出、授業への参加姿勢などを加味した総合評価とする。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・剛体にはたらく力のつり合い	4	・剛体のつりあいにおいては、合力=0だけでなくモーメントの和=0も必要となることを理解できる。
		・運動量の保存	6	・運動量と力積について理解できる。 ・衝突現象では、運動量が保存されることから、衝突後の運動が解析されることを理解する。
	5	・等速円運動 ・単振動 ・万有引力	16	・等速円運動、単振動の運動方程式をたてられる。 ・天体の運動が万有引力の法則に支配され、円運動の運動方程式から解くことができることを理解できる。
	6	・気体のエネルギーと状態変化	8	・気体分子の運動を分子運動論から力学的に説明できる。 ・気体の状態変化を熱力学第一法則を使って説明できる。
	7	・波の性質 ・音 ・光	14	・波の性質を理解でき、波の方程式が使える。 ・ドップラー効果の計算ができる。 ・光の回折・干渉の各現象について説明ができる。
2	9	・電場 ・電流	18	・電場と電位を理解できる。 ・コンデンサーについて理解でき、計算問題ができる。 ・直流回路について説明ができる。
	10	・磁場 ・電磁誘導	18	・電流がつくる磁場、ローレンツ力について理解できる。 ・ファラデーの法則の物理的意味を理解し、応用ができる。
	11	・交流の発生 ・交流回路 ・電磁波	10	・交流発電機のしくみが理解できる。 ・交流回路の位相とリアクタンスの概念が理解できる。 ・回路計算の式を立て、計算できる。
	12	・電子と光 ・原子と原子核	10	・光・粒子の二重性が理解できる。 ・光電効果、X線、コンプトン効果について説明できる。 ・ボーア模型の方程式を立て、エネルギー準位が求められる。
3	1 2 3	・力学、電磁気、波動、原子分野の復習と 応用	36	・力学、電磁気、波動、原子分野の物理概念を理解し、計算問題への応用ができる。各分野を超えた複合問題にも対応できる。
年間授業時数			140	

令和3年度 <6学年 選択物理演習> 年間指導計画

単位数	2 単位
使用教科書	数研出版「318 物理基礎」
使用補助教材	数研出版 「物理重要問題集—物理基礎・物理」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・理系進学者に対して系統的な物理の学習をめざす。 ・広範囲に及ぶ物理現象を解析し、物理学の魅力を伝授し、受験に対応できる学力を養成することを目標とする。

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点>物理の内容を踏まえ、学習内容を理解し、理解した内容を使い、大学入試問題を解答する能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、小テストの結果、演習への参加姿勢などを加味した総合評価とする。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・等加速度運動 ・力とつりあい ・運動の法則 ・抵抗力を受ける運動 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・物体にはたらく力を考え、つりあいの式や運動方程式をたて、物体の運動状態を説明することができる。 ・力学的エネルギー保存則がたてられ、解答が導ける。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量の保存 ・円運動・万有引力 ・単振動・単振り子 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・力学の発展的な内容の衝突、円運動、単振動などの運動を理解し、解析することができる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・温度と熱量 ・気体分子の運動と状態変化 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・熱平衡をエネルギーの観点から理解できる。 ・気体の状態変化を熱力学第一法則で説明できる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・波の性質 ・音波 ・光波 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・波の基本的性質を理解し、応用することができる。 ・ヤングの実験、回折格子などの光の回折と干渉実験について説明できる。
2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気と電場 ・コンデンサー ・直流回路 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・電場と電位の違いを理解し、応用できる。 ・コンデンサーのしくみを理解し、回路問題が解ける。 ・キルヒホッフの法則を回路に応用できる。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・電流と磁場 ・電磁誘導 ・交流回路 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・電流のまわりの磁場について説明できる。 ・ファラデーの法則を応用し、問題が解ける。 ・交流回路の
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・電子と光 ・原子と原子核 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・光・粒子の二重性を理解し、光電効果、X線、コンプトン効果が理解できる。 ・ボーア模型の運動方程式をから電子のエネルギー準位を求め、水素のスペクトルについて説明できる。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・力学、電磁気、波動、原子分野の復習 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・力学、電磁気、波動、原子分野の基本概念が定着している。
3	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・力学、電磁気、波動、原子分野の復習と応用 	18	<ul style="list-style-type: none"> ・力学、電磁気、波動、原子分野の物理概念を理解し、計算問題への応用ができる。各分野を超えた複合問題などにも対応できる。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択化学> 年間指導計画及び評価と評価材料

単位数	4単位
使用教科書	第一学習社「改訂 化学」
使用補助教材	浜島書店「ニューステージ 新化学図表」 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」 数研出版「チェック&演習」「重要問題集」 駿台文庫「パックV 化学」

目標	・年間を通して、化学反応の原理、法則性などに触れ、生徒が化学への興味を持ちながら学習を継続し、学力をつけることを目標とする。また、興味・関心を発展させ、より深く学ぶ意欲をもつ。
----	--

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点>学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察できるか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査、提出物の内容、授業および実験等の参加姿勢等を評価とする。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・物質の状態と平衡 気体の性質	8	・ボイルの法則・シャルルの法則、気体の状態方程式の理解、応用ができる。 ・グラフや表をもとに化学反応を考察できる。
	5	・物質の状態と平衡 気体の性質 固体の構造 溶液	16	・混合気体、理想気体と実在気体を理解できる。 ・イオン結晶・金属の結晶構造を理解している。 ・条件による固体・気体の溶解度の変化を理解できる。 ・沸点上昇、凝固点降下、浸透圧を理解できる。 ・グラフや表をもとに化学反応を考察できる。 ・コロイドの性質を理解している。
	6	・物質の変化と平衡 反応の速さとしくみ	16	・反応速度の表し方、反応速度の求め方を理解している。 ・反応速度を変える条件を理解している。 ・反応のしくみを理解できる。 ・グラフや表をもとに化学反応を考察できる。
	7	・物質の変化と平衡 化学平衡	10	・可逆反応と化学平衡の状態を理解している。 ・平衡定数の求め方を理解し応用できる。 ・ルシャトリエの原理を理解している。 ・弱酸・弱塩基の電離定数と pH の関係を理解し応用できる。
2	9	・天然高分子化合物	12	・天然高分子化合物の構造や性質について理解し、知識を身につけている。・アミノ酸、タンパク質の構造・性質について理解している。
	10	・共通テストおよび大学入試問題演習	14	・塩の加水分解、緩衝液、難溶塩の溶解平衡を理解できる。 ・既習事項が定着し、応用問題へ対応力がある。 ・グラフや表をもとに化学反応を考察できる。
	11	・合成・天然高分子化合物 ・共通テストおよび大学入試問題演習	14	・既習事項が定着し応用問題への対応力がある。
	12	・天然高分子化合物 ・共通テストおよび大学入試問題演習	10	・既習事項が定着し応用問題への対応力がある。 ・グラフや表をもとに化学反応を考察できる。
3	1	・合成樹脂と人間生活 ・共通テストおよび大学入試問題演習	16	・合成樹脂の特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解している。 ・既習事項が定着し応用問題への対応力がある。
	2	・繊維と人間生活 ・大学入試問題演習	12	・さまざまな機能をもった繊維と生活との関連について理解している。 ・既習事項が定着し応用問題への対応力がある。
	3	・資源の再利用と人間生活 ・大学入試問題演習	12	・有限である資源の活用について考えを深められている。 ・既習事項が定着し応用問題への対応力がある。
年間授業時数			140	

令和3年度 <6学年 選択化学基礎演習 > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	第一学習社「改訂 化学基礎」
使用補助教材	浜島書店「ニューステージ 新化学図表」 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」 数研出版「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎」 ラーズ「大学入学共通テスト直前演習 化学基礎」

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を復習し定着させる。 ・大学入試共通テストに対応できる問題解答力、応用力を養成する。

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点>化学基礎の内容を理解し、その知識を問題の解答に使えるか。大学入試共通テストの解答能力が備わったか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査、課題プリント、小テスト、授業への参加姿勢などを評価する。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の構成 ・物質の構造 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する粒子について成分の観点から認識し、原子と元素の違いや同素体、分離操作などについての知識を深める。 ・物質の構造について粒子の構造、そこにみられる規則性から物質の性質を理解できるようにする。 ・イオン結合・金属結合・共有結合・分子間力などについてその原理を確認し、分子間の引力が物質の性質に及ぼす影響を理解する。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・原子量・分子量と式量 ・物質質量 ・溶液 ・化学反応式 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・原子や分子などを取り扱う数値の定義を正しく理解し、種々の化学計算に利用できるようにする。 ・化学において重要な物質質量の概念を再確認し、質量・粒子数・気体の体積の間で正しく数値的変換が行えるようにする。 ・溶液について濃度や溶解度の基礎を確認し、各種化学計算に活用できるようにする。 ・物質同士の反応の様子を表す化学反応式を組み立て、その係数から量的関係を把握し、化学の基本法則と合わせて各種化学計算に活用できるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基 ・pH ・中和反応 ・中和滴定 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義を理解させ、電離度や価数によって酸と塩基を分類できるようにする。 ・水素イオン濃度から pH の計算をし、それによって酸と塩基の強弱を比較できるようにする。 ・酸と塩基の中和反応の量的関係を理解させ、中和反応を数値的に取り扱うことができるようにする。また中和反応によって生成する塩の性質と分類を理解させる。 ・中和滴定の方法と滴定曲線について理解させ、中和点を判断するための指示薬を酸と塩基の強弱の組み合わせから選ぶことができるようにする。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化と還元 ・酸化剤・還元剤 ・金属のイオン化傾向 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元について、その定義を正しく理解させる。 ・酸化数のルールから物質中の原子の酸化数を正しく判断し、それを用いて酸化剤・還元剤を判断できるようにする。 ・酸化剤や還元剤となる物質の酸化数の変化に着目して、それらの半反応式を組み立てられるようにし、量的関係を理解する。 ・酸化還元の原理から電池や電気分解の構造や反応の様子を理解させ、各極で起こる反応を判断できるようにする。
	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・化学基礎の各種演習 ・共通テスト対策演習 ・中堅・難関私大過去問解答 	25	<ul style="list-style-type: none"> ・化学基礎の範囲の内容について、再度重要な点を確認しながら、多くの問題に触れて理解を深めさせる。 ・中堅・難関私大の過去問題を解答させることで、受験に対応できる問題解答力を向上させる。
	3 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・化学基礎の各種演習 ・中堅・難関私大過去問解答 	20	<ul style="list-style-type: none"> ・化学基礎の範囲の内容について、再度重要な点を確認しながら、多くの問題に触れて理解を深めさせる。 ・中堅・難関私大の過去問題を解答させることで、受験に対応できる問題解答力を向上させる。
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択生物> 年間指導計画

単位数	4単位
使用教科書	183 第一生物 311 改訂生物
使用補助教材	○セミナー生物基礎+生物 ○スクエア最新図説生物 neo (第一学習社) ○チェック&演習生物 (数研出版)

目標
○生命現象と物質、生殖と発生、遺伝、反応、生態、進化と系統について理解を深め、知識を習得する。
○科学的・生物学的な論理について学び、思考力を身につける。
○各種生物現象などについて、自ら探究し問題解決できる能力を高める。
○大学共通テストおよび個別試験での問題解答力を身につける。

評価の観点と方法・材料
○生物事象における知識の習得および問題解答力の修得を、定期考査及び小テストや課題プリント等により評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	○生命現象と物質 ・生体物質と細胞 ・生命現象とタンパク質	24	○各種細胞構造とその働きについて、理解する。 ○各種タンパク質の、生体内での働きを理解する。 ○酵素反応と各種代謝について、分子レベルで理解する。
	5	○代謝 ○遺伝情報の発現 ・遺伝情報の発現とその調節 ・バイオテクノロジー		○DNAの複製・転写・翻訳・発現調節機構について、理解する。 ○各種バイオテクノロジーについて理解し、技術を習得する。
	6	○生殖と発生 ・生殖法 ・動物の配偶子形成と発生	28	○無性生殖と有性生殖の相違点や意義について理解する。 ○動植物の配偶子形成・受精・胚発生について理解する。 ○発生のしくみについて、両生類・昆虫類・植物の代表例について理解する。
	7	・発生のしくみ ・植物の発生		
2	9	○生物の環境応答 ・植物の環境応答	28	○植物の(光、重力などに対する)環境応答について理解する。 ○植物ホルモンの種類とその効果について理解する。
	10	・動物の環境応答 ・動物の行動		○受容器・効果器の構造・機能について理解する。 ○神経系と興奮を伝えるしくみについて理解する。 ○生得的行動・習得的行動とそのしくみについて理解する。
	11	○生態と環境 ・個体群と生物群集 ・生態系の物質生産 ・生態系と生物多様性	28	○生態系における、環境と生物とのかかわりあいについて理解する。 ○生態系内での物質循環・エネルギー流の量関係について理解する。 ○生物多様性のとらえ方と損失・保全について理解する。 ○自然発生説否定・化学進化・生物進化について、環境と生物の関わりあいを基に理解する。 ○進化の証拠、各種進化論、遺伝子頻度について理解する。 ○分類基準を理解し、界・ドメインに関する考え方の変遷を理解する。 ○動物・植物の分類基準について理解する。
	12	○生物の進化と系統 ・生物の起源と生物の変遷 ・進化のしくみ ○生物の分類の変遷と系統 ○生物の系統関係		
3	1	●生物および生物基礎全範囲についての、演習の実践	32	○各単元内容について、演習問題や模試形式問題などに対する問題解答力を身につけている。
	2			
	3			
年間授業時数			140	

令和3年度 <6学年 選択生物演習> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	183 第一生物 311 改訂生物
使用補助教材	○セミナー生物基礎+生物 ○スクエア最新図説生物 neo (第一学習社) ○生物重要問題集 生物基礎・生物 (数研出版)

目標
○生命現象と物質、生殖と発生、遺伝、反応、生態、進化と系統について理解を深め、知識を習得する。
○科学的・生物学的な論理について学び、思考力を身につける。
○各種生物現象などについて、自ら探究し問題解決できる能力を高める。
○難関理系の国公立・私立大学の個別試験での問題解答力を身につける。

評価の観点と方法・材料
○生物事象における知識の習得および問題解答力の修得を、定期考査及び小テストや課題プリント等により評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	○生命現象と物質 ・生体物質と細胞 ・生命現象とタンパク質	12	○各種細胞構造とその働きに関する問題解答力を身につける。 ○各種タンパク質の働きに関する問題解答力を身につける。 ○酵素反応と各種代謝に関する問題解答力を身につける。
	5	○代謝 ○遺伝情報の発現 ・遺伝情報の発現とその調節 ・バイオテクノロジー		○DNAの複製・転写・翻訳・発現調節機構について、理解する。 ○各種バイオテクノロジーについて理解し、技術を習得する。
	6	○生殖と発生 ・生殖法 ・動物の配偶子形成と発生	14	○無性生殖・有性生殖に関する問題解答力を身につける。 ○動植物の配偶子形成・受精に関する問題解答力を身につける。 ○動植物の発生に関する問題解答力を身につける。
	7	・発生のしくみ ・植物の発生		○両生類・昆虫類・植物の代表例における発生のしくみに関する問題解答力を身につける。
2	9	○生物の環境応答 ・植物の環境応答 ・動物の環境応答	14	○植物の(光、重力などに対する)環境応答に関する問題解答力を身につける。 ○植物ホルモンの種類とその効果に関する問題解答力を身につける。
	10	・動物の行動 ○生態と環境 ・個体群と生物群集		○受容器・効果器の構造・機能に関する問題解答力を身につける。 ○神経系と興奮を伝えるしくみに関する問題解答力を身につける。 ○各種行動とそのしくみに関する問題解答力を身につける。
	11	・生態系の物質生産 ・生態系と生物多様性	14	○生態系における、環境と生物とのかかわりあいに関する問題解答力を身につける。 ○生態系内での物質循環・エネルギー流の量関係に関する問題解答力を身につける。 ○生物多様性の損失・保全に関する問題解答力を身につける。
	12			
3	1	○生物の進化と系統 ・生物の起源と生物の変遷 ・進化のしくみ	16	○自然発生説否定・化学進化・生物進化に関する問題解答力を身につける。 ○進化の証拠、各種進化論、遺伝子頻度に関する問題解答力を身につける。
	2	○生物の分類の変遷と系統 ○生物の系統関係		○分類基準を理解し、界・ドメインに関する問題解答力を身につける。 ○動物・植物の分類基準に関する問題解答力を身につける。
	3			
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 選択生物基礎演習> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	183 第一生基 318 改訂生物基礎
使用補助教材	○チェック&演習生物基礎 ○フォトサイエンス生物図録 (数研出版) ○セミナー生物基礎 (第一学習社)

目標
○細胞・代謝・遺伝子・恒常性・生態系の各分野について、理解を深め、知識を習得する。
○科学的・生物学的な論理について学び、思考力を身につける。
○各種生物現象などについて、自ら探究し問題解決できる能力を高める。
○大学共通テストでの問題解答力を身につける。

評価の観点と方法・材料
○基礎知識の習得および大学共通テスト問題解答力の修得を、定期考査及び小テストや課題プリント等により評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4 5 6 7	○生物の特徴 多様性と共通性、生命活動とエネルギー、代謝と酵素反応 ○遺伝子とそのはたらき DNA、転写・翻訳 ○体内環境の維持 体内環境、免疫、体内環境の調節 ○植生の多様性と分布 バイオーム、植生と遷移 ○生態系 生態系、バランスと保全	26	○各生物内容を理解している。 (原核生物・真核生物、細胞構造、5界説・3ドメイン説、顕微鏡操作、マイクロメーター操作、ATPの構造と働き、酵素の特徴と機能、呼吸と光合成のしくみ、細胞内共生説、DNAの構造、研究史、セントラルドグマ、細胞分裂のしくみ、DNA量の変化、押しつぶし法、だ腺染色体観察法、体液と循環系、赤血球の働き、血小板の働き、腎臓・肝臓の働き、体液塩分濃度調節のしくみ、免疫細胞の種類と働き、自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる各種事象、恒常性とその維持のためのしくみ、自律神経系と内分泌系、バイオーム、水平・垂直分布、階層構造、光-光合成曲線、陽生・陰生植物、一次遷移・二次遷移・極相・ギャップ更新、各種生態系の成り立ちと構造、生態ピラミッドと栄養段階のエネルギー収支、炭素循環と窒素循環、各種環境問題、外来生物)
2	9 10 11 12	○生物の特徴 多様性と共通性、生命活動とエネルギー、代謝と酵素反応 ○遺伝子とそのはたらき DNA、転写・翻訳 ○体内環境の維持 体内環境、免疫、体内環境の調節	28	○各生物内容について、演習問題や模試形式問題などに対する問題解答力を身につけている。 (原核生物・真核生物、細胞構造、5界説・3ドメイン説、顕微鏡操作、マイクロメーター操作、ATPの構造と働き、酵素の特徴と機能、呼吸と光合成のしくみ、細胞内共生説、DNAの構造、研究史、セントラルドグマ、細胞分裂のしくみ、DNA量の変化、押しつぶし法、だ腺染色体観察法、体液と循環系、赤血球の働き、血小板の働き、腎臓・肝臓の働き、体液塩分濃度調節のしくみ、免疫細胞の種類と働き、自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる各種事象、恒常性とその維持のためのしくみ、自律神経系と内分泌系)
3	1 2 3	○植生の多様性と分布 バイオーム、植生と遷移 ○生態系 生態系、バランスと保全	16	○各生物内容について、演習問題や模試形式問題などに対する問題解答力を身につけている。 (バイオーム、水平・垂直分布、階層構造、光-光合成曲線、陽生・陰生植物、一次遷移・二次遷移・極相・ギャップ更新、各種生態系の成り立ちと構造、生態ピラミッドと栄養段階のエネルギー収支、炭素循環と窒素循環、各種環境問題、外来生物)
年間授業時数			70	

令和3年度 <4学年 選択音楽I> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	教育芸術社 MOUSA 1
使用補助教材	アルトリコーダー

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞の表裏一体の学習から、幅広く豊かな音楽表現の力を養成する。また、表現に必要な技術と音楽の知識を身につけることで、より深い音楽の楽しみ方を学ぶ。 ・2単位になり時間をかけて取り組み演奏の完成度を高める。

評価の観点と方法・材料	
知識・技能	発言内容 個人練習やパート練習の観察 実技テストの「音量」「音程」「発音」「音色」「指使い」「ブレスコントロール
思考・判断・表現	実技テストの「音楽性」「表現力」の項目 グループアンサンブルの発表内容と撮影したデータ 鑑賞の記録内容 グループ発表評価表 等
主体的に取り組む態度	授業参加の様子 発言内容 個人練習やパート練習の観察 実技テストの演奏に臨む「態度」 鑑賞態度の観察

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエンテーション パート決定 ・混声4部合唱 課題曲 自由曲	6	・クラス集団の中での自分の役割や働きを考えて練習している。 ・パートリーダーを中心に各パートで協力し、音取りをしている。 ・バランスに気を付けて合唱している。
	5	・混声4部合唱 合唱祭 課題曲 自由曲 ・鑑賞 イタリア歌曲	6	・各声部の役割を理解し、曲想を大切にして表現している。 ・外国歌曲の豊かで情熱的な表現を味わって聴いている。
	6	・混声4部合唱 合唱祭 課題曲 自由曲 ・イタリア語独唱 ・鑑賞 組曲	8	・歌詞の意味を深く理解し、イメージをもって発表できる。 ・外国語歌詞の発音やイントネーションに気を付けて歌唱できる。 ・作曲当時の国や文化的背景と絡め、標題音楽の鑑賞ができる。
	7	・混声4部 ア・カペラ合唱 ・鑑賞 鍵盤楽器（ピアノ）	6	・旋律のまとまりを意識し、フレーズ感豊かに歌唱できる。 ・ロマン派のピアノ作曲家の作品を比較鑑賞することで、それぞれの独特な作風を味わい、相違点を理解できる。
2	9	・器楽アンサンブル（小打楽器） ・アンサンブル発表と評価	6	・グループで役割を分担し、積極的に練習に参加できる。 ・グループで協力し、表現の工夫を加えて練習し発表できる。 ・グループ発表に備え、自分の課題意識をもって練習している。 ・他のグループの工夫に気づき、評価表にまとめることができる。
	10			
	11	・アンサンブル①（トーンチャイム） ・アンサンブル②（6種リコーダー） ・アンサンブル発表と評価 ・鑑賞 オペラ	7	・グループで役割を分担し、積極的に練習に参加できる。 ・グループで協力し、表現の工夫を加えて練習し発表できる。 ・他のグループの工夫に気づき、評価表にまとめることができる。 ・総合芸術に親しみ、興味をもって聴いている。
	12	【2つの楽器をグループ同士で交換】 ・アンサンブル③（6種リコーダー） ・アンサンブル④（トーンチャイム） ・アンサンブル発表と評価 ・鑑賞 合唱と管弦楽	4 7 4	・グループで役割を分担し、積極的に練習に参加できる。 ・グループで協力し、表現の工夫を加えて練習し発表できる。 ・他のグループの工夫に気づき、評価表にまとめることができる。 ・大規模合唱と合奏が生み出す表現を味わって鑑賞している。
3	1	・混声4部合唱	6	旋律のまとまりを意識し、フレーズ感豊かに歌唱できる。 ・各パートの働きを意識して合唱表現できる。
	2	・フランス語独唱 ・鑑賞 バレエ	6	・外国語歌詞の発音やイントネーションに気を付けて歌唱できる。 ・音楽と他の芸術の融合が作り出す表現を味わって鑑賞している。
	3	・混声4部合唱 課題曲	4	・自分の表現したいイメージをもって合唱している。
年間授業時数			70	

令和3年度 <4学年 美術I > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	高校美術1（日文）
使用補助教材	—

目標
・美術を愛好する心情と、自由な表現や鑑賞のための能力の育成を目指す。美術に対する感性を育てるとともに、技能、技術を伸ばし、豊かな情操を養う。

評価の観点と方法・材料	
【知識・技能】	創造的な表現の技能 作品制作過程での観察 提出作品の内容 作品についての記録の内容 鑑賞の能力 鑑賞態度の観察 鑑賞の記録の内容
【思考力・判断力・表現力】	芸術的な感受や表現の工夫 作品制作過程での観察 提出作品の内容 作品についての記録の内容 容鑑賞の能力 鑑賞態度の観察 鑑賞の記録の内容
【主体的に学習に取り組む態度】	資料準備 作品制作への意欲、態度の観察 作品提出状況 教科外での美術的活動の貢献

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエンテーション ・地面風景画 ・校舎のある風景	4	・高校美術Iの内容と目標について理解している。
			4	・絵画作品を参考にしながら様々な遠近感の表現をできる。
			10	・アクリル絵の具の使用方法を理解できる。 ・校内の風景に関心を持ち、意欲的に写生に取り組める。 ・遠近感の表現方法に関心を持ち、意欲的に取り組める。 ・色彩や表現方法を工夫できる。
	5	6 7	・鑑賞	4
4	・お互いの作品を鑑賞することにより、様々な表現方法やその良さに気付くことができる。			
2	9	・チョーク彫刻 ・木彫カトラリー	2	・ものの形態を理解し立体感のある作品を作ろうと作図が起こせる。
			24	・チョークの生産会社の苦労や工夫を踏まえて、丁寧に制作できる。 ・失敗から何かを見つけ出せる根気と工夫がある。 ・材料の美しさ、温もりを感じとり、用と美について理解できる。 ・コンセプトのあるオリジナルカトラリーを図面化できる。 ・作業プランを考えられ、工具を正しく使って制作できる。 ・作品の完成度を高めるための表現の工夫に意欲的に取り組める。
			2	・お互いの作品を鑑賞することにより、様々な表現方法やその良さに気付ける。
	10	11 12	・鑑賞	2
2	・お互いの作品を鑑賞することにより、様々な表現方法やその良さに気付ける。			
3	1	・陶芸 手びねり 板づくり	16	・用としての工芸の意義と役割について理解できる。 ・陶芸の目的と制作工程について理解できる。 ・制作する作品について豊かに構想を練ることができる。 ・制作工程に沿って丁寧に制作できる。
				2
	2	3	鑑賞	4
年間授業時数			70	

令和3年度 <6学年 美術I > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	高校美術1 (日文)
使用補助教材	—

目標
・美術を愛好する心情と、自由な表現や鑑賞のための能力の育成を目指す。美術に対する感性を育てるとともに、技能、技術を伸ばし、豊かな情操を養う。

評価の観点と方法・材料	
【知識・技能】	創造的な表現の技能 作品制作過程での観察 提出作品の内容 作品についての記録の内容 鑑賞の能力 鑑賞態度の観察 鑑賞の記録の内容
【思考力・判断力・表現力】	芸術的な感受や表現の工夫 作品制作過程での観察 提出作品の内容 作品についての記録の内容 鑑賞の能力 鑑賞態度の観察 鑑賞の記録の内容
【主体的に学習に取り組む態度】	資料準備 作品制作への意欲、態度の観察 作品提出状況 教科外での美術的活動の貢献

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエンテーション (西洋美術史 全8巻毎時間10分)	4	・選択美術の目標と年間計画について理解できる。 ・作品への構想を練り、目的にあった材料や用具を準備することができる。 ・作品制作へ意欲的に取り組むことができる。 ・作品の完成度を高めるための工夫を積極的にしている。 ・お互いの作品を鑑賞することにより、様々な表現方法やその良さに気付くことができる。
			4	
	5	・個人作品制作	10	
			4	
2	9	・個人作品制作	2	・自身の思いや考えを基に色と形で表現し、意味や価値を創造していくことができる。 ・自分のテーマに沿った、計画⇒問題発見⇒解決策ができる ・資料、情報収集を基に自分の思いを、素材を活用して表現できる。 ・表面的な感知にとどまらず、造形的に分析しながら作者の意図や思いまでも感じることが出来る。
			24	
	10	・鑑賞	2	
			2	
3	1	・表現活動とは (講義)	4	・他の学習や生活の中でも活用できる程度に概念を理解できる。 ・他の場面でも技術を生かせるように身に付けている。 ・知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けている。 ・表現活動において、試行錯誤するなど、調整力をもって学ぼうとしている。
	2			
	3			
年間授業時数			54	

令和3年度 < 4学年 芸術・書道選択 > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	教育図書 「書Ⅰ」
使用補助教材	教育図書「書道資料集」

目標
・書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

評価の観点と方法・材料	
評価の観点	: ア.関心・意欲・態度 イ.思考・判断 ウ.技能・表現 エ.知識・理解
方法・材料	: 観察、書道ノート（学習の成果、自己評価、記録、ワークシート、調べ学習、振り返り） 創作作品

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエンテーション 書道の学習目標、用具・用材の知識 書体の変遷	22	・書道学習の目標を国語科書写との相違とともに理解している（ア,エ） ・用具、用材の知識を深め、理解している（ア,エ） ・漢字5書体の変遷について関心を深め、理解している（ア,エ）
	5	(1) 漢字の書 姿勢、執筆法、基本線質と用筆法		・執筆法や基本線質を理解し、表現することができている（ア,イ,ウ,エ） ・鑑賞を通して様々な書風の特徴や表現の多様性を理解している（ア,エ）
	6	・楷書 古典の鑑賞と表現の多様性 ・古典の臨書 字形と線質の関係 背勢と向勢 直線的と曲線的線質		・古典の臨書を通して背勢と直線的線質、向勢と曲線的線質の関係を理解し、表現することができている（ア,イ,ウ,エ） ・古典の学習を活用や余白を生かした創作法を理解している（ア,イ,ウ,エ）
	7	・創作法（イメージ書） 創作（イメージ書） ・展示の為の名票作成		・楷書の学習を活用し、感性を働かせながら自らの意図に基づき構想し、表現の工夫をしている（ア,イ,ウ,エ） ・楷書の学習を自分の氏名に活用することができている（ア,イ,ウ,エ）
2	9	・文化祭展示作品の鑑賞 ・行書 基本線質 楷書との違い、行書の特徴	28	・互いの良さを認め、表現の多様性に気づき、鑑賞眼を広げている（ア,エ） ・速書きの中で楷書との違いを理解し、行書の5つの特徴を表わす技能を身に付け、表現できている（ア,イ,ウ,エ）
	10	・基本の活用（氏名を行書で書く） ・行書古典の学習1（王羲之、蘭亭序） 調べ学習、双鉤填墨		・行書の学習を自分の氏名に活用することができている（ア,イ,ウ,エ） ・王羲之と蘭亭序についての知識を深めている（ア,エ） ・双鉤填墨を通して運筆の強弱や遅速による線質の違いを理解し、表現することができている（ア,イ,ウ,エ）
	11	・熟語の倣書 ・行書古典の学習2（空海。風信帖） 墨の潤滑		・風信帖の臨書を通して渴筆の運筆法を理解し表現している（ア,イ,ウ,エ）
	12	(2) 仮名の書 ・仮名の成立と種類 いろは歌 ・平仮名の字源と行書基本の活用 ・用具、用材の取扱い 基本線質とリズム		・仮名の成立や種類について興味、関心を持って理解を深めている（ア,エ） ・行書の学習を活用し、平仮名の字源表を作成できている（ア,イ,ウ,エ） ・用具、用材の知識を深め、その取り扱いを身につけている（ア,イ,エ） ・仮名の基本線質を理解し、表現することができている（ア,イ,ウ,エ）
3	1	・単体と連綿 連綿法とリズム ・古筆鑑賞 散らし書きと余白美等 ・変体仮名の効用	20	・運筆のリズムや連綿法を理解し、表現することができている（ア,イ,ウ,エ） ・古筆の鑑賞を通して流動美、余白美、立体美を感じ取っている（ア,エ） ・変体仮名の効用を理解し、表現することができている（ア,イ,ウ,エ）
	2	・創作法 ・創作（自選俳句）		・変体仮名の使用法および創作法を理解し、感性を働かせながら自らの意図に基づき構想し、表現の工夫をしている（ア,イ,ウ,エ）
	3	(3) 漢字仮名交じりの書 ・創作法 ・言葉の決定 ・作品のねらいと構成、書風の決定 ・試書→批評→改善→互評会→完成		・各々が自己を見つめ、「今の思い」を自分達の言葉として決定する為に積極的に意見を出し、協力している（ア,イ,エ） ・これまでの学習を積極的に活用し、意図に基づく構想に沿って表現を工夫し、より良い作品へ向けて改善を重ね、完成させている（ア,イ,ウ,エ）
		(4) 学習の振り返り		・書の効用やその伝統と文化を幅広く理解することができている（ア,エ）
年間授業時数			70	

令和3年度 < 4学年 体育 > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）

目標
運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

評価の観点と方法・材料

<評価の観点> 技能、態度、知識、思考・判断

<評価の方法と材料> 出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体力テスト	6	・運動やスポーツの合理的・計画的な実践を身に付ける。 ・自分の体力を知り、課題を持って運動に取り組むことができる。
	5	・陸上競技（男子・女子） ・バスケットボール（男子・女子）	14	・学習に自主的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることができる。 ・技術の名称や行い方、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。
	6	・水泳（男子・女子） ・体育祭種目練習（男子・女子）	4	・バスケットボール：安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。
	7			・陸上競技：記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。
2	9	・水泳（男子・女子） ・体育祭種目練習（男子・女子）	7	・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとすることができる。
	10	・バレーボール（男子・女子） ・ハンドボール（男子・女子）	21	・自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。 ・事故防止に関する心得など健康・安全を確保することができる。
	11			・水泳：記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。 ・バレーボール：役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。
	12			・ハンドボール：安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。
3	1	・バドミントン（男子・女子） ・サッカー（男子） ・アルティメット（女子）	18	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい自主的に取り組むことができる。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。
	2			・バドミントン：安定した用具の操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。
	3			・サッカー、アルティメット：安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。
年間授業時数			70	

令和3年度 < 4学年 保健 > 年間指導計画

単位数	1 単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	図説現代高等保健（大修館）

目標
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点> 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。</p> <p><評価の方法・材料> 定期考査、授業態度、提出物などにより総合的に評価する。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方	2	<ul style="list-style-type: none"> 健康の捉え方を理解し、健康の保持増進のためには個人の意思決定や行動選択が重要である事を理解している。 健康を保持増進するためには、社会環境づくりなどが大切であるという事を理解している。 健康を保持増進する為には、自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していく事が重要であることを理解している。 自身の生活習慣を振り返り、自身の健康を保っている要因、または阻害している要因を理解している。 それぞれの健康にまつわる要因がどの様なもので、どの様に影響し、それに対して、どの様に働きかけ、行動を選択する事が適切か理解している。
	5	健康と意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり	4	
	6	生活習慣病とその予防 食事と健康 運動と健康	4	
	7	休養・睡眠と健康 喫煙と健康	2	
2	9	飲酒と健康 薬物乱用と健康	3	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の健康を阻害する危険因子を理解し、健康を保持増進する方法を理解し、自ら生活習慣に役立てる事がしている。 感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解し、これらの感染症の予防には、社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解している。 心の健康やストレスを理解し、それに対する対処法を理解し、実生活に役立てる事がしている。 今の自分を理解し、自己実現のため、必要な事を理解している。
	10	現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	4	
	11	欲求と適応機制 心身の相関とストレス	4	
	12	ストレスへの対処 心の健康と自己実現	3	
3	1	交通事故の現状と要因 交通社会における運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり	3	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故現状と今、身近にある危険を理解し、実際の生活に役立てる事ができる。 運転における資質と責任を理解している。 安全な交通社会の為の方策を理解している。 心肺蘇生法を理解し、実施する事ができる。 応急手当の方法を理解し、日常生活で活用する事ができる。
	2	応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法	3	
	3	日常的な応急手当	3	
年間授業時数			35	

令和3年度 < 5学年 体育 > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）

目標
運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

評価の観点と方法・材料

<評価の観点> 技能、態度、知識、思考・判断

<評価の方法と材料> 出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体力テスト	6	・運動やスポーツの合理的・計画的な実践を身に付ける。 ・自分の体力を知り、課題を持って運動に取り組むことができる。
	5	・バレーボール（男子・女子） ・サッカー（男子） ・ハンドボール（女子）	14	・学習に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることができる。 ・技術の名称や行い方、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。
	6	・水泳（男子・女子） ・体育祭種目練習（男子・女子）	4	・バレーボール：状況に応じたボール操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できる。
	7		・サッカー、ハンドボール：状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。	
2	9	・水泳（男子・女子） ・体育祭種目練習（男子・女子）	7	・主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようすることができる。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。 ・事故防止に関する心得など健康・安全を確保することができる。 ・水泳：記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。 ・バドミントン：安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できる。 ・ソフトボール：状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開できる。
	10	・バドミントン（男子・女子） ・ソフトボール（男子・女子）	21	
	11			
	12			
3	1	・バスケットボール（男子・女子） ・テニス（男子・女子） ・卓球（男子・女子）	18	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい主体的に取り組むことができる。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。
	2			・バスケットボール：状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。
	3			・テニス、卓球：安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できる。
年間授業時数			70	

令和3年度 < 5学年 保健 > 年間指導計画

単位数	1 単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	図説現代高等保健（大修館）

目標
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評価の観点と方法・材料
<評価の観点> 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。
<評価の方法・材料> 定期考査、授業態度、プレゼンテーション、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・発表授業のグループ分け	2	<ul style="list-style-type: none"> 発表する内容を確認し、まとめる事ができる。 準備の段階で調べ学習を進め、適切な資料が作成されている。 的確にプレゼンテーションし、自身を評価する事ができる。
	5	・発表授業 現代社会と健康 スポーツ理論救急法など スポーツの始まりと変遷スポーツと経済 スポーツ理論 ドーピングとスポーツ倫理 スポーツの技術と戦略・技能の上達と動きのメカニズム	4	
	6	技能と体力・体力トレーニング スポーツ理論 運動やスポーツでの安全の確保生涯スポーツの見方・考え方	4	
	7	・発表における補足授業	2	
2	9	・発表授業 生涯を通じる健康 思春期と健康、性意識と性行動の選択 結婚生活と健康、妊娠出産と健康 家族計画	3	<ul style="list-style-type: none"> 発表する内容を確認し、まとめる事ができる。 準備の段階で調べ学習を進め、適切な資料が作成されている。 的確にプレゼンテーションし、自身を評価する事ができる。
	10	と人工妊娠中絶 生命倫理 生涯を通じる健康 臓器移植 加齢と健康、高齢者のための社会的取組 保健制度・医療制度とその活用、医薬品と健康 社会生活と健康	4	
	11	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚濁と健康	4	
	12	・発表における補足授業	3	
3	1	・発表授業 社会生活と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち	3	<ul style="list-style-type: none"> 発表する内容を確認し、まとめる事ができる。 準備の段階で調べ学習を進め、適切な資料が作成されている。 的確にプレゼンテーションし、自身を評価する事ができる。
	2	社会生活と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	3	
	3	・発表における補足授業	3	
年間授業時数			35	

令和3年度 < 6学年 体育 > 年間指導計画

単位数	3単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）

目標
運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

評価の観点と方法・材料

<評価の観点> 技能、態度、知識、思考・判断

<評価の方法と材料> 出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・新体力テスト ・種目選択（下記から3種目選択） 〈男子〉 ・サッカー ・ハンドボール ・ニュースポーツ	36	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動する態度を身に付けることができる。 ルールやマナーを大切にし、公正・協力への意志を持てる。 既習の知識や技能を活用し、運動を継続していくために必要な課題を改善し、生涯スポーツの実践につなげることができる。 生涯にわたり、豊かなスポーツライフを継続するために、技能をさらに向上させ、新たな技術を習得し、攻防や動きの様相を高め、記録や技に挑戦することができる。 運動や健康・安全についての知識を身につけ、理解している。 運動の特性と合理的な運動の仕方を理解し、知識として身に付け生涯の豊かなスポーツライフの実践につなげることができる。
	5	・バレー ・バドミントン ・バスケ 〈女子〉 ・バレー ・ソフトボール ・バスケ		
	6	・ハンドボール ・テニス ・バドミントン		
2	9	・体育祭種目練習 ・種目選択（下記から3種目選択） 〈男子〉 ・サッカー ・ソフトボール ・テニス	39	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動する態度を身に付けることができる。 ルールやマナーを大切にし、公正・協力への意志を持つことができる。 既習の知識や技能を活用し、運動を継続していくために必要な課題を改善し、生涯スポーツの実践につなげることができる。 生涯にわたり、豊かなスポーツライフを継続するために、技能をさらに向上させ、新たな技術を習得し、攻防や動きの様相を高め、記録や技に挑戦することができる。 運動や健康・安全についての知識を身につけ、理解している。 運動の特性と合理的な運動の仕方を理解し、知識として身に付け生涯の豊かなスポーツライフの実践につなげることができる。
	10	・バレー ・バドミントン ・バスケ 〈女子〉 ・バレー ・ニュースポーツ ・卓球 ・テニス ・バスケ		
	11	・バドミントン		
3	1	・種目選択（下記から3種目選択） 〈男子〉 ・サッカー ・ソフトボール ・テニス	30	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動する態度を身に付けることができる。 ルールやマナーを大切にし、公正・協力への意志を持つことができる。 既習の知識や技能を活用し、運動を継続していくために必要な課題を改善し、生涯スポーツの実践につなげることができる。 生涯にわたり、豊かなスポーツライフを継続するために、技能をさらに向上させ、新たな技術を習得し、攻防や動きの様相を高め、記録や技に挑戦することができる。 運動や健康・安全についての知識を身につけ、理解している。 運動の特性と合理的な運動の仕方を理解し、知識として身に付け生涯の豊かなスポーツライフの実践につなげることができる。
	2	・バレー ・バドミントン ・バスケ 〈女子〉 ・バレー ・ニュースポーツ ・卓球 ・テニス ・バスケ		
	3	・バドミントン		
年間授業時数			105	

令和3年度 < 4学年 情報の科学 > 年間指導計画

単位数	2単位	目標 ・コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組み、情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させ、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。また、情報倫理やセキュリティの問題についても考えさせると共に情報社会の発展に積極的に寄与する能力と態度を身につけさせる。
使用教科書	日本文教出版「新・情報の科学」	
使用補助教材	情報 最新トピック集 2021	

評価の観点と方法・材料

定期考査・授業中に作成したファイル・課題・レポート・授業への取り組みなどを総合的に判断し、情報に対する関心・意欲・態度・思考・判断・表現・技能・知識を総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の概要を理解する。 ・コンピュータの動作のしくみを理解する。 ・情報をコンピュータがどのように表現しているのかを理解する。 ・ネットワークの基本と動作のしくみを理解する。 ・情報セキュリティ技術を理解する。 	26	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやコンピュータ等を利用する際に、安全について意識し判断することができる。情報とデータの違いを説明できる。 ・コンピュータが動作する仕組みに関心を持ち、理解しようとする。 ・ソフトウェアの役割に関心を持ち、積極的に理解しようとする。 ・論理回路の働きやCPUが演算を行う仕組みを説明できる。 ・コンピュータを構成する装置を理解する。 ・コンピュータが2進法で表されたデータを用いて処理を行っていることが理解できた。 ・デジタルデータの特徴やデータ圧縮の仕組みを説明できる。 ・データの圧縮の意味や方式について積極的に理解しようとする。 ・インターネットにおけるプロトコルの重要性と身の回りの製品などの活用について関心をもつ。TCP/IPを理解し、IPアドレスやドメイン名などの基本的な知識を身につける。
2	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化における原理を学び、デジタルコンテンツを作成するスキルを身につける。 ・問題解決の基本的な流れを理解する。 ・問題解決の場面で情報を活かす方法を理解し習得する。 ・基本的なアルゴリズムを理解する。 ・プログラムの作成方法を習得する。 	28	<ul style="list-style-type: none"> ・静止画、動画におけるデジタルデータの取り扱いを学び、これまでに学習した内容を踏まえデジタルコンテンツを作成する技術を学び、活用する。 ・問題解決で役立つ技術を使用して、身近な問題を最終的に実行・解決することができる。 ・身近な問題を解決することで、問題解決のプロセスを理解する。 ・問題解決の手順をフローチャートで表現できる。 ・すべての処理手順は、逐次処理、反復処理、条件判断、分岐処理に分類できることを理解する。
3	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの種類や特徴を知り、利用する際の注意点について理解する。 ・データベースについての基本的な考え方を理解する。 ・問題解決で利用できる情報共有の様々な方法を知る。 ・グループで行う問題解決の過程で利用できる情報共有のさまざまな方法を知る。 	16	<ul style="list-style-type: none"> ・普段利用している情報システムについて関心を持ち、その仕組みについて積極的に理解しようとする。また、安全に運用するための仕組みや機能、考え方について説明できる。 ・シミュレーションにおいてコンピュータ利用しようとする。 ・モデル化とシミュレーションに関わる概念について理解する。 ・さまざまなツールを適切に活用し、効果的な問題解決を行える。 ・問題解決のツールにはどのようなものがあるかを知り、適切な活用方法を理解する。
年間授業時数			70	

令和3年度 < 6学年 選択 表現メディアの編集と表現 > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	実教出版株式会社 「表現メディアの編集と表現」
使用補助教材	—

目標
・コンピュータによる表現メディアの編集と表現に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

評価の観点と方法・材料

授業は演習を中心に行い映像作品を複数作成する。

作品制作を中心に授業を行うため、情報分野における興味・関心意欲・態度、成果物などをもとに評価を行う。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・表現メディアの種類と特性 ・「文字」「図形」 ・表現メディアの種類と特性 ・「静止画」「音」「動画」 ・コンピュータグラフィックスの編集 	26	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現メディアの種類や特性及びデジタル化に関する基礎的な知識が理解できたか。 ・Webでの様々な表現メディアの種類や特性及びデジタル化に関する基礎的な知識が理解できたか。 ・写真やイラストレーションなどを取り扱いそれぞれの特性を理解できる。 ・スキャナやタブレットなどのデジタル機器を活用して、素材を取り込める技能を身につける。 ・静止画の仕組みを理解し、色相・彩度・明度・カラーモード、色調や露出の補正などを理解し、適切に静止画を編集できる。
2	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の編集 ・映像による表現 ・コンピュータにおける音・音楽の編集 ・コンピュータにおける音・音楽の表現 	28	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの知識と技術を用いて、適切にハードウェアとソフトウェアを活用し、映像を編集することができる。 ・タイムライン上でのカット編集や、トランジションの編集、エフェクトの概念などを理解し、適用できるようにする。 ・企画の立案からシナリオ及び絵コンテの作成、撮影、映像の編集などを行うことができる。 ・コンピュータで扱う音源を扱えるようになる。 ・アプリケーションソフトを活用して、音の取り込み、編集が行えるようになる。 ・ナレーションや効果音、音楽などを取り扱い、映像に対して適切な効果音や演出効果を施すことができる。
3	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・Webコンテンツによる情報表現 ・コンテンツにおける情報の視覚化 ・制作プロセスと企画 	16	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットにおけるWebコンテンツを理解し、情報をどのように表現するかを理解する。 ・Webコンテンツを表現するための技能を習得し、作品を視覚化することができる。 ・映像作品を制作する場合の制作の流れを理解し、知的財産権を保護することができる知識と技能を習得させる
年間授業時数			70	

令和3年度 < 5学年 家庭基礎 > 年間指導計画

単位数	2
使用教科書	実教出版「新家庭基礎 21」
使用補助教材	データ&グラフグラフ 生活ガイドブック

目標
・ 少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等をふまえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり、共に生きる力を育てる。自立にむけて実習を取り入れる

評価の観点と方法・材料

基本的な知識を身につけ、課題に対する思考力や表現力が養われているかを定期考査やレポート、HP、学校家庭クラブ活動などを通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・ 自立して生きる 自立するとは 青年期と自立	6	・ 自分の生活と自分自身をみつめ、自己理解を深める。 ・ 家族・家庭と法律のかかわりを理解し、関心を持つ。 ・ 将来 自立した生活を営めるように、人生の選択肢を自分の意思と責任で決定する力を形成できる。
	5	・ 楽しく安全に食べる 食事の計画 日常食の調理	4	・ <u>日本料理 調理実習 1</u> 日常食（日本食）の調理ができる。
	6	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	8	・ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動に取り組める。
	7	・ 楽しんで着る ・ 被服製作 衣服の機能とこれからの衣服	8	・ 製作の楽しみを味わい、基礎技術を身につける。 ・ 衣生活の地球環境におよぼす問題点について考えることができる。
2	9	・ どのように食べる 栄養と食品	6	・ 現代の食生活の特徴と問題点について考えることができる。 ・ 栄養素の働きと多く含む食品についての基礎知・ <u>修学旅行事前学習</u>
	10	・ 外国の調理（修学旅行事前学習） 日本の食の課題とは	8	・ <u>調理実習</u> を通して外国の文化を知る。 外国の気候・風土を理解しその土地の住居・食生活を理解できる。 識を身につける。
	11	・ 支えあって生きる いのちと暮らしを守るには 支えあいの仕組みはどうなっているの	8	・ 持続可能な社会をつくるライフスタイルを築く知識を持つ。 ・ 新しいライフプランを選択し自己実現に向けたライフプランを立てる。
	12	日常食の調理	4	・ <u>中国風料理</u> の基礎を身につけ効率的に実習ができる。 ・ 食の環境保全のための消費者の取り組みを知る。
3	1	消費生活を生きる	8	・ 消費生活の問題点、課題を考える。 ・ 消費行動の意思決定について理解を深める。 ・ 将来を考えた経済計画・家計管理の大切さを知・保育人形などの教材を用いて、理解を深める。
	2	・ 子どもと生きる 子どもが発達するとはどういうことか 親になるということ	4	・ 乳幼児の生活を理解する。 ・ <u>乳幼児のおやつを調理する。</u> ・ 親になることの意味を考えることができる。
	3	・ 人間らしく住む	6	・ 家庭内事故と安全対策について基礎知識を得る。 ・ これからの住宅生活について考える。 ・ 共に生きる住まい・町について考えることができる。
年間授業時数			70	

令和3年度 < 4 学年 コミュニケーション英語 I > 年間指導計画

単位数	単位 3	目標
使用教科書	UnicornEnglish Communication I (文英堂)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。 (紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする) さらに、ALT・JET による毎時間の授業や各学期に行うインタビューテスト、レシテーション、スキット、劇などの英語発表、それに向けての練習を通じて、実践的コミュニケーション力を育む。
使用補助教材	UnicornEnglish Communication I WORKBOOK ADVANCED (文英堂) Listening Trial Stage 1.5 (文英堂) 英単語 Stock4500 (文英堂) 英語総合問題演習 Wide Angle Book3	

評価の観点と方法・材料	
評価の観点: ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ② 表現の能力: 話すこと (S), 読むこと (R), 書くこと (W) ③ 理解の能力: 聞くこと (L), 読むこと (R) ④ 言語や文化についての知識・理解 評価の方法・材料: (a) 授業中の活動 (b) 英語による発表 (c) 課題の提出 (d) 小テスト・定期考査	

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・ Lesson 1 I Am a Photojournalist	9	・ 英文の内容を理解するとともに基本的な文のパターン、進行形、助動詞を理解し、文をつくる。
	5	・ Lesson 2 Holmes and Watson	10	・ 英文の内容を理解するとともに、現在完了、受動態を理解し、文をつくる。
	6	・ Lesson 3 Alma Rose	10	・ 英文の内容を理解するとともに、形式主語、分詞の形容詞的用法、動名詞を理解し、それらを用いて適切に表現できる。
	7	・ Lesson 4 Forests for the Future	10	・ 英文の内容を理解するとともに、関係代名詞、関係副詞を理解し、それらを用いて適切に表現できる。
2	9	・ Lesson 5 Methane Hydrate	9	・ 英文の内容を理解するとともに、S+V+O(=疑問詞+to 不定詞)、S+V+C(=疑問詞+to 不定詞)を理解し、文をつくる。
	10	・ Lesson 6 El Sistema: The Miracle of Music	10	・ 英文の内容を理解するとともに、過去完了(進行)形、S+V+O+C(=現在分詞、過去分詞)を理解し、文をつくる。
	11	・ Lesson 7 Why Are You Sleepy?	10	・ 英文の内容を理解するとともに、仮定法過去、It is~that 節を理解し、文をつくる。
	12	・ Lesson 8 Haruki Murakami Abroad	9	・ 英文の内容を理解するとともに、前置詞+関係代名詞、分詞構文、関係代名詞の非制限用法を理解し、文をつくる。
3	1			・ 英文の内容を理解するとともに、未来完了形、if 節のない仮定法、仮定法過去完了を理解し、文をつくる。
	2	・ Lesson 9 Vertical Farming	9	・ 英文の内容を理解するとともに、完了形の受動態、進行形の受動態を理解し、文をつくる。
	3	・ Lesson 10 Words and You ・ (For Reading)	10 9	・ まとまった分量の英文を読み、登場人物の心の動きを読み取って、物語の展開をつかむ。
年間授業時数			105	

令和3年度 <4学年 英語表現I> 年間指導計画

単位数	単位 3	目標
使用教科書	Vision Quest English Expression I Advanced (啓林館)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する定型表現を習得すると同時に、プレゼンテーション、ディスカッションなどの活動を通して英語を聞き、話す力を養う。 高校英語の基本文法事項を体系的に学習し、習得するとともに、文法に関する大学入試出題傾向をふまえて実践的な演習を行う。
使用補助教材	Vision Quest 総合英語 Ultimate (啓林館) Vision Quest English Expression I Advanced Workbook 発信につながる英語構文91 (数研出版) 全解説頻出英熟語問題 1000 (桐原書店)	

評価の観点と方法・材料

評価の観点： ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ② 表現の能力：話すこと (S), 書くこと (W) ③ 理解の能力：聞くこと (L), 読むこと (R) ④ 言語や文化についての知識・理解 評価の材料： (a) 授業中の活動 (b) 英語による発表 (c) 課題の提出 (d) 小テスト・定期考査
--

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	Lesson 1 紹介 文の種類	6	・挨拶表現を適切に使用できる。
	5	Lesson 2・3 興味・関心 旅行 文型と動詞 時制	6	・同意の表現、質問の仕方を学び、適切に使用できる。
	6	Lesson 4・5 スポーツ・食事 完了形 助動詞	8	・トピック別の単語、フレーズを学び、適切に使用できる。
	7	Lesson 1～5 復習	4	・Lesson 1～5 の内容について、適切に表現できる。
2	9	・ Lesson 6・ Lesson 7 観光・交際 受動態 不定詞	6	・道案内、買い物の表現を適切に使用できる。
	10	・ Lesson 8・ Lesson 9 娯楽 ルール 動名詞 分詞	8	・パラグラフの構成を理解し、実際に適用できる。
	11	・ Lesson 10 文化 関係詞	8	・目的を説明したり、意図を尋ねたり、驚きを表す表現を適切に使用できる。
	12	・ Lesson 6～10 復習	4	・ Lesson 6～10 の内容について、適切に表現できる。
3	1		6	
	2	・ Lesson 11 社会問題 比較 ・ Lesson 12 悩み事 仮定法	8	・意見を述べる表現を適切に使用できる。 ・主張の仕方、要点・要約の書き方を学び、適切に使用できる。
	3	・ Lesson 11～12 復習	6	・ Lesson 11～12 の内容について、適切に表現できる。
年間授業時数			70	

令和3年度 < 5学年 コミュニケーション英語Ⅱ > 年間指導計画

単位数	3単位
使用教科書	CROWN ENGLISH COMMUNICATIONⅡ (三省堂)
使用補助教材	CROWN ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ WORKBOOK ADVANCED (三省堂) 及び CD STOCK4500 (文英堂) "学校専用 共通テストドリル 英語 リーディング 10minutes" (Z会) All Ears Vol.3 (美誠社) リンケージ英語構文 (旺文社) CROSSBEAM S2(エミル出版)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・実生活で英語を読む、聞く、話す、書く場合に必要とされる語彙、文型、文法事項などを長文読解を通じて理解し、音読などのトレーニングを通して定着させるとともに、大学入試英文に対応できる力を身につける。 ・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 ・英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を伸ばす。

評価の観点と方法・材料
<p><評価の観点>①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②表現の能力：話すこと（S）、読むこと（R）、書くこと（W） ③理解の能力：聞くこと（L）、読むこと（R） ④言語や文化についての知識・理解</p> <p><評価の方法・材料> ①授業中の活動、②英語による発表 ③課題の提出 ④小テスト・定期考査</p> <p>小テスト、定期考査などにより、単語・熟語・文法項目・各レッスンの理解度を評価する。</p> <p>授業における授業意欲、トレーニング状況、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度などを観察し、評価する。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	Lesson1 Around the World on a Bike	10	・関係代名詞の非制限用法 不定詞・動名詞の意味上の主語
	5	Lesson2 Into Unknown Territory	10	・関係副詞の非制限用法 受け身・否定の分詞構文
	6	Lesson3 00PARTS	10	・前置詞＋関係代名詞 助動詞＋have＋過去分詞
	7	Lesson4 Crossing the Boarder	10	・不定詞＋前置詞 完了進行形、強調構文
2	9	Lesson5 Saving Cherokee	10	・複合関係詞 不定詞の完了形、比較級＋than＋S＋V
	10	Lesson6 Ahsura- A Statue with Three Faces-	10	・結果を表す不定詞、倒置 無生物主語の他動詞構文
	11	Lesson7 Why Biomimicry?	10	・仮定法現在 if節のない仮定法、未来に関する仮定法
	12	Lesson8 Working against the Clock	10	・完了の分詞構文 受け身の進行形
3	1	Lesson9 The Long Voyage Home	10	・独立分詞構文 未来進行形、未来完了形
	2	Lesson10 Grandfather' s Letters	10	・不定詞の受け身 動名詞の受け身
	3	Reading 1 Sun-Powered Car	5	物語を読む
年間授業時数			105	

単位数	2 単位
使用教科書	VISION QUEST ENGLISH EXPRESSION II Ace (啓林館)
使用補助教材	総合英語 Ultimate (啓林館) 全演習標準英文法・語法問題 1000 (い いづな書店) シンプル英作文 (文英堂) 英文法語法 Vintage 3rd edition (い いづな書店) 解体英熟語 (Z会)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関する定型表現を習得すると同時に、プレゼンテーションなどの活動を通して英語を聞き、書く力を養う。 ・文法事項を体系的に習得するとともに、文法に関する大学入試傾向をふまえて演習する。

評価の観点と方法・材料
<p>学んだ文法・表現を用いて、文を理解し書くことができる。パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。自らの意見を、適切な表現を用いて伝えることができる。授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査などを対象として総合的に評価する。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	
1	4	Part 1 Lesson 1 お花見	6	主語の決定／見えない主語の発見／主語の it 主語になる名詞句／形式主語／無生物主語
		Lesson 2 漫画の楽しみ		
	5	Lesson 3 京都へ観光に	6	自動詞と他動詞／間違えやすい自動詞と他動詞／群動詞 SVO/SVOO SVC/SVOC
		Lesson 4 私の家族です		
	6	Lesson 5 保育園での授業体験	8	使役動詞／知覚動詞 直接話法と間接話法／間接話法で伝達
		Lesson 6 サプライズパーティー		
	7	Lesson 7 映画のお誘い	6	能動態と受動態／日本語との違い 「もし(今)～ならば」／「もし(あの時)～だったなら」 義務・必要を表す助動詞／推量を表す助動詞 数量を表す語句／名詞を前から修飾する語句
Lesson 10 『タイタニック』を見て				
Lesson 11 世界遺産の魅力				
2	9	Lesson 12 ボランティア活動	8	名詞を後ろから修飾する①／② 関係代名詞／関係副詞
		Lesson 13 制服に賛成？ 反対？		
	10	Lesson 14 ローマの魅力	10	副詞・副詞句／不定詞や分詞を使った副詞句 副詞節①／②
		Lesson 15 思い出の写真		
	11	Lesson 16 科学技術の利用	10	原級／比較級 最上級／最上級を意味する表現 no＋名詞, no-で始まる代名詞／部分否定／準否定
		Lesson 17 携帯電話は便利だけど		
	12	Lesson 18 犬派？ 猫派？	10	文と文をつなぐ パラグラフの構成／列挙・順序 例示・追加 比較・対照 原因・理由・結果 リーディングの要約
		Lesson 19 思い出深いプレゼント		
		Lesson 20 インターネットの問題点		
		Part 2 Lesson 1 文と文をつなぐ		
3	1	Lesson 2 ロボットの有用性	6	ブレインストーミング／資料を探す／アウトラインの作成 プレゼンテーションの原稿／表現／準備／実施
		Lesson 3 英語を学ぶ意義		
		Lesson 4 都会と田舎		
2	Lesson 5 深刻な黄砂問題	4	ディスカッションの進め方／例 ディスカッションに役立つ表現／評価／Practice	
	Lesson 6 ベジタリアン			
		Lesson 3 (Debate)	4	
年間授業時数			70	

令和3年度 < 6学年 必修 コミュニケーション英語Ⅲ > 年間指導計画

単位数	3単位	目標
使用教科書	ELEMENT English Communication III	英語を読む、聞く、話す、書く場合に必要とされる語彙、文型、文法事項等を、長文読解を通じて理解し、音読等のトレーニングを行い定着させるとともに、私大や国立二次試験の英文に対応できる能力を身に付けさせていく。
使用補助教材	Cutting Edge オレンジ (エミル出版) 大学入学共通テスト リスニング分野別 10min. (エミル出版) TACKLE 40 (桐原書店) TRY 30 (桐原書店)	

評価の観点と方法・材料

学習した文法・語法を用いて高度な内容の英文を理解することができる。テーマに基づいて自分の考えを英語で表現できる。小テスト、定期テスト等により単語・熟語文法事項・各レッスンの理解度を評価する。授業における学習意欲、トレーニング状況、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度等を観察し評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	Lesson1 Lies, Damned Lies, and Statistics	10	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	5	Lesson2 Language Extinction 【中間考査】	10	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	6	Lesson3 Environment or Orangutans? Lesson 4 The Truth about Grit	12	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	7	Lesson 7 Invisible Gorilla Lesson 8 A Small Crime 【期末考査】	10	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	2	9	共通テスト対策 問題演習	10
2	10	共通テスト対策 問題演習 【中間考査】	12	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	11	共通テスト、二次試験対策 問題演習	12	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	12	共通テスト、二次試験対策 問題演習 期末考査】	8	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	3	1	共通テスト 問題演習	10
3	2	二次試験対策問題演習 共通テスト 問題演習	10	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	3	二次試験対策問題演習 共通テスト 問題演習 二次試験対策問題演習	3	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	年間授業時数		105	

令和3年度 <6学年 必修 英語表現Ⅱ> 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	Vision Quest English Expression II (啓林館)
使用補助教材	The Reflex 643 (桐原書店) 入試必携英作文 Write to the point 三訂版 (数研出版) ドラゴン・イングリッシュ基本英文100 CD付 (講談社)

目標
日常生活に関する表現を習得すると同時に、プレゼンテーションなどの活動を通して英語を聞き、書く力を養う。 文法事項を体系的に習得するとともに、文法・作文に関する大学入試傾向をふまえて演習する。

評価の観点と方法・材料
文法事項・表現をもとに、文を理解し、書くことができる。段落構成に基づいて文章を書くことができる。自分の意見や考えを、適切な表現を用いて伝えることができる。授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	Lesson10 能動態・受動態 Lesson11 仮定法 Lesson12 助動詞	8	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	5	Lesson13 前置修飾 Lesson14 後置修飾 【中間考査】	8	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	6	Lesson15 関係詞 Lesson16 副詞句	8	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	7	Lesson17 副詞節 Lesson18 比較 【期末考査】	4	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
2	9	共通テスト対策 問題演習	8	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	10	共通テスト対策 問題演習 【中間考査】	8	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	11	共通テスト、二次試験対策 問題演習	8	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	12	共通テスト、二次試験対策 問題演習 期末考査】	4	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
3	1	共通テスト 問題演習	6	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	2	二次試験対策問題演習 共通テスト 問題演習	6	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
	3	二次試験対策問題演習 共通テスト 問題演習 二次試験対策問題演習	2	豊富な英文量のテキストに対しても論旨を正確に理解できるか。複雑な構文を文構造の観点から正確に理解できるか。
年間授業時数			105	

令和3年度 < 6学年 選択 コミュニケーション英語Ⅱ > 年間指導計画

単位数	2単位
使用教科書	ELEMENT English Communication II (啓林館)
使用補助教材	Cutting Edge ブラック (エミル出版) Critical point 2 (エミル出版)

目標
英語を読む、聞く、書く場合に必要とされる語彙、文型、文法事項を長文読解を通じて理解し、音読等のトレーニングを行い定着させるとともに、私大や国公立二次試験の英文に対応できる力を身につける。

評価の観点と方法・材料
学んだ文法・語法を用いて英文を理解することができる。テーマに基づいて自分の考えを英語で表現できる。小テスト、定期テスト等により、読解・単語・熟語・文法事項・各レッスンの理解度を評価する。授業における学習意欲、トレーニング状況、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度等を評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	テーマ：歴史・社会、科学 長文読解演習 文法・語法演習	8	歴史・社会、科学等をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	5	テーマ：言語、自然 長文読解演習 文法・語法演習	8	言語、自然等をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	6	テーマ：宇宙、自然科学 長文読解演習 文法・語法演習	8	宇宙、自然科学をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	7	テーマ：時事・社会 長文読解演習 文法・語法演習	4	時事・社会等をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
2	9	テーマ：時事・歴史、科学 長文読解演習 文法・語法演習	8	時事・歴史、科学等をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	10	テーマ：時事・IT・社会 長文読解演習	8	時事・IT・社会等をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	11	テーマ：心理・時事・言語 長文読解演習 文法・語法演習	8	心理・時事・言語等をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	12	テーマ：歴史・経済 長文読解演習 文法・語法演習	4	歴史・経済等をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
3	1	テーマ：科学・時事・教育 長文読解演習 私大・二次対策 文法・語法演習	6	科学・時事・教育をテーマにした高度な英文を正確に早く理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	2	テーマ：エッセイ 長文読解演習 私大・二次対策 文法・語法演習	6	抽象的で難解な英文の論旨を正確に理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	3	総復習、私大・二次対策	2	抽象的で難解な英文の論旨を正確に理解できる。総合的な問題を今までの知識から解答することができる。
	年間授業時数			70

単位数	1 単位
使用教科書	
使用補助教材	Cutting Edge 2020 Green (エミール出版) Vintage 3 rd edition(文英堂) CROSSBEAM S2 (エミール出版) CNN Workbook (朝日出版社)

目標
・人文系、社会系、自然科学系などさまざまな英文を読む機会を持つことで、教科書とは違った英文に慣れるとともに、異文化理解の一端とする。

評価の観点と方法・材料
<p>〈評価の観点〉</p> <p>① 理解の能力：聞くこと (L)，読むこと (R) ②表現の能力：話すこと (S)，書くこと (W)</p> <p>③ 言語や文化についての知識・理解</p> <p>〈評価の方法・材料〉</p> <p>(a) 授業中の活動 (b) 英語による発表 (c) 課題の提出 (d) 小テスト・定期考査定期テスト、評価テスト</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	Unit1	6	環境問題についての理解を深める 健康問題についての理解を深める 言語についての理解を深める 科学についての理解を深める 動物に関する理解を深める エッセイを読み読解力を鍛える 進化論についての理解を深める 医療に関する理解を深める
		Chapter1		
		Chapter2		
		Chapter3		
	5	Chapter4		
		Unit2		
	6	Chapter5		
		Chapter6		
7	Chapter7			
	Chapter8			
2	9	Unit3	6	経済についての英文を読み、理解を深める 物語を読み読解力を鍛える 自然についての理解を深める 動物に関する理解を深める 国際問題についての理解を深める 科学についての理解を深める 教育問題についての理解を深める
		Chapter9		
		Chapter10		
		Chapter11		
	10	Chapter12		
		Unit4		
11	Chapter13			
	Chapter14			
12	Chapter15			
	3	Unit5	4	歴史についての英文を読み、理解を深める 睡眠についての理解を深める 心理についての理解を深める
Chapter16				
Chapter17				
	2	Chapter18	6	
		Chapter18		
年間授業時数			35	

令和3年度 < 4学年 総合的な探究の時間（人間と社会） > 年間指導計画

単位数	1 単位
使用教科書	「人間と社会」（東京都教育委員会）
使用補助教材	—

目標
・教科の学習、課題学習、論文作成、プレゼンテーション他各活動を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、社会的リーダーとしてどのように社会に貢献していくべきか考える力を育てる。また、今後の自己の目標を設定させ、明確な目的をもって進むべき進路を選択する力を育てる。

評価の観点と方法・材料
演習による学習、体験活動による学習を通じて、価値の理解を深め、選択・行動に関する能力を育成できたか、道徳性を養い、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を育成できたかをワークシート・授業への取り組み、ボランティアの活動状況などから評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・「人間と社会」支え合う社会（第11章） [宿泊防災訓練事前指導 1 時間、講義 2 時間、演習 3 時間]	6	・社会においてお互いが「支え支えられる」立場であることを自覚し、思いやり、人間愛に対する自己の考えを深め、人生におけるリスクに対し他者と協働しながら主体的に課題を解決する能力を育成できたか。
	5			
	6 7	・ボランティア活動に向けて[三鷹ボランティアセンター講演会 1 時間、事前指導 1 時間] ・ボランティア活動（7～8 月）[4 時間×3 日間=12 時間]	13	・ボランティア活動を通して、「支え合う社会」で形成した判断基準を再確認し、選択・行動する場面を経験できたか。 ・活動の目的や意義を理解し、取り組みを設定できたか。
2	9	・ボランティア活動事後指導[2 時間] ・体験活動の反省・評価	2	・ボランティア活動の経験をふまえて、これから何を大切に、どのように生き、どのようにして人を幸せにしたいか、を考えることができたか。
	10	・「人間と社会」学ぶことの意義（第2章） [2 時間] ・セカンドステージ論文作成（探究活動）	5	・学ぶことの意義を考え、自律及び忍耐に対する自己の考えを含め、主体的に学び続けようとしたか。 ・主体的に学び続けようという能力が育成されたか。 ・ここまでの身につけたことを活用することができたか。
	11	①課題設定		
	12	②情報収集 ③整理・分析		
3	1	・セカンドステージ論文作成（探究活動） ④まとめ・表現	4	・学ぶことの意義を考え、自律及び忍耐に対する自己の考えを含め、主体的に学び続けようとしたか。 ・主体的に学び続けようという能力が育成されたか。 ・ここまでの身につけたことを活用することができたか。
	2			
	3	・セカンドステージ論文発表会、まとめ	5	・論文作成に対する取り組み状況や、提出した内容に対する自己評価などを総合して評価する。 ・発表や意見交換を通じて、これからの学びや、生き方を考えることができたか。
年間授業時数			35	

令和3年度 < 4学年 総合的な探究の時間（人間と社会） > 年間指導計画

単位数	1 単位
使用教科書	「人間と社会」（東京都教育委員会）
使用補助教材	—

目標
・教科の学習、課題学習、論文作成、プレゼンテーション他各活動を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、社会的リーダーとしてどのように社会に貢献していくべきか考える力を育てる。また、今後の自己の目標を設定させ、明確な目的をもって進むべき進路を選択する力を育てる。

評価の観点と方法・材料
演習による学習、体験活動による学習を通じて、価値の理解を深め、選択・行動に関する能力を育成できたか、道徳性を養い、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を育成できたかをワークシート・授業への取り組み、ボランティアの活動状況などから評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・「人間と社会」支え合う社会（第11章） [宿泊防災訓練事前指導 1 時間、講義 2 時間、演習 3 時間]	6	・社会においてお互いが「支え支えられる」立場であることを自覚し、思いやり、人間愛に対する自己の考えを深め、人生におけるリスクに対し他者と協働しながら主体的に課題を解決する能力を育成できたか。
	5			
	6	・ボランティア活動に向けて[三鷹ボランティアセンター講演会 1 時間、事前指導 1 時間] ・ボランティア活動（7～8 月）[4 時間×3 日間=12 時間]	13	・ボランティア活動を通して、「支え合う社会」で形成した判断基準を再確認し、選択・行動する場面を経験できたか。 ・活動の目的や意義を理解し、取り組みを設定できたか。
2	9	・ボランティア活動事後指導[2 時間] ・体験活動の反省・評価	2	・ボランティア活動の経験をふまえて、これから何を大切に、どのように生き、どのようにして人を幸せにしたいか、を考えることができたか。
	10	・「人間と社会」学ぶことの意義（第2章） [2 時間] ・セカンドステージ論文作成（探究活動）	5	・学ぶことの意義を考え、自律及び忍耐に対する自己の考えを含め、主体的に学び続けようと思えたか。 ・主体的に学び続けようという能力が育成されたか。 ・ここまでの身につけたことを活用することができたか。
	11	①課題設定 ②情報収集 ③整理・分析		
	12			
3	1	・セカンドステージ論文作成（探究活動） ④まとめ・表現	4	・学ぶことの意義を考え、自律及び忍耐に対する自己の考えを含め、主体的に学び続けようと思えたか。 ・主体的に学び続けようという能力が育成されたか。 ・ここまでの身につけたことを活用することができたか。
	2			
	3	・セカンドステージ論文発表会、まとめ	5	・論文作成に対する取り組み状況や、提出した内容に対する自己評価などを総合して評価する。 ・発表や意見交換を通じて、これからの学びや、生き方を考えることができたか。
年間授業時数			35	

令和3年度 <5学年 総合的な探究の時間> 年間指導計画

単位数	1 単位
使用教科書	—
使用補助教材	—

目標
・社会に役立つための学習と体験活動を行い、サードステージのまとめを作成する。

評価の観点と方法・材料

進路に関する、理解、意義や目的、活動へ意識が深まったか。 サードステージ論文作成をとおして、自身の進路や社会性について具体的に考えることができたか。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4 5 6 7	<オリエンテーション> ・自らの定めた研究テーマに主体的に取り組むことができるようオリエンテーションを行う。 <進路オリエンテーション> ・主体的な進路実現のありかたと進路研究活動の支えとなる施設設備の利用について理解させる。 <進路講演会> ・「進路選択」の準備への取り組みを考える。様々な職業の人々の話を聞く。 <進路研究> ・進路研究の進め方、研究主題の設定方法についてのオリエンテーション。 ・教育実習生から大学の様子を聞く。 ・大学研究 ・職業研究 <2学期の研究主題の設定> ・研究主題の登録と記録の整理・感想・自己評価の提出。 ・国際理解の一環として、海外修学旅行先の台湾の地理、歴史、文化について学習する。 <オープンキャンパスへの参加> ・大学の実際を見聞し、進路実現につなげる。	12	・生徒が主体的に自己の進路について、調査研究し、目的意識を醸成することができたか、レポートや報告書作成、自己評価を通し、評価する。
2	9 10 11 12	<進路研究のための計画書作成> ・進路研究のスケジュールについて、総合的に理解し学ぶ態度を育成する。 <進路研究のための計画の具体化> ・進路室や CALL 教室等を利用させ、実践的に研究に取り組む。 <班別オリエンテーション> <班別自主研究> <国際理解> ・国際理解の一環として、海外修学旅行先の台湾の地理、歴史、文化について学習する。 <大学模擬講義> ・大学模擬講義での体験学習。 <サードステージのまとめ・レポート作成> ・レポートを作成するとともに、2学期の自己評価を行う。	14	・進路研究の発表を通して自己の進路について主体的に考え、取り組む意識や態度が育ったか、計画書提出、レポート作成、自己評価を通し、評価する。
3	1 2 3	<サードステージ論文発表会に向けて> ・発表会のためのオリエンテーションを実施し、発表計画書の作成、プレゼンテーションのための準備をさせる。 <1年間の反省とレポート作成> ・各班の研究をレポートにまとめさせるとともに、自己評価をさせる。	9	・進路研究の発表を通して自己の進路について主体的に考え、取り組む意識や態度が育ったか、計画書提出、レポート作成、自己評価を通し、評価する。
年間授業時数			35	

令和3年度 < 6 学年 総合的な探究の時間 > 年間指導計画

単位数	1 単位
使用教科書	—
使用補助教材	—

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒各自の進路実現に向けて必要な情報を得、分析できる能力を身につける。 ・進路実現に向けた意識と意欲を涵養する。

評価の観点と方法・材料
<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現のための意識、情報入手の方法等理解できたか。 ・模試結果から志望大学への今後の取組方が計画できたか。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション・講演会 ・グローバル遠足準備（国際交流） 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現のための意識、情報入手の方法等理解する。 ・進路を意識し、国際交流の準備を行う。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・進路集会・自主研修 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・受験科目と受験大学についての情報の入手と確認を行う。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・在卒懇談会・自主研究 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩の経験に照らして、これからの自身の取組方が明確になったか。 ・具体的な受験カレンダーが確定できたか。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・進路集会・大学説明会 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・最終確認と最新情報の入手について、どのオープンキャンパスに参加するか決定する。
2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会・グループ別研究 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・模試結果から志望大学への今後の取組方が計画できたか。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・自主研究・大学模擬講義 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の模擬講義に触れるなどして受験までの意識が高まったか。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・自主研究まとめ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・出願について最終確認ができたか。 ・現時点での達成部分と課題が明確になったか。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・受験計画書の作成・提出 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日程に無理はないか、手続きについて確認できているか。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・センターリサーチ ・受験計画書の練り直し 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験の自己採点の結果をもとに、課題を明確にして出願に望んでいるか。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・受験結果の分析報告書の作成・提出 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・結果について正しい分析がなされているか。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・受験結果の分析報告書の作成・提出 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活やその後の社会生活に向けての意識が高められたか。
年間授業時数			35	

図書館・保健室より

図書室から

学校図書館は、読書や調査のための情報資料の利用を通して、皆さんのひとりひとりが自ら学習することができる環境を整えています。広く豊かな本の世界に触れることによって、理解力・判断力・想像力・表現力を培ってください。

また、中学・高校時代に図書館を利用する習慣を身に付けておくと、将来大学生や社会人になってから、各種の図書館や資料センターなどを利用する上でも大きなプラスになります。

〈読書〉

個人で体験できることには限りがありますが、読書を通して、触れることのできない世界を知り、多くの人の心を理解するヒントが得られます。様々な考え方、感じ方に接して、自分自身や社会について考えることは、未来を模索することにつながっていきます。中学・高校時代に多くの本に出会うことによって、社会や人間に対する視野を広げ、ものの見方を確立して、自分の意見を表現できるよう成長してほしいと願っています。

また、くつろいだ気分で想像の世界に楽しみを発見する読書もあります。学校図書館には、ファンタジーやミステリー、趣味の本、美術書や写真集など楽しみながら気軽に読める本や雑誌もたくさんあります。時には、ひとりのできる息抜きを楽しんでください。

〈調査・研究〉

本校の学習では、様々なテーマによる課題が出され、調べ学習やレポート学習、発表授業が行われています。このような場合には、図書館にある本や辞典などの資料を、多角的に利用してください。図書館には調べるために使う様々な分野の入門書や百科事典、専門事典などがそろっています。

調べるための本を「参考図書」といいますが、図書館の中では「参考図書のコーナー」として別置され、次のような種類の事典などがあります。

- 1 漢字の読み方、言葉の意味や発音を調べるには各種の言葉の辞典を使います。
漢和辞典、国語辞典、広辞苑、古語辞典、英和辞典など
- 2 基本的な事柄を調べるには、百科事典や用語集を使います。
世界大百科事典、ブリタニカ国際大百科事典、現代用語の基礎知識など
- 3 専門的な事柄を調べるには、専門事典を使います。
哲学辞典、国史大辞典、科学事典、日本文学辞典など
- 4 場所、地理、地名などを調べるには、地図や地名辞典を使います。
各種地図、角川日本地名大辞典など
- 5 人物、人名などを調べるには、人名事典を使います。
世界伝記大事典、日本人名大事典など
- 6 統計などを調べるには、年鑑や白書を使います。
世界年鑑、青少年白書、労働白書、厚生白書、環境白書など
- 7 古い記事や一定の主題は時間を追って調べる時には、新聞の縮刷版を使います。
朝日新聞縮刷版

保健室から

保健室では、みなさんが充実した学校生活を送れるように、サポートをしていきます。みなさんも自分の体調を把握し、自分で健康管理ができるようにしましょう。

<前期課程>

小学校時代に比べて、通学時間が長くなります。学習内容も難しくなり、予習・復習・宿題と勉強時間が長くなるとともに部活動の練習内容も厳しくなります。思春期は大切な成長期なので、必要に応じ体を休息させることが大切です。

<後期課程>

後期課程は義務教育ではありませんので、決められた出席日数をこなし単位をとることが大切です。体調管理を行い、充実した学校生活を送りましょう。

<前期課程・後期課程共通の健康管理>

自分の生活リズム

睡眠時間を削っての生活は、単に疲労感や眠気を招くばかりではなく、頭痛や肩こり立ちくらみ、生理の不順、胃腸の調子が悪いといった症状を招きます。

体の疲労が重なると「やる気が出ない」「何もしたくない」「理由はないが涙がでてる」など心への影響がでてくることもあります。

規則正しい生活を送り、自分なりの生活リズムをつくりましょう。

睡眠と栄養

中等教育学校の6年間は身体が最も成長する時期です。睡眠と栄養と適度な運動は成長に欠かせない大切な要素です。睡眠は休息をとるという点からも、また睡眠中に成長ホルモンの分泌が促進されている点からも重要です。自分に必要な睡眠時間をつかんでください。

食生活の面では、栄養のバランスを考えて摂取しましょう。前期課程の給食は、成長に必要なエネルギー、栄養バランスを考えた献立となっています。

後期課程は、弁当を持参します。自分で弁当を作る（購入する）人もいるでしょう。パンだけ、おにぎりだけでなく野菜（サラダやジュース）・たんぱく質（チーズ等）も加えるなどバランスを考えましょう。

学校感染症について

インフルエンザなど学校感染症に罹患した場合は、速やかに学校に連絡し出席停止期間は十分に休養をしましょう。登校を再開する時には「学校感染症による欠席届」を担任に提出してください。

心の健康

中学・高校時代は精神的・身体的・社会的に大人へと成長していく時期です。

その過程で不安感や挫折感を感じることもあると思います。自分の心と向き合いひとりで考えることも大切ですが、信頼できる大人に相談することも時には必要でしょう。

保健室でも相談に応じますし、週に1回スクールカウンセラーも来校します。

6年間の学習計画

国語科 6年間の指導計画

目 標 ・文化の源となる国語教育という視点に立ち、読むこと・書くことはもちろん、話すこと・聞くことの領域においても「ことば」の働き・成り立ちに興味や関心を持ち、言語文化を深く理解し尊重する態度を養う。実社会において「ことば」の正しい、主体的な使い手となり、自分の気持ち、考えを適切に表現できる力を身につけさせる。異なった他者を理解し、物事を論理的に思考し深化させていくことのできる言語力を養成する。

指導の特徴 ○学校設定科目…「文化科学Ⅰ」「文化科学Ⅲ」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
読書に親しむ。漢字と言葉の正しい理解と習得。自分の意見や考えを言葉にして率直に表現する。他者の言葉を的確に受け止める。	意欲的に読書に取り組み、視野を広げる。文章表現の仕方を学び、文章を書き慣れる。討論・討議を通して他者を理解し、自分の論理を鍛える。	自ら課題を設定し、読書を行う。古今の文章を読み叡智に触れて、自分の考えを発展させる。価値判断を伴った読解力を付ける。効果的な表現方法を工夫する。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携	
前期課程	ファーストステージ	1	○国語 ・楽しく読む。 ・工夫して音読・朗読・群読をし、読解力と表現力を育てる。 ・口語文法を学び、日本語の特性を知る。 ・漢字の成り立ち・故事成語・四字熟語を学んで漢字の造語力を知る。 ・百人一首の暗唱を行い、韻文を中心に古典のリズムに親しむ。 書写 ・字形・配列などを理解して楷書で書く。 ・漢字の行書の基礎。	○文化科学Ⅰ ・読解力、表現力の基礎を養う。 ・身の回りに材をとったスピーチや、グループでの話し合い活動を通じて、効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ・論理的な文章の構成や、資料の読み取り方を学ぶ。	国語 文化科学Ⅰ	週4時間 週1時間	・日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりする。 ・スピーチ「私のお気に入り」ショウ・アンド・テル
		2	○国語 ・正しく読む。 ・仲間や社会とのかかわりを描いた文学作品を読み、日常生活から社会全体へと視野を広げる。 ・通知文、説明文、図表などの制作を行い、情報を伝える編集方法について学ぶ。 ・熟語の構成・漢語と和語の性質を学び、日本語の豊かさを理解する。 ・文語文法・訓読のきまりの基礎を学び古典独特の表現を味わう。 ・百人一首の鑑賞とともに近現代の短歌・俳句を学び、定型詩の伝統と特色を考える。 書写 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書く。		国語	週4時間	・収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く。 ・書いたものをグループで回して読み合い、良さやアドバイスを伝えあい、推敲する。
	セカンドステージ	3	○国語 ・広く読む。 ・社会や世代を超えて読み継がれる物語や小説を読んで自己と社会を考える。 ・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読み、読み取ったことを簡潔にまとめた文章を書く。 ・ディベート・パネルディスカッションを行い、対話と説得の技術を身につける。 ・文語文法（用言）・訓読のきまりを体系的に学び、読解力の基礎を固める。 ・世界の様々な文字の特性と背景にある文化を知るとともに、我が国における仮名の成り立ち・特性を理解する。 書写 ・多様な文字に関心を持ち効果的に字を書く。		国語	週4時間	・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む。 ・報道されていることを読み取り、起こった出来事をとらえる。
後期課程	ファーストステージ	4	○国語総合 ・早く読む。 ・論理の流れを予測しながら読み、文脈をとらえて必要な情報をとりだす能力を養う。 ・様々な立場や考え方に立って書かれた複数の文章を比較しながら読み、異なる点・共通する点を明らかにしながら理解し、自己の意見を文章にまとめる。 ・読書活動のまとめとして書評とエッセイの制作・発表を行う。 ・待遇表現・和歌の修辞・漢文の句法などを理解し、文法的知識を生かして古典作品を鑑賞する。 ・文学史を学び、体系的な流れの中で作品をとらえる姿勢を身につける。		国語総合	5単位	
	サードステージ	5	○現代文B ・深く読む。 ・文学作品の細かな表現に着目し鑑賞するとともに、豊かな表現をめざして短歌・俳句などの制作と合評を行う。 ○古典B ・古典作品はもちろん、近現代の文章においても、時代背景・文化的背景への理解と言語的知識を土台に、より深い解釈・鑑賞を行う。	○文化科学Ⅲ さまざまな評論文を読み、主題を押さえ、問題となる点を明らかにし、それに対する自身の考えを文章にまとめる。グループ・クラスでの発表と討論。読解力、表現力、コミュニケーション能力の深化を図る。	現代文B 古典B 文化科学Ⅲ	2単位 2単位 1単位	
		6	○現代文B ・読んで広げる。 ・時代や地域で異なる多様な文化を相対的にとらえ尊重するとともに、普遍的真理を追究する態度を育てる。 ・近代、現代を考えさせる小説・評論を読み、時代と人間・社会と人間について話し合って考えを深め、文章に表現する。	○古典B（選択） ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。 ○国語総合（選択） ・現代文や古典の作品を通して、より深く解釈をするとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深める。	現代文B 古典B 古典B 国語総合	2単位 4単位 2単位 2単位	

社会科 6年間の指導計画

目 標 ・「思いやり・人間愛を持った社会的リーダー」として必要な、公民的資質を養う。6年間を通じ各分野の基本的な事項に関する知識・技能を確実に習得させるとともに、分野相互の関連を図り、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心と愛情を身に付けた社会的リーダーとして必要な判断力・表現力を身に付ける。

指導の特徴 ○学校設定科目…「文化科学Ⅱ（法理論）」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
社会的事象に関する基本的な知識と技能を身につける。(その際、一貫教育の特性を生かし、後期課程の理解に不可欠な部分については十分な時間を確保する)。	社会的事象に関する幅広い知識と技能の定着を図る。また、社会事象の原因や背景を考察したり、多角的多面的に追及する力を養う。	社会的事象を理解・分析し、課題を解決する総合的な力を身につける。また、それらを分かりやすく表現する能力を培う。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携
前期課程	ファーストステージ	1	○地理的分野 (1) 世界の様々な地域 (2) 日本の様々な地域	社会	週4時間	<地理的分野> ・地域の規模に応じた調査、身近な地域 <歴史的分野> ・歴史のとらえかた、身近な地域の歴史を調べる活動 <公民的分野> ・政治分野：地方自治 ・経済分野：政府の役割 ・地方財政
		2	○歴史的分野 (1) 歴史のとらえ方 (2) 古代までの日本 (3) 中世の日本 (4) 近世の日本 (5) 近代の日本と世界 (6) 現代の日本と世界	社会	週3時間	
		3	○公民的分野 (1) 私たちと現代社会 (2) 私たちと経済 (3) 私たちと政治 (4) 私たちと国際社会の諸課題	社会	週4時間	
後期課程	セカンドステージ	4	○地理B (1) さまざまな地図と地理的技能 (2) 現代世界の系統地理的考察 (3) 現代世界の地誌的考察	地理B 倫理 文化科学Ⅱ	3単位 2単位 1単位	
	セカンドステージ	5	○世界史B（必履修） (1) 近世ヨーロッパ世界の形成 (2) 近世ヨーロッパ世界の展開 (3) 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 (4) 欧米における近代国民国家の発展 (5) アジア諸地域の動揺	○倫理（必履修） (1) 青年期の課題と自己形成 (2) 人間としての自覚 (3) 日本人としての自覚 (4) 現代に生きる人間の倫理 (5) 現代の諸課題と倫理 ○文化科学Ⅱ (1) 法と法学 (2) 憲法の意義 (3) 財政のしくみ (4) 税の歴史と現代の税制 (5) 日本の裁判制度と裁判員裁判	世界史B 日本史B	3単位 3単位
	サードステージ	6		政治経済（必履修） (1) 現代の政治 (2) 現代の経済 (3) 現代社会の諸課題 (選択科目) 地理B 地理演習 世界史B 世界史演習 日本史B 日本史演習 政治経済 倫理	政治経済 選択科目	2単位 2～4単位

数学科 6年間の指導計画

目 標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を以下のとおり3ステージ分けて育成する。

指導の特徴 ○習熟度別指導の実施…2学級3展開の授業を実施し、個々に応じたきめ細かな習熟度別指導を行う。

○継続的指導…精選した内容を系統的、体系的に指導する。

○発展的指導…中等教育学校の後期課程における指導内容の一部については、前期課程における指導内容に移行させて発展的な学習として指導する。

○学校設定科目…「自然科学Ⅰ」を設定し、「日本の文化と幾何学」を題材に、意欲、興味関心を高める課題学習指導を行う。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
<p>○数量や図形などについての基礎的な概念や法則を理解する。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能について学ぶ。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>	<p>○数量や図形などについての基礎的な概念や法則について理解を深める。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を伸ばす。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>	<p>○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	関連教材	履修科目	週授業数 単位数
前期課程	ファーストステージ	1	<p>○代数分野</p> <p>(1) 正の数と負の数 具体的な場面を通して正の数と負の数必要性和意味を理解し、四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。</p> <p>(2) 文字を用いた式、四則演算 文字を用いることの必要性和意味を理解し、文字を用いた式の計算ができるようにする。また、目的に応じて式を変形したり、数量や数量の関係を捉え説明したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 一元一次方程式、連立二元一次方程式 等式や方程式の必要性和意味について理解し、一元一次方程式や連立二元一次方程式を解くことができるようにするとともに、方程式を具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(4) 比例と反比例 関数関係の意味を理解するとともに、比例や反比例として捉えられる二つ数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、具体的な事象について考察し表現することができるようにする。</p> <p>(5) データの活用 ヒストグラムや相対度数の必要性和意味を理解するとともに、目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断することができるようにする。</p> <p>(6) 確率 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 平面図形 基本的な作図や図形の移動について理解するとともに、扇形の弧の長さや面積の求め方について理解し、これらを具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(2) 空間図形 空間図形についての理解を深めるとともに、基本的な錐体や柱体、球の表面積や体積について理解し、これらを具体的な場面で活用できるようにする。</p>	<p>検定教科書</p> <p>体系数学 ・1代数編 ・1幾何編 ・2代数編</p> <p>数学の泉</p> <p>体系問題集 (発展編) ・1代数編 ・1幾何編 ・2代数編</p>	数学	4時間

		<p>○代数分野</p> <p>(1) 式の展開と因数分解 具体的な事象の中にある数量について文字を用いた式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。</p> <p>(2) 平方根 正の数の平方根の必要性和意味について理解し、平方根を含む式の計算をすることができるようにするとともに、具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(3) 一次関数 事象の中にある一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。</p> <p>(4) データの活用 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解するとともに、これらを用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができるようにする。</p> <p>(5) 確率 場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解するとともに、確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 平面図形の性質 基本的な平面図形の性質を見出し、平行線と角の性質、多角形の角の性質を基にしてそれら確かめ説明することができるようにする。</p> <p>(2) 図形の合同 平面図形の合同、三角形の合同条件の意味、証明の必要性和意味及びその方法について理解することができるようにする。</p> <p>(3) 三角形と四角形 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、新たな性質を見だしたりすることができるようにする。</p>	検定教科書 体系数学 ・ 2代数編 ・ 1幾何編 数学の泉 体系問題集 (発展編) ・ 2代数編 ・ 1幾何編	数学	4時間
	2	<p>○自然科学 I 「日本の文化と幾何学」と「データの活用」</p> <p>(1) 和算や算額の歴史について理解を深めるとともに、算額作りに必要な幾何の諸定理(三平方の定理や円の性質など)を理解し、利用することができるようにする。</p> <p>(2) 幾何の諸定理を利用して算額を作ったり、仲間の作品を意欲的に鑑賞し、解きあったりすることができるようにする。</p> <p>(3) データの分析についての理解を深める。</p>	体系数学 ・ 2代数編 ・ 2幾何編 数学の泉	自然科学 I	1時間
セカンドステージ	3	<p>○代数分野</p> <p>(1) 二次方程式 二次方程式の必要性和意味を理解し、因数分解や平方根の考えを基にして二次方程式を解くことができるようにするとともに、具体的な場面で二次方程式活用できるようにする。</p> <p>(2) 関数 $y=ax^2$ 関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができるようにするとともに、具体的な事象を捉え考察し表現することができるようにする。</p> <p>(3) 標本調査 標本調査の必要性和意味を理解するとともに、コンピュータを用いて標本調査の実験を行い、母集団の傾向を推定し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現したりすることができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 図形の相似 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解するとともに、三角形の相似条件を基にして図形の性質を論理的に考察し表現したり、新たな定理を見だしそれを活用したりすることができるようにする。 また、基本的な立体の意味を理解するとともに、相似比と面積比や体積比との関係について理解し活用することができるようにする。</p> <p>(2) 円周角と中心角 円周角と中心角の関係の意味を理解し証明ができるようにするとともに、具体的な場面で活用できるようにする。</p> <p>(3) 平面図形の探究 三角形の性質や円の性質など平面図形に関する基本的な性質や定理についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにするとともに、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができるようにする。</p>	検定教科書 体系数学 ・ 2代数編 ・ 2幾何編 数学の泉 体系問題集 (発展編) ・ 2代数編 ・ 2幾何編	数学	4時間
		<p>○数学 I</p> <p>(1) 数と式 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。</p>	数学 I 体系数学 3 数式・関数編 論理・確率編	数学 I	3単位

後 期 課 程	4	<p>(2) 二次関数 二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(4) データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p> <p>(5) いろいろな式（数学Ⅱ） 整式の乗法・除法及び分方程式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>体系数学3 論理・確率編</p>			
		<p>○数学A</p> <p>(1) 場合の数と確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。（復習）</p>	<p>数学A</p> <p>体系数学3 論理・確率編</p>	<p>数学A</p>	<p>2単位</p>	
サ イ ド ス テ ー ジ	5	<p>○数学Ⅱ</p> <p>(1) 図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 指数関数・対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(4) 微分・積分の考え 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学Ⅱ</p> <p>体系数学5</p>	<p>数学Ⅱ</p>	<p>4単位</p>	
		<p>○数学B</p> <p>(1) 数列 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) ベクトル ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学B</p>	<p>数学B</p>	<p>2単位</p>	
	6	<p>○数学Ⅲ（選択）</p> <p>(1) 平面上の曲線と複素数平面 平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 極限 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 微分法 微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(4) 積分法 積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学Ⅲ</p>	<p>数学Ⅲ</p>	<p>6単位</p>	
		<p>○数学Ⅰ（選択）</p> <p>数学Ⅰ、数学Aの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。</p>	<p>数Ⅰ・A</p>	<p>数学Ⅰ</p>	<p>2単位</p>	
		<p>○数学Ⅱ（選択）</p> <p>数学Ⅱ、数学Bの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。</p>	<p>数Ⅱ・B</p>	<p>数学Ⅱ</p>	<p>2単位</p>	
		<p>○数学Ⅱ（応用）（選択）</p> <p>・数学Ⅱ、数学Bの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通じて、大学入試における得点力向上を目指す。</p>	<p>数学Ⅱ・B</p>	<p>数学Ⅱ</p>	<p>2単位</p>	

理科 6年間の指導計画

- 目 標 ・自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探究する力を身につける。
 ・「社会的リーダー」として必要な、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を身につける。

指導の特徴 ○学校設定科目…「自然科学Ⅱ」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
身のまわりの現象に実験や観察を通して触れることで、自然に対する興味・関心を深める。 科学的探究を行うための基本的な能力や態度を育てる。	自然に対する疑問を持ち、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる。 自然と人との関わり合いや共生、生命の尊重を通じ、社会的リーダーとして必要な基本的人権を尊重する態度を育成する。	専門性の高い授業を展開するとともに、各科目間を横断的に考える力も育てる 個々の生徒の興味・関心に応じて科目を選択できるようにする。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容				履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携
前期課程	ファーストステージ	1	物理分野 身近な物理現象 ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象	化学分野 物質のすがた ・いろいろな物質 ・気体の発生と性質 ・物質の状態変化 ・水溶液	生物分野 生物の世界 ・身近な生物の観察 ・植物のなかま ・動物のなかま	地学分野 大地の変化 ・火山 ・地震 ・地層 ・大地の変動	理科	週3時間	・硬貨の密度から物質を特定する。 ・さまざまな細胞を観察し、その共通点、相違点を知る。
		2	物理分野 電流とその利用 ・電流と回路 ・電流と磁界 ・電流の正体	化学分野 化学変化と原子、分子 ・物質の成り立ち ・いろいろな化学反応 ・化学変化と熱の出入り ・化学変化と物質の質量	生物分野 生物のからだのつくりとはたらき ・生物をつくる細胞 ・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき	地学分野 気象のしくみと天気の変化 ・気象観測 ・気圧と風 ・天気の変化 ・日本の気象	理科	週4時間	・毎日の天気予報を聞いたり、見たりして明日の天気を予報する。
	セカンドステージ	3	物理分野 運動とエネルギー ・力の合成と分解 ・水中の物体に加わる力 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー	化学分野 化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・化学変化と電池 ・酸、アルカリとイオン	生物分野 生命のつながり ・生物の成長とふえ方 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化	地学分野 地球と宇宙 ・天体の動き ・月と惑星の運動 ・宇宙の中の地球	理科	週4時間	・リニアモーターカーの仕組みを知る。 ・デジタルカメラを用いて、物体の運動を記録する。
			自然界のつながり ・生物同士のつながり ・自然界を循環する物質 地球の明るいまいたいのために ・自然環境と人間 ・科学技術と人間 ・これからの私たちの暮らし				自然科学Ⅱ	週1時間	○自然科学Ⅱ ・我々をとりまく科学の探求 ・JAXA や国立天文台との連携授業 ・化学、生物のプレ学習

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携	
後期課程	セカンドステージ	4	<p>○化学基礎 物質の構造と化学変化を理解する</p> <p>物質の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の探求 ・物質の構成粒子 <p>物質と化学結合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 <p>物質の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質と化学反応式 ・酸と塩基 ・酸化還元反応 	<p>○生物基礎 遺伝・生体内の環境・生態系について理解する</p> <p>生物と遺伝子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の特徴 ・遺伝子とその働き <p>生物の体内環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の体内環境 <p>生物の多様性と生態系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生の多様性と分布 ・生態系とその保全 	化学基礎 生物基礎	2単位 2単位	
		5	<p>○物理基礎 運動とエネルギー、その他物理現象についての理解</p> <p>物体の運動とエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の表し方 ・様々な力とその働き ・力学的エネルギー <p>様々な物理現象とエネルギーの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱 ・波動 ・電気 ・エネルギーとその利用 ・様々な物理現象 	<p>○化学 物質の状態・物質の性質と反応の理解</p> <p>物質の状態と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態変化 <p>物質の変化と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応とエネルギー <p>無機物質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表 ・非金属元素 ・金属元素 <p>有機化合物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む脂肪族化合物 ・構造式の決定 ・芳香族化合物 <p>高分子化合物の性質と利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合成高分子化合物 	物理基礎 化学	2単位 2単位	
	サードステージ	6	<p>○物理 様々な運動・電磁気の理解 原子構造理解</p> <p>様々な運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面運動、剛体、運動量、円運動 単振動、万有引力、気体分子運動 <p>波動</p> <p>電気と磁気</p> <p>原子の物理学</p>	<p>○物理演習 物理全般の復習 国公立2次、私大一般入試の問題演習</p> <p>○化学基礎演習 化学基礎全般の復習 大学入学共通テストへの演習</p> <p>○生物基礎演習 生物基礎全般の復習 大学入学共通テストへの演習</p>	物理演習 物理演習 化学 化学基礎演習 生物 生物基礎演習 生物演習	4単位 2単位 4単位 2単位 4単位 2単位 2単位	
		<p>○化学 気体・固体の性質 平衡についての理解</p> <p>物質の状態と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気体の性質 ・固体の構造 ・溶液 <p>物質の変化と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反応の速さとしくみ ・化学平衡 ・高分子化合物の性質と利用 ・天然高分子化合物 <p>○生物 生命現象・生殖・環境・進化についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象と物質 ・遺伝子の発現制御 ・生殖と発生 ・生物の環境応答 ・生態と環境 ・生物の進化と系統 	<p>○生物演習 生物全般の復習 国公立2次、私大一般入試の問題演習</p>				

音楽科 6年間の指導計画

- 目 標 ○ 様々な表現活動の練習や発表の機会を通して、音楽を愛好する心情を育て、豊かな音楽表現の力を身につける。
 ○ 幅広い鑑賞活動を通じて、音楽を味わい、理解し、深く感受する力を養う。
 ○ 様々な音楽に触れ、幅広い情操教養を身につけることで、生涯音楽に関わっていく態度を育成する。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現に必要な基礎的な力を身につける。 音楽鑑賞に必要な基礎的な能力を身につける。 合唱活動を通し、集団で音楽を作り上げる楽しさを味わわせる。 独唱や独奏発表を数多く経験させ、個人の表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現に必要な幅広い力を高める。 鑑賞作品の背景や他の芸術とのつながりを理解し、幅広い鑑賞の力をつける。 小グループによる創作的な音楽作りや即興的演奏活動をする。 アンサンブル活動を通し、集団で取り組む音楽表現の創意・工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な音楽の理論を学ぶ。 高度な独奏や独唱の技術を身につける。 音楽史や作曲家の人生に触れ、多角的に音楽作品を理解する。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> 発声の基礎 混声2部合唱 混声3部合唱 アルトリコーダーの基礎 アルトリコーダーの発展 鑑賞（独唱・ピアノ独奏・合奏協奏曲・交響詩） 日本音楽の理解（箏） 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱祭との関わり アルトリコーダーのローテーション個人発表 	音楽	週1時間
		2	<ul style="list-style-type: none"> 発声の基礎 混声3部合唱 独唱（日本歌曲独唱） アルトリコーダーの発展 鑑賞（交響曲・組曲） 日本音楽の理解（歌舞伎） 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱祭との関わり 独唱テスト アルトリコーダー独奏 	音楽	週1時間
		3	<ul style="list-style-type: none"> 混声4部合唱 独唱（イタリア歌曲） アルトリコーダーの発展 小グループによるアンサンブル（4種類のリコーダーアンサンブル） 鑑賞（管弦楽・オペラ） 日本音楽の理解（能・文楽） 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱祭との関わり 独唱テスト リコーダーアンサンブル 	音楽	週1時間
後期課程	セカンドステージ	4	<ul style="list-style-type: none"> 混声4部合唱 独唱（イタリア、フランス歌曲） 小グループによるアンサンブル（小打楽器） 小グループによるアンサンブル（6種類のリコーダーアンサンブル） 小グループによるアンサンブル（トーンチャイム） 鑑賞（オペラ・バレエ） 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱祭との関わり 独唱テスト 小打楽器アンサンブル リコーダーアンサンブル トーンチャイムアンサンブル アンサンブル発表と撮影・評価 	芸術選択音楽Ⅰ	2単位
		6	<ul style="list-style-type: none"> 個人課題別演奏 受験の楽典 ソルフェージュ 任意の楽器による練習と発表 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏発表の撮影と評価 	選択科目音楽Ⅰ	1単位

美術科 6年間の指導計画

- 目 標 ・6年間の継続した美術の表現及び鑑賞の活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う。
- 創造する力と発想を表現へとつなげる力の伸長を目指す。
 - 豊かに発想し、表現力をつけるための技能・技術力の伸長を目指す。
 - 過去から現代にいたる日本及び世界の文化に対する知識と鑑賞力を育成する。
 - 教科外での貢献や学習や生活の中でも活用できる程度の美術の知識及び技能を、思考力・判断力・表現力をもって身に付ける。
 - 生活や社会の中で想像力や表現力を生かし、試行錯誤、調整力をもって生きていけるようにする。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
様々な素材を扱い、対象を観察する力、発想し構成する力や基礎的スキルを身につける。美術作品などについて基礎的な理解を広げる。	基礎的表現力、鑑賞力をもとに幅広い視野で、見通しを持ちながら表現活動を目指す。日本及び世界の文化の知識を育成し美術を通じた国際理解を深める。	より深い自己の追及により個性豊かな表現力を高める。鑑賞力の育成をめざし生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性と美意識を深める。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 3. 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・色の学習・レタリング・版画・彫刻） B 鑑賞 共通事項	・展示発表	美術	週1時間
		2	1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸） B 鑑賞 共通事項	・展示発表	美術	週1時間
	セカンドステージ	3	1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸） B 鑑賞 共通事項	・展示発表	美術	週1時間
後期課程	サードステージ	4	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。 2. 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 A 表現（絵画・デザイン・彫刻・映像メディア・工芸） B 鑑賞	・展示発表	芸術選択 美術Ⅰ	2単位
	サードステージ	5				
	サードステージ	6	芸術を通し、社会人・教養人として基礎を完成させる。 ○前期（各自のテーマにそって作品制作） ○後期（卒業制作・鑑賞）	・展示発表 ・受験対策	選択科目	2単位

書写・書道 6年間の指導計画

目 標 ・書写・書道の学習活動を通し、思考力、判断力、表現力を養い、生活や学習に生かす態度を育成する。また書写から書道への円滑な接続を図ることで書美への関心を高め、表現や鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統や文化を尊重する態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
書写の基礎・基本の習得および書字過程を重視した学習活動を通して、思考力や判断力、表現力を養う。文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる能力を育成する。	文字が果たす役割や文化としての意義について理解することで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養う。また、書道の幅広い活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を育成し、書の伝統や文化についての理解を深める。	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する態度を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育成する。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	1. 文字の基礎的知識の理解 ・漢字や仮名の由来 2. 書写(毛筆)の基礎・基本の習得 ・執筆・姿勢 ・用具・用材 ・筆使い ・筆順 3. 文、文章の書き方 ・字形や大小の捉え方 ・漢字と仮名の調和および配列 ・硬・毛関連学習	・展示発表	書写	週1時間
		2	1. 行書の書き方の習得 ・行書の特徴 ①速書き、筆脈 ②点画の連続 ③払い、はね、筆順の変化 ④点画の省略 2. 行書とそれに調和した仮名の書き方の理解 3. 多様な書字場面への活用 ・目的や必要に応じた筆記具や書体(楷書又は行書)の選択	・展示発表	書写	週1時間
	セカンドステージ	3	1. 文字の役割を考える ・身のまわりの多様な文字の発見 ・文字を手書き文字することの意義 ・文字の伝達性と表現性 2. 文字文化としての意義を考える ・伝統的な書式(手紙、慶弔袋等) ・文字の表現性と芸術性についての探究(毛筆による書簡や名跡・名筆等)	・展示発表	書写	週1時間
後期課程	セカンドステージ	4	1. 書道の学習目標の理解 ・書写と書道 ・表現と鑑賞 2. 漢字の書 ・書体の変遷 ・基本用筆の習得 ・古典の鑑賞・字形と線質の関係 ・創作(イメージ書)への活用 3. 文化祭展示 ・伝統的な表現形態の理解(裏打ち) ・展示鑑賞 4. 仮名の書 ・成立と種類・基本用筆の習得 ・単体と連綿・古筆の鑑賞と変体仮名の効用 ・散らし書きと余白美・創作への活用 5. 漢字仮名交じりの書(共同制作) ・創作法 ・自分達の今を表す言葉を考える ・意図に基づく表現の構想と工夫 ・これまでの書の学習を生かした作品制作	・展示発表 (美術館鑑賞)	芸術選択 書道 I	2単位
	サードステージ	5				
	サードステージ	6	1. 篆刻 ・印の歴史と篆書 ・印の効用 ・姓名印作成 2. 多様な書の美についての探究 ・漢字の書 古典の鑑賞 ・仮名の書 古筆の鑑賞 ・書の美の諸要素と表現効果 ・生活に生かす 3. 自主研究 ・自らの興味、関心に沿ったテーマ別研究および作品制作	・展示発表	選択科目 書道 I *	2単位

* 6年の選択科目は教育課程の都合上、設置しないこともある。

保健体育科 6年間の指導計画

目 標 ・健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育成する。また、健康の保持増進のための実践力を育成し、体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い運動経験 ・適切な健康管理と基礎的な体力の向上 ・積極的に運動し親しむ資質や能力の育成 ・運動や健康・安全についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保持増進のための実践力育成と体力向上 ・各種運動の特性の理解と運動技能の向上 ・公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な計画立案と運営 ・生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上 ・継続的に運動を実践する資質や能力の育成 ・公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数	
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・器械運動 (前期3年間で2回) <p>各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し親しむ資質や能力の育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様性 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防 ・心身の機能の発達と心の健康 		保健体育	週3時間
		2	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・武道 (前期3年間で2回) <p>各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し親しむ資質や能力の育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防 ・傷害の防止 		保健体育	週3時間
	セカンドステージ	3	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・ダンス (前期3年間で2回) <p>健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> ・文化としてのスポーツの意義 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と病気の予防 ・健康と環境 		保健体育	週3時間
後期課程	セカンドステージ	4	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・水泳 ・球技 <p>健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康 		体育 保健	2単位 1単位
		サードステージ	5	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・水泳 ・球技 <p>生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上を目指すと共に、継続的に運動を実践する資質や能力を育成し、運動における公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康 ・社会生活と健康 		体育 保健
	サードステージ	6	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・水泳 ・球技 <p>各種目について、自主的な計画立案と運営を行う態度を育成し、生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上、及び、公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 	・種目選択による 授業	体育	3単位

技術・家庭・情報科 6年間の指導計画

目 標 【技術分野】

体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータ活用に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際の生活に活用できる能力と態度を身につける。

【家庭分野】

実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住などに関する基礎的な知識と技術を習得し、毎日の生活に活用できる能力と態度を身につける。この力は、社会の一員として、リーダーとして、これからの展望し持続可能な社会を構成する一員としての基礎力になっていく。また、家族・福祉・消費生活に関する基礎的な知識を習得し、家庭生活に充実向上を図る能力と実践的態度を身につける。

【情報】

中学校・技術分野で学習した内容を土台にして、体系的・系統的に情報の科学的理解を進める「情報の科学」の学習を行い、情報活用能力を育成すると共に、情報化社会に参画する態度を身につける。

また、講義と演習を組み合わせ、さまざまな課題に対して問題解決を行うことができる思考力、推理力、応用力を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
○技術に関する基礎的な知識と技術の習得		
○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。		○社会の一員として生活の充実向上を図る能力と実践的態度の育成
○情報とコンピュータに関する基礎的な知識と技術の習得	○情報とコンピュータに関して、情報活用能力の基礎を養う	○情報とコンピュータに関して、生活と社会に応用する知識と技術の習得

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	○技術分野 A材料と加工に関する技術 Bエネルギー変換に関する技術 C生物育成に関する技術 D情報に関する技術	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野及び家庭分野の授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させる。 ・様々な学習で、コンピュータを活用できるようになる。 ・セキュリティ・発達の段階に応じた情報モラルの指導 	技術・家庭	週2時間
		2	情報とコンピュータの基礎 情報とコンピュータと私たちの生活			
	セカンドステージ	3			技術・家庭	週1時間
後期課程	セカンドステージ	4	○コンピュータと情報通信ネットワーク ○問題解決とコンピュータの活用 ○情報の管理と問題解決 ○情報技術の進展と情報モラル	セキュリティ・情報モラルの指導	情報の科学	2単位
	サードステージ	5	○人の一生と家族・家庭及び福祉 ○生活の自立及び消費と環境 ○持続可能な社会をつくる ○情報 他教科の学習への活用	社会の一員としてこれからの展望し持続可能な社会を構築する姿勢を身に着ける情報活用能力の育成を重視した他教科との連携指導	家庭基礎	2単位
		6	○マルチメディア	知的財産権の取り扱いと、現代社会におけるメディアの扱いに対する指導	選択科目	2単位

英語科 6年間の指導計画

目標 ・国際社会でツールとして使用できる英語力を身につける。

- 指導の特徴
- 少人数授業の実施...基礎・基本の充実。生涯学習の観点からの学習習慣の確立
 - 細かい目標設定による学力の把握・・・ 実用英語技能検定、GTEC等の活用
 - 外国人英語指導助手の活用による運用体験・・・ JET・ALTとのティーム・ティーチングの活用
 - 複数学年にわたる継続的指導・・・トレーニングマラソン（リスニング・多読等）による実践的な地力の向上
 - 学校設定科目...「文化科学Ⅳ（原典購読）」の設置

各ステージの目標

ファーストステージ 【基礎力養成期】	セカンドステージ 【活動実践期】	サードステージ 【応用発展期】
○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	○実践的能力を身につけ、異文化を理解する力を育てる。	○多様な意見や考えの受信・発信を通じて、世界と積極的に関わる力を育てる。
○自学自習の方法と習慣を身につける。		

課程	ステージ	学年	学習内容	学校行事との関連	関連教材 時間数	英検取得目標	GTECによる CEFR-J level 目標
前期課程	ファーストステージ	1	・be 動詞、一般動詞 ・命令文 ・can を用いた文 ・3人称単数 ・疑問詞 ・現在進行形 ・過去形 ・There is 構文 ・不定詞	スピーチ・コンテスト	NEW TREASURE STAGE 1 英語 週4時間	4級	A1-2(60%)
		2	・未来を表わす表現 ・助動詞 ・比較 ・副詞節を導く接続詞 ・接続詞 that ・第3、4、5文型 ・現在完了 ・動名詞 ・受動態	スキット・コンテスト 校内留学（希望者）	NEW TREASURE STAGE 1・2 英語 週4時間	3級	A1-3(60%)
	セカンドステージ	3	・名詞、不定代名詞、前置詞 ・後置修飾、分詞 ・関係代名詞 ・比較表現 ・間接疑問文・完了形 ・知覚、使役動詞 ・関係代名詞 ・関係副詞 ・過去完了	スベリング・コンテスト 校内留学（希望者） 日本文化のプレゼンテーション 海外ボランティア研修（希望者）	NEW TREASURE STAGE 2・3 英語 週4時間	準2級 2級	A2-1(60%)

※下線のついている学習内容は高等学校での学習内容を一部前期課程で取り入れた内容

課程	ステージ	学年	学習内容	学校行事との関連	関連教材 単位数	英検取得目標	GTECによる CEFR-J level 目標
後期課程	セカンドステージ	4	・副詞節 ・名詞節 ・不定詞 ・分詞、分詞構文 ・仮定法 ・動名詞 ・比較 ・話法 ・時制の一致 ・強調・倒置 ・プレゼンテーション	英語劇発表 海外ボランティア研修	コミュニケーション英語Ⅰ 3単位 英語表現Ⅰ 2単位	準2級 2級	A2-2(60%)
		5	・ディベート ・より高度な4技能の トレーニング	海外修学旅行	コミュニケーション英語Ⅱ 4単位 英語表現Ⅱ 2単位 文化科学Ⅳ（原典購読） 1単位	2級	B1-1(50%)
	サードステージ	6	・より高度な4技能の トレーニング	グローバル遠足	コミュニケーション英語Ⅲ 3単位 英語表現Ⅱ 2単位 コミュニケーション英語Ⅱ （選択科目）2単位	2級 準1級	B1-1(60%)

CEFR-J：CEFR(欧州共通言語参照枠)をベースに、日本の英語教育での利用を目的に構築された英語能力の到達度指標

CAN DO LIST

ファーストステージにおける目標

- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- ・自学自習の方法と習慣を身につける。

第1学年

聞く	<p>クラスルームイングリッシュの指示を理解し行動することができる。</p> <p>得意なことや好きなことについての説明を聞き取ることができる。</p> <p>英検4級程度の英語を聞いて十分理解できる。</p>
話す (発表)	<p>日常的にすることや好きなものについて話すことができる。</p> <p>テーマに沿った内容について1分以上自信を持って発表できる。(学習発表会)</p>
話す (やり取り)	<p>初対面の挨拶を、相手の目を見てはっきりした声で行える。</p> <p>身の回りの物について質問したり、答えたりできる。</p>
読む	<p>家族や友だちの紹介文の内容を読み取ることができる。</p> <p>一分間に70語程度のスピードで教科書の英文を音読できる。</p> <p>一分間に50語程度のスピードで英文を読んで内容を理解することができる。</p>
書く	<p>アルファベットの大文字・小文字の音を知ったうえで、正確に書くことができる。</p> <p>スペリングコンテストで8割以上の語句を正確につづることができる。</p> <p>テーマに沿った内容を30語以上の英文で書くことができる。</p>

英語を用いた活動

- ・1学期 - 自己紹介(やり取り)、好きなものについて話す、フォニックスに関するインタビューテスト
- ・2学期 - 'My Family' についてのスピーチ(クラス内発表)、スペリングコンテスト
- ・3学期 - English Presentation Day に向けてのスピーチ

年間目標トレーニング時間：180時間 (一日30分・音読および音読筆写)

第2学年

聞く	<p>教科書の内容に関する Oral Introduction を理解することができる。</p> <p>英検3級程度の英語を聞いて十分理解できる。</p>
話す(発表)	<p>フォニックスをマスターし、正しい発音で文字を音声化できる。</p> <p>身近なことや教科書に内容について、英語で伝えることができる。</p> <p>テーマに沿った内容について2分以上自信を持って発表できる。</p> <p>教科書で学んだ会話表現などを使い、普段の生活についてのスキットをペアで発表することができる。(学習発表会)</p>
話す(やり取り)	<p>身近なことや教科書の内容について述べられたものを理解し、聞き取れないところは質問することができる。</p>
読む	<p>簡単な物語や興味関心のある文章を読んで理解することができる。</p> <p>一分間に80語程度のスピードで英文を読んで内容を理解することができる。</p>
書く	<p>手紙文等で正しい文章形式で書くことができる。</p> <p>「初め、中、終わり」を意識した英文を60語以上で書くことができる。</p>

英語を用いた活動

- ・1学期 - 簡単な洋書をたくさん読む。(多読指導を開始する)
- ・2学期 - 助動詞を使ってのスキットを作る。
- ・3学期 - English Presentation Day に向けてのスキットを作る。

年間目標トレーニング時間：180時間 (一日30分・音読および音読筆写)

多読：自分の興味がある内容の簡単な洋書を10冊以上読む。

セカンドステージにおける目標

- ・実践的能力を身につけ、異文化を理解する力を育てる。

第3学年

聞く	JET、ALTによる教科書のOral Introductionを理解することができる。 英検準2級程度の英語を聞いて十分理解できる。
話す(発表)	日常生活の身近な話題(ニュースなど)について話すことができる。 奈良・京都・日本文化などの内容について3分程度で発表できる。(学習発表会)
話す(やり取り)	日本文化について説明したり、他国の文化などについて質問することができる。 相手の意見を踏まえたうえで、自分の意見を理由とともに述べるができる。
読む	色々な国についての英文や簡単な論説文の内容を読み取ることができる。 一分間に90語程度のスピードで英文を読んで内容を理解することができる。
書く	日本の文化や伝統について150語程度で書くことができる。

英語を用いた活動

- ・1学期 - 30秒の「英語によるコマーシャル」を作り発表する。
- ・3学期 - 奈良・京都について英語でプレゼンテーションを行う。

目標トレーニング時間：270時間（一日45分・洋書を読む、音読および音読筆写）

多読：ビギナーレベル、レベル1、2、の洋書を10冊以上読み読書記録をつける。

第4学年

聞く	オンライン英会話で相手の言っていることをほぼ理解できる。 教科書の英文を聴くだけで7割理解できる。
話す(発表)	スキットの模範例文を暗唱し、自分で制作したスキットを発表する。 インタビューテストで自分の考えをはっきりと伝えることができる。 グループ(6~7人)で、3分以上のオリジナルの英語劇を作り発表する。(学習発表会)
話す(やり取り)	オンライン英会話で相手に自分の意図を伝えられる。 オンライン英会話で自分の考えをはっきりと伝えることができる。
読む	教科書レベルの内容を100wpmのスピードで80%の理解度(大体分かる)を保ち、理解することができる。
書く	英語劇のシナリオを書くことができる。

英語を用いた活動

- ・1学期 - 2分以上のペアによるスキットを作り発表する。
- ・2学期 - 教科書の内容についてレポートするインタビューテスト
- ・3学期 - 6~7人のグループで英語劇を演じる。

目標トレーニング時間：270時間（一日45分・洋書を読む、音読および音読筆写）

多読：レベル3、4、またはそれ以上のレベルの洋書を10冊以上読み、読書記録をつける。

*台湾姉妹校の本校訪問時の対応学年

サードステージにおける目標

・多様な意見や考えの受信・発信を通じて、世界と積極的に関わる力を育てる。

第5学年

聞く	簡単な英単語の英語による説明を聞いて、どの単語の説明か聞いて分かる。 教科書で学んだ内容に関して、理論的に述べられた内容を理解することができる。
話す（発表）	教科書の内容について 100 wpm で話すことができる。
話す（やり取り）	教科書で学んだ内容に関して、理論的に述べられた内容に対して反対意見を述べる ことができる。 (ディベート)
読む	教科書レベルの内容を 80%の理解度（大体分かる）を保ち、読んで理解することができる。
書く	教科書で学んだ内容（約 200 語）を 60 語程度でまとめることができる。 海外で体験したことや感じたことについてグローバルエラーなしに、500 語ほどのエッセイを書く ことができる。（海外修学旅行のまとめ） ディベートのテーマに関して、理論展開を意識して 400 語ほどのエッセイを書くことができる。

英語を用いた活動

- ・1 学期 - スピーチレシテーション 例 - 「チャップリンの独裁者」一人約 1 分 30 秒のスピーチ
- ・2 学期 - 海外修学旅行エッセイ A4 サイズ一枚
リレーノートによる英語の交換日記
- ・3 学期 - ディベート デベートの内容についてのまとめ A4 サイズ一枚

目標トレーニング時間：360 時間（一日 1 時間・英作文、洋書を読む、音読および音読筆写）

多読：長文読解等の英文とする。

*海外修学旅行・台湾姉妹校と現地で交流

第6学年

聞く	全体 - 共通テストのリスニングレベルのものを 80 %以上理解できる。 発展 - CNN の概要を理解することができる。
話す（発表）	教科書の内容について 110 wpm ほどのスピードで話すことができる。 教科書で学んだ内容に関して、理論的に述べられた内容に対して反対意見を述べる ことができる。 社会的な問題について自分の意見を相手に理解してもらえるように、準備して話す ことができる。
話す（やり取り）	学んだ内容を、わかりやすく相手に伝え、また、相手の考えも 尋ねるなどの意見交換 ができる。 発展 - CNN のニュース内容を第 3 者にレポートすることができる。
読む	教科書レベルの英語を初見であっても 125 wpm ほどのスピードで読み概要を 理解できる。
書く	与えられたテーマで、構成を意識しながらエッセイを書くことができる。 社会的・文化的テーマについて、自分の意見を理由を含め理論的に書く ことができる。 (入試の和文英訳を大きなミスなく書くことができる。)

英語を用いた活動

- ・1 学期 - 発展 - CNN のレポート エッセイライティング
- ・2 学期 - 発展 - 社会的問題に対して自分の意見発表

目標トレーニング時間：400 時間（大学受験に向けての学習期間であるので記録は
つけない）

多読・精読：大学入試問題等の英文を読む。

総合的な学習の時間 6年間の指導計画

目 標 ・人生設計学と称し、自ら調べ、話し合い、発表等を通して豊かな人間性を育てる。一般常識、礼儀作法、ルール、マナー、討論の基礎等を学習し、職場体験やボランティア体験などの体験活動を通して実践力やコミュニケーションの力を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するのに必要な基礎的、基本的な資質や能力を育てる。	○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するのに必要な、より実践的な資質や能力を育てる。	○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するのに必要な、より高度で実践的な資質や能力を育てる。

課程	ステージ	学年	活動内容	授業時数	学校行事	学年行事	進路学習		
前期課程	ファーストステージ	1	○思いやり・人間愛 中学生ができるボランティア体験 ・講演会 ・グループ体験 ○校外学習	50時間	入学式 生徒会・部活紹介 生徒会役員選挙	○校外学習 ○百人一首大会	○ボランティア体験 ○職業研究 ・働くことについて ・職場見学 ○自分自身について知る		
		2	○思いやり・人間愛 農業体験 ・ボランティア活動の一環 ・自然と触れ合い、日本の農業について学習する。 ○伝統文化体験	70時間	生徒総会 鷹校祭 ・文化祭 ・体育祭 合唱祭	○校外学習 ・農業体験 ○職場体験 ○百人一首大会	○職業研究 ・農業体験 ・職場体験 ・職業について研究を深める ○どんな人間になりたいか		
	セカンドステージ	3	○思いやり・人間愛 中学生ができるボランティア体験 ○伝統文化体験 ・能楽体験 ・京都伝統文化体験	70時間	卒業式	○大学訪問 ○都内巡り遠足 ○研修旅行(京都・奈良)	○職業研究 ・職業と学部、学科の関連 ・職業と大学の関連 ○どんな職業に就きたいか ○自分の社会参加について考える		
後期課程	セカンドステージ	4	○人間関係形成能力 *奉仕活動を通じた社会に貢献する態度の育成 ・奉仕活動 ・奉仕活動実践報告 *プレゼンテーション能力の育成	35時間	○情報活用能力 *発表活動による学習成果の共有 *職業調べIV ・職業、資格研究	○将来設計能力 *大学と職業の関係調べ ・学部、学科研究 *将来設計プランの策定 *進路適性検査	○意思決定能力 *課題学習II ・セカンドステージ探究 ・セカンドステージ探究発表	○高大連携校への授業参加 ○奉仕実践報告会	○大学模擬授業 ○職業研究 ・職業、資格研究 ・学部、学科研究
	サードステージ	5	○人間関係形成能力 *プレゼンテーション能力の育成 *自文化理解 *海外修学旅行 ・国際理解の一環として、海外修学旅行先の台湾の地理、歴史、文化について学習する	35時間	○情報活用能力 *発表活動による学習成果の共有 *大学研究	○将来設計能力 *各界リーダーを招いての講演会 *進路講演会 *進路適性検査 *進路希望調査	○意思決定能力 *大学模擬授業 *サードステージ探究	○修学旅行(海外) ○高大連携校への授業参加	○大学模擬授業
	6	○人間関係形成能力 *プレゼンテーション能力の育成	35時間	○将来設計能力 *進路希望調査	○意思決定能力 *大学模擬授業 *サードステージ探究 *サードステージ探究発表 *在卒懇談会	○グローバル遠足 ○高大連携校への授業参加 ○在卒懇談会	○大学模擬授業		

道徳 6年間の指導計画

目 標 ・道徳の時間を中心に、他人を思いやる心と互いに助け合う心をはぐくむとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。また、自己の生き方、在り方を考えさせるとともに、地域や社会、ひいては世界の平和や人類の幸福に貢献する態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
「思いやり」と「勤労」	「責任」と「奉仕」	社会的リーダーとしての「奉仕」と「社会貢献」

課程	ステージ	学年	学習内容	学校特設科目・学校行事などとの関連
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康の増進を図り、より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。 ○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心を持ち、友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合う。 ○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するとともに、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。 	文化一般：情操の育成 文化科学Ⅰ：話し合い、心情理解力 校外学習：団結力、協力、環境保全
		2	<ul style="list-style-type: none"> ○礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとるとともに、多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝しそれにこたえる。 ○社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 ○それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があつたことを理解して、寛容の心を持ち謙虚に学ぶ。 	自然科学Ⅰ：論理的思考力 校外学習：農業体験、持続可能な生態系利用 職場体験：勤労意識の向上、郷土愛
	セカンドステージ	3	<ul style="list-style-type: none"> ○自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持ち、真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○法や決まりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるよう努める。 ○自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。 ○世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 	自然科学Ⅱ：科学的な見方、考え方 研修旅行：伝統文化理解
後期課程	サードステージ	4	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の尊重と自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上と、よりよい校風をつくるとともに、他者や異性、ジェンダーフリーについての理解を深め、相手の人権を尊重する態度を身につける。 ○郷土や自然を愛する心を養い、進んでボランティア活動や自治的な活動に取り組み、地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、理解を深める。 	文化科学Ⅱ：社会連帯、公正公平、権利と義務 総合的な学習「奉仕」：相互扶助、公德心
		5	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい生活習慣及び節度ある生活ができるように自主的に計画を立て実践し、自己を見つめて自己の向上を図るとともに、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○国際社会の一員として、国家の発展に努めるとともに、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 	修学旅行（移動教室）：異文化理解 総合的な学習：個性の伸長、個性の尊重
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○家族への敬愛と感謝の念を深め、家族の一員としての自覚を持って、充実した家庭生活を築くとともに、生命のつながりについても、理解を深める。 ○より高い目標を目指し、希望と勇気を持って着実にやり抜く強い意志を持つとともに、人間としての在り方生き方についても考える。 	文化科学Ⅳ：国際理解、異文化理解 総合的な学習：理想社会の実現	

キャリア教育 6年間の指導計画

目 標 ・教科の学習、課題学習、論文作成、プレゼンテーション、その他各活動を通して、①人間関係形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力を育成するとともに、「総合的な学習の時間」を中心に、さまざまな体験的学習を行い、自己の将来のあり方について目標を設定させ、明確な目的をもって進むべき大学・学部等を選択する力を身につける。社会的リーダーとしてどのように社会に貢献していくべきか考える力を身につける。

各ステージの目標

ファースト（1・2年）【基礎力養成期】	セカンド（3・4年）【活動実践期】	サード（5・6年）【応用発展期】
○体験的学習を通して、地域社会と自分とのかかわりを学び、職業観、勤労観を育成する。 ○自己の適性や能力を理解し、また自分の周りの仲間について理解し、人間関係形成能力を高める。	○人間の生き方について学ぶとともに、自己の適性について理解を深める。 ○進路についての情報収集と活用により、自己の将来の進路について考察する。	○卒業後の生き方を見ずえて、進路目標を決定する。 ○自己の適性を考慮し、進路実現に向けて具体的な準備を進めるとともに、6年一貫教育のまとめを行う。

課程	ステージ	学年	進路学習との関連場面			学年行事	備考		
			【総合的な学習の時間】 ・プレゼンテーション能力の育成① ・グループによる協働① ・発表活動による学習成果の共有②	【特別活動】	【教科】				
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> 働くことについて③ 職業について②③ 職場見学③④ 自分や仲間のことを知る① 	職業研究	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習① 個人面談④ 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱祭① 体育祭① 文化祭①②③ ホームルーム① 移動教室 事前学習② 部活動①③ 球技大会① 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習① 実験、実習① コミュニケーション能力の育成① 情報の整理と活用② 	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習 職場見学 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後、土曜、夏期補習 学力推移調査 朝読書
		2	<ul style="list-style-type: none"> 職業について研究を深める② 職場体験③④ 農業体験① 地域と接して学ぶ② ステージ探究発表会②③ 		<ul style="list-style-type: none"> 農業体験①③ 個人面談④ 			<ul style="list-style-type: none"> 実験、実習① コミュニケーション能力の育成① 情報の整理と活用② 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験 農業体験
後期課程	セカンドステージ	3	<ul style="list-style-type: none"> 学部学科研究② 大学訪問②④ 社会とかかわりながら学ぶ② 多摩地区国公立大学合同説明会② 	大学訪問	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談④ 研修旅行② 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、委員会活動③ セーフティ教室③ 進路説明会④ オープンキャンパス④ 	<ul style="list-style-type: none"> 理論的思考力の開発② 学力推移調査② 生活、家庭、保育の学習③ 言語能力と情操の育成③ 社会参加意識の啓発③ 	<ul style="list-style-type: none"> 大学訪問 研修旅行（関西方面） 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後、土曜、夏期補習 学力推移調査 朝読書
		4	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携、大学模擬授業④ 進路希望調査③ 奉仕活動を通じた社会に貢献する態度の育成① ステージ探究発表会②③ 		<ul style="list-style-type: none"> 個人面談④ 勉強合宿② 			<ul style="list-style-type: none"> 生活、家庭、保育の学習③ 言語能力と情操の育成③ 社会参加意識の啓発③ 	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕実践報告会 高大連携校への授業参加 勉強合宿
後期課程	サードステージ	5	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携、大学模擬授業④ 将来設計プランの作成③④ 進路希望調査③ 	進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談④ 海外修学旅行② 勉強合宿② 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後を見ずえた科目の選択④ 思考力と意思決定能力の育成④ 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の活用② 	<ul style="list-style-type: none"> 海外修学旅行 高大連携校への授業参加 勉強合宿 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後、土曜、夏期補習 学力診断テスト 朝読書
		6	<ul style="list-style-type: none"> 大学模擬講義④ 大学別進路ガイダンス② 分野別進路ガイダンス② 進路講演会③ 進路希望調査③ 在校生卒業生懇談会④ ステージ探究発表会②③ 		<ul style="list-style-type: none"> 個人、三者面談④ 			<ul style="list-style-type: none"> 図書館の活用② 	<ul style="list-style-type: none"> 在卒懇談会 高大連携校への授業参加

東京都立 三鷹中等教育学校 道徳教育全体計画（後期）

<p>関係法令等</p> <p>日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領</p>	<p>学校の教育目標</p> <p>社会的リーダーとしての資質を持つ生徒を育成するため、次の教育目標を定める。</p> <p>①互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心を持った豊かな人間性を養う。</p> <p>②高い見識と幅広い視野を培う。</p> <p>③自立と共生の精神を養う。</p>	<p>道徳教育の推進体制</p> <p>○ 企画調整会議</p> <p>校長の方針の下で各分掌を取りまとめ、全校的事項を協議し、全体計画の実施状況の確認等を行う。</p> <p>○ 教務部</p> <p>各教科・科目の指導内容・状況をまとめる。</p> <p>○ 生活指導部（下欄）</p> <p>○ 進路指導部</p> <p>学年、他分掌等と連携し、キャリア教育の観点で3年間に亘る指導を行う。</p>
<p>社会の要請、地域や生徒の実態等</p> <p>【地域の实情】 穏やかな地域</p> <p>【学校の实情】 学習意欲が高い生徒が多い</p> <p>【教師の願い】 思いやりの心を持った社会的リーダーの育成</p> <p>【保護者の願い】 生活面と学習面の両立</p>	<p>道徳教育の重点目標</p> <p>思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を主題に、社会的リーダーとして必要な判断力と行動力、思いやりの心を育成する。</p>	

<p>各教科・科目、人間と社会、総合的な学習の時間、特別活動との関連</p>	
<p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら調べ、話し合い、発表等を通して豊かな人間性を育てる。 ・一般常識、礼儀作法、ルール、マナー、討論の基礎等を学習し、職場体験やボランティア体験などを通して実践力やコミュニケーションの力を育成する。 <p>【特別活動】</p> <p>学級活動……教師と生徒、生徒相互の理解を深め互いに尊重する態度を育成する。</p> <p>生徒会活動…自主的な活動を重んじ、進んで公共のために奉仕する態度を養う。</p> <p>学校行事……集団の一員として自覚を持ち、規律ある集団生活を築くと共に助け合いや協力の態度を養う。</p> <p>【人間と社会】</p> <p>他者とのかかわりの中、道徳性を養い、学んだことを生かして主体的に選択し行動する力を育成するとともに、勤労・ボランティア活動を体験的に学び、社会の一員として考え、行動できる態度を身につけさせる。</p>	

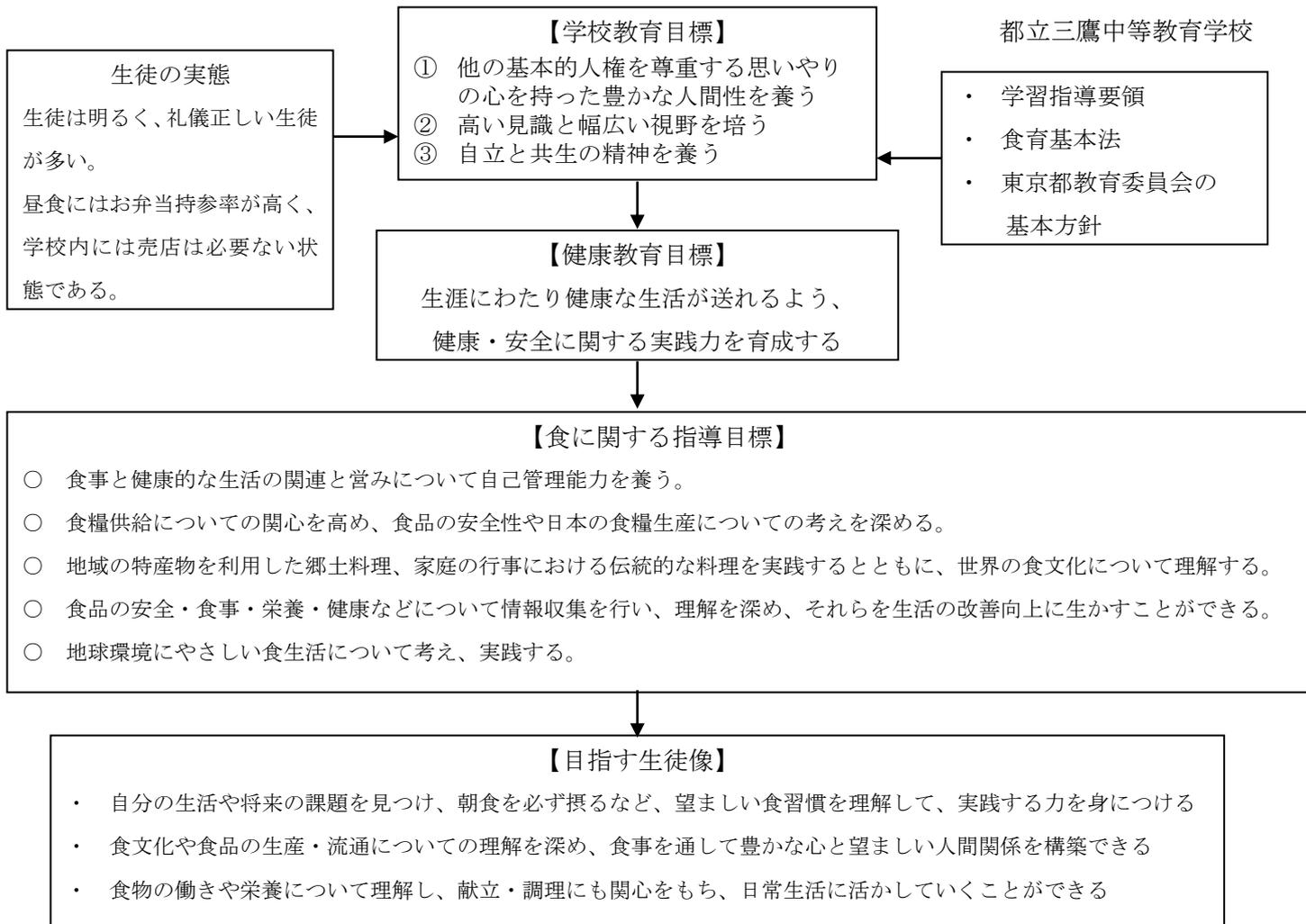
<p>生徒指導等との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心を持てる集団を育成する。 ・健康で安全な学校生活を送れるよう集団を育成する。 ・自らの進路を自ら切り開ける生徒を育成する。 	<p>学校の環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるような環境を整備する。 ・生徒と教師、生徒相互の望ましい人間関係を育てる。 ・図書館の整備、充実に努める。 ・校内（屋上）緑化を推進する。
<p>家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。 ・学校公開日、授業参観、道徳地区公開講座、学校運営連絡協議会やPTA 運営委員会等を通じ、道徳の授業を活性化させる。 	<p>異校種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。 ・学校公開日、授業参観、道徳地区公開講座を通じ、道徳の授業を活性化させる。 ・大学模擬講義（出張講義）などの進路行事を多くの大学と連携しながら実施する。

特別活動全体計画

<p>日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領 都教委の教育目標</p>	<p>【学校の教育目標】 *互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心を持った豊かな人間性を養う *高い見識と幅広い視野を培う *自立と共生の精神を養う</p>	<p>【学校・地域の実態】 ・学習意欲が高い ・落ち着いた環境 ・部活動や行事が盛ん 【保護者の願い】 ・充実した進路指導 ・いじめ等のない安心できる学校</p>
<p>【教科指導の重点】</p>	<p>【学校像】 ①教養教育により広く深い教養、知性を培う学校 ②世界的視野をはぐくむ学校 ③豊かな人間性を育成し、望ましい職業観・勤労観を涵養する学校 ④一人一人の生徒の進路希望を実現する学校 ⑤地域社会とともに歩む学校 ⑥生徒が切磋琢磨する活力ある学校 ⑦中高一貫教育校としての一体性を重視する学校</p>	<p>【総合的な学習の時間】 ①将来の在り方生き方を考え、社会に貢献しようとする志や使命感を育むために「人生設計学」を設定し、系統的なキャリア教育を展開しながら、進路希望を実現させる。 ②ボランティア活動や校外学習等の体験的活動を通して、実践力、コミュニケーション能力を育成し、思いやりの心と人間関係形成能力を培う。 ③自らの生き方と職業との関わりを考えさせ、職場見学や職場体験、講演会等の体験的学習等を計画的に行いながら、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ④自然・社会・人文科学を中心に教科横断的な課題学習を行い、各ステージのまとめの論文の作成・発表を通してプレゼンテーション能力を育成する。</p>
<p>国語 読むこと・書くことの基礎となる、漢字・語彙の学習に継続的に取り組み、国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成する</p>	<p>【育てたい生徒像】 ① 社会的リーダーを目指す生徒 ② 学習活動と、特別活動・部活動等の両立を目指し、限界までチャレンジする生徒 ③ 幅広い視野を持ち、すべての教科を意欲的に学習する生徒 ④ 高い目標を持ち最後まで努力する生徒 ⑤ 自主的、意欲的に取り組む生徒</p>	<p>【道徳教育の指導】 ①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的实践力を育成する。</p>
<p>社会 社会科学の基礎的な知識の確実な習得に努め、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心を身に付けさせる</p>	<p>【特別活動】 ①各学級の班活動や係活動を重視し、自己と他、集団との関わりを尊重する態度を育成する。生徒の自主性・自発性を重んじ、与えられた責任、使命を自覚できる人間に育てる。 ②生徒会、委員会、学級活動相互の連携を図り、学校行事の企画・立案・運営に主体的・自主的に関わる態度を育てる。異年齢集団との関わりの中から、集団との関わり方を学習し、達成感や成就感を実感させる。 ③部活動等の異年齢集団における継続的な活動において、目的を共有し互いに切磋琢磨することで、互いを尊重し合う豊かな人間関係を育て、個性や能力の伸長を図る。 ④集団への帰属意識の高まりや、学校生活の充実と発展を促す学校行事を実施し、異年齢集団における交流を深め、思いやりの心をもつ豊かな人間性を育て、社会的リーダーとしての資質を養う。</p>	<p>【生活指導】 ①あいさつの励行、礼儀正しい態度や身だしなみ、集団生活でのマナー、規範意識の育成等、きめ細かく規律ある生活指導を通して、社会性、協調性、規範意識などを育成する。 ②生活指導全体計画に基づいて全教職員が協力した、生徒の発達段階に応じた生活指導を行い、基本的な生活習慣や生活態度を身に付けさせる。 ③スクールカウンセラーを活用し、学校全体で教育相談体制を組織する。</p>
<p>数学 習熟の程度に応じた授業を実施し、発展的な内容や基本的な概念、原理・法則を理解させ、数学的な表現や処理の仕方を習得させる</p>	<p>【保健体育】 健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質、能力と、明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成</p>	<p>【学校行事】 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。 儀式的行事：始業式（4,8,1月）、入学式（4月）、終業式（7,12月）、修了式（3月） 学芸的行事：文化祭（9月）、芸術鑑賞教室（7,2月） 集団宿泊行事：宿泊防災訓練（6月）、海外修学旅行（11月） 健康安全・体育的行事：健康診断（4月）、体育祭（9月）、避難訓練・安全指導（12回） 勤労生産・奉仕的行事：美化デー（毎月）、清掃（毎日）</p>
<p>理科 自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探求する力と、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる</p>	<p>【HR活動】 学級を単位として、学級や学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。 (1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること (2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること (3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること</p>	<p>【生徒会活動】 学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動を行うこと。 学校生活の充実、改善向上を図る活動：生徒総会（5月） 学校行事への協力に関する活動：文化祭・体育祭（9月） 中高一貫校連携事業における生徒会連絡会（11月）</p>
<p>音楽 音楽を深く感受する力を養い、個性的で豊かな表現に必要な音楽技術を身につけ、自己表現力を高める</p>	<p>【情報・家庭】 体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用、自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を育てる</p>	<p>【外国語】 習熟の程度に応じた少人数指導を実施し、ALTを活用しながら英語への興味・関心を喚起するとともに、語彙・定型表現等の基礎・基本の定着を図る</p>
<p>美術 生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う</p>	<p>【外国語】 習熟の程度に応じた少人数指導を実施し、ALTを活用しながら英語への興味・関心を喚起するとともに、語彙・定型表現等の基礎・基本の定着を図る</p>	<p>【外国語】 習熟の程度に応じた少人数指導を実施し、ALTを活用しながら英語への興味・関心を喚起するとともに、語彙・定型表現等の基礎・基本の定着を図る</p>

「食に関する指導」の全体計画

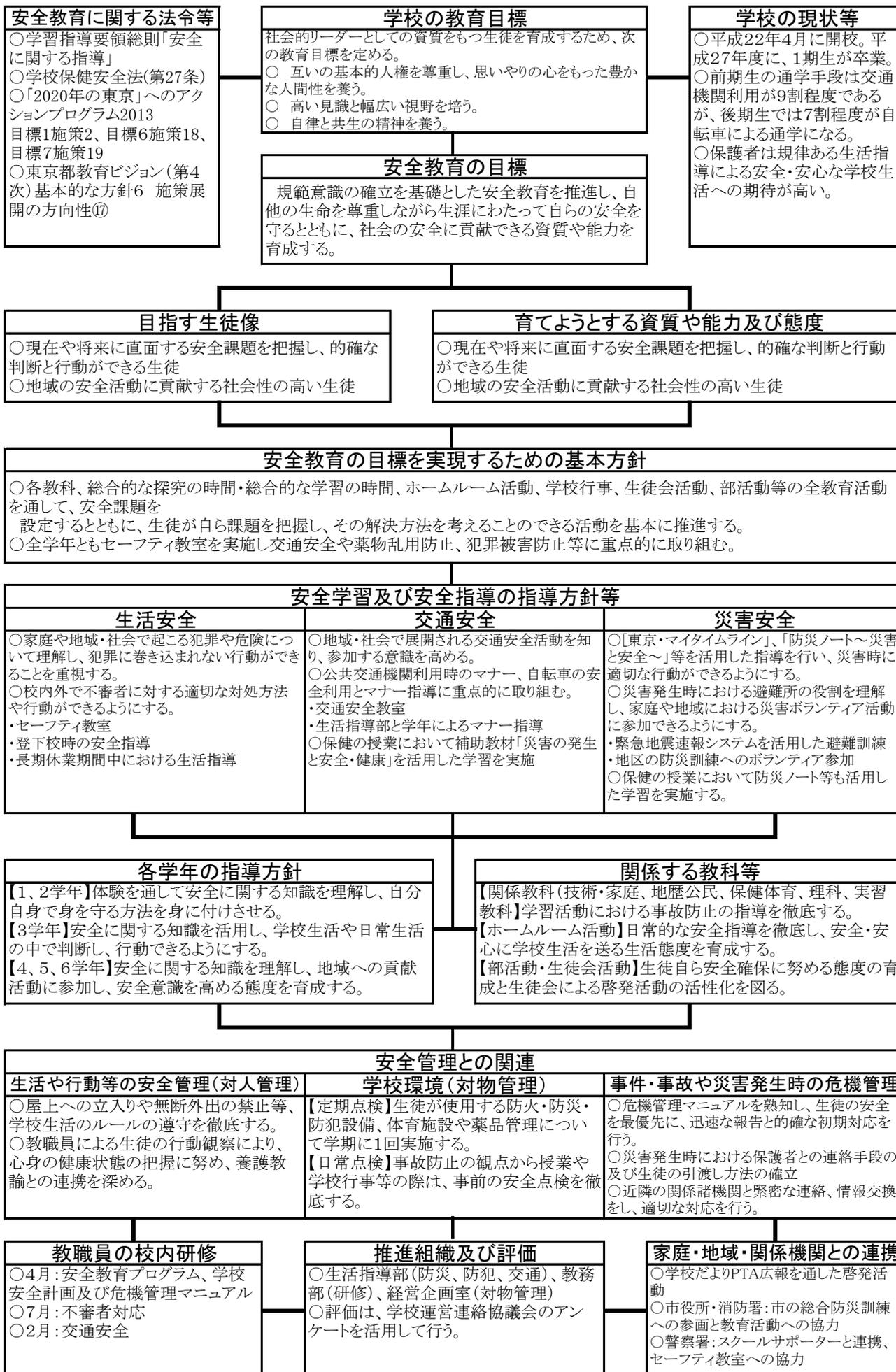
都立三鷹中等教育学校



- ・ 学習指導要領
- ・ 食育基本法
- ・ 東京都教育委員会の基本方針

各教科・科目との連携	普通教科・科目	地理歴史	・ 日常生活にみる世界の歴史（衣食住、家族） ・ 資源 産業（食料問題） ・ 生活文化 民族・宗教（食生活と宗教）
		理科	・ 化学と人間生活 ・ 天然高分子化合物 ・ 有機化合物と人間生活
		保健	・ 健康的な食生活の重要性と意義 ・ 健康的な食生活習慣の形成 ・ 食品衛生活動のしくみと働き ・ 食品と環境の保健と私たち
		外国語	・ 食事場面での表現
		家庭基礎	・ 生活の自立と消費と環境（食生活をつくる） ・ 自立して生きる（楽しく安全に食べる）
総合的な学習の時間		・ 環境 ・ 世界的な食糧問題 ・ 遺伝子組み換え作物	
特別活動	HR 指導及び学校行事	・ 食生活について ・ 生徒保健委員会	
奉仕		・ 食事マナーとサービス ・ 高齢者施設における食生活に関わる奉仕体験	
家庭・地域との連携		・ 学校保健委員会 ・ 保健室来室時の個別指導 ・ 保護者会 ・ P T A 便り	

令和3年度 学校安全計画 全体計画



10月	11月	12月	1月	2月	3月
	部活動における事故防止 2-②	冬休みの生活と安全 (学級活動)4-①~⑩	登下校の安全 (ホームルーム活動) 1-①、4-③⑤ 部活動における事故防止 2-⑤		春休みの生活と安全 (学級活動)4-①~⑩
		自動車事故と保険 (ホームルーム活動) 2-①			春の全校交通安全運動の理解と参加 (ホームルーム活動)2-①、4-①
				家庭の防災対策 (ホームルーム活動) 8-②③	「地震と安全」を活用した安全 学習(学級活動)2-①~④
			「地震と安全」を活用した安全 学習(学級活動) 3-①~④		緊急地震速報を活用した避難訓練(学校 行事) 2-①②③④、7-②③
不審者への対応「危険や犯罪に対する正しい理解」 (ホームルーム活動)2-⑤⑥⑦					
		事故の当事者にならないために(ホーム ルーム活動) 2-①②③④⑤			自転車に乗るときの安全確保 (ホームルーム活動) 3-①②③
			地域の安全に貢献する 「コミュニケーションを高める」 (ホームルーム活動)6-②③		
修学旅行事前指導・確認 「事故・犯罪に遭わないために」 「交通事情の確認」 「災害遭遇時の対応」 (ホームルーム活動)					
	二輪車、四輪車事故の原因と加害者の責任、補償(学校行事)2-③、3-①	事故の当事者にならないために(ホーム ルーム活動) 2-①②③④⑤			自転車に乗るときの安全確保 (ホームルーム活動) 3-①②③
地域防犯活動の理解と役割(ホームルーム活動)4-⑩⑪					
		自転車事故と加害者の責任(ホームルーム活動)3-①②③			
				交通安全、交通事故の初期対応、加害者の責任と保険加入	